

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽科指導法						
担当教員	奥村 正子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校音楽科の授業者に必要な知識、技能について学ぶ。						
授業の概要	小学校学習指導要領「音楽科」の内容を理解する。表現・鑑賞の教材研究を行う。「音楽科」を担当するために必要な具体的・実践的な知識と技能を身につける。						
到達目標	小学校学習指導要領「音楽科」の各学年の内容と目標について説明できる。 共通歌唱教材全24曲について、歌詞の意味、楽曲の作られた背景が説明でき、弾き歌いができる。 小学校で学ぶ音楽用語と記号について、教材を使用して実際の音で説明することができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明・小学校学習指導要領「音楽科」の目標と内容 第2回 わが国の音楽教育の歴史と動向 第3回 「歌う」（1）：子どもの音楽的発達と歌唱教材 第4回 「歌う」（2）：自分の声・声の知識・指導の実際 第5回 「楽器を弾く」（1）：音を奏でる・色々な楽器 第6回 「楽器を弾く」（2）：合奏実習 第7回 アンサンブルの発表と楽典の確認 第8回 「聴く」（1）：世界の様々な音楽 第9回 「聴く」（2）：日本の伝統音楽（ゲストスピーカーによる箏曲のワークショップ） 第10回 「音楽をつくる」（1）：リズムを中心に 第11回 「音楽をつくる」（2）：声や音の重なりを中心に 第12回 「動く」：音楽と身体 第13回 指導計画と授業づくり 第14回 音楽科の評価 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	共通歌唱教材は、弾き歌いができるように練習をしておくこと。 次回の授業までに、指定したテキストの該当箇所を予習してくること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点30% 発表（模擬授業など）30% 試験40% 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。						
教科書	教員養成課程「小学校音楽科教育法」 編著者：有本真紀他 発行者：教育芸術社						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技Ⅰ						
担当教員	奥村 正子・河瀬 里子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得						
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。中間試験と期末試験を実施する。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために教師・保育士に求められている感性を磨くこと、ピアノ演奏技能の向上を目標とする。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第2回 ピアノの基礎技能1 姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第3回 ピアノの基礎技能2 フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第4回 グレード毎の課題曲の解説 及び個人レッスン 第5回 読譜のために 及び個人レッスン 第6回 拍子について 及び個人レッスン 第7回 リズムについて 及び個人レッスン 第8回 中間試験 及び個人レッスン 第9回 コードネームについて 及び個人レッスン 第10回 歌うこと1：発声法 及び個人レッスン 第11回 歌うこと2：子どもの歌唱教材 及び個人レッスン 第12回 調性1：長音階 及び個人レッスン 第13回 調性2：短音階 及び個人レッスン 第14回 楽典の確認テスト 及び個人レッスン 第15回 期末試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技Ⅰ						
担当教員	奥村 正子・河瀬 里子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得						
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。中間試験と期末試験を実施する。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために教師・保育士に求められている感性を磨くこと、ピアノ演奏技能の向上を目標とする。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第2回 ピアノの基礎技能1 姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第3回 ピアノの基礎技能2 フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第4回 グレード毎の課題曲の解説 及び個人レッスン 第5回 読譜のために 及び個人レッスン 第6回 拍子について 及び個人レッスン 第7回 リズムについて 及び個人レッスン 第8回 中間試験 及び個人レッスン 第9回 コードネームについて 及び個人レッスン 第10回 歌うこと1：発声法 及び個人レッスン 第11回 歌うこと2：子どもの歌唱教材 及び個人レッスン 第12回 調性1：長音階 及び個人レッスン 第13回 調性2：短音階 及び個人レッスン 第14回 楽典の確認テスト 及び個人レッスン 第15回 期末試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技Ⅰ						
担当教員	奥村 正子・木本 雅子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得						
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。中間試験と期末試験を実施する。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために教師・保育士に求められている感性を磨くこと、ピアノ演奏技能の向上を目標とする。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第2回 ピアノの基礎技能1 姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第3回 ピアノの基礎技能2 フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第4回 グレード毎の課題曲の解説 及び個人レッスン 第5回 読譜のために 及び個人レッスン 第6回 拍子について 及び個人レッスン 第7回 リズムについて 及び個人レッスン 第8回 中間試験 及び個人レッスン 第9回 コードネームについて 及び個人レッスン 第10回 歌うこと1：発声法 及び個人レッスン 第11回 歌うこと2：子どもの歌唱教材 及び個人レッスン 第12回 調性1：長音階 及び個人レッスン 第13回 調性2：短音階 及び個人レッスン 第14回 楽典の確認テスト 及び個人レッスン 第15回 期末試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技Ⅰ						
担当教員	奥村 正子・木本 雅子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得						
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。中間試験と期末試験を実施する。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために教師・保育士に求められている感性を磨くこと、ピアノ演奏技能の向上を目標とする。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第2回 ピアノの基礎技能1 姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第3回 ピアノの基礎技能2 フレー징、レガート、スタッカートなどについて 第4回 グレード毎の課題曲の解説 及び個人レッスン 第5回 読譜のために 及び個人レッスン 第6回 拍子について 及び個人レッスン 第7回 リズムについて 及び個人レッスン 第8回 中間試験 及び個人レッスン 第9回 コードネームについて 及び個人レッスン 第10回 歌うこと1：発声法 及び個人レッスン 第11回 歌うこと2：子どもの歌唱教材 及び個人レッスン 第12回 調性1：長音階 及び個人レッスン 第13回 調性2：短音階 及び個人レッスン 第14回 楽典の確認テスト 及び個人レッスン 第15回 期末試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技Ⅰ						
担当教員	奥村 正子・幸野 紀子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得						
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。中間試験と期末試験を実施する。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために教師・保育士に求められている感性を磨くこと、ピアノ演奏技能の向上を目標とする。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第2回 ピアノの基礎技能1 姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第3回 ピアノの基礎技能2 フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第4回 グレード毎の課題曲の解説 及び個人レッスン 第5回 読譜のために 及び個人レッスン 第6回 拍子について 及び個人レッスン 第7回 リズムについて 及び個人レッスン 第8回 中間試験 及び個人レッスン 第9回 コードネームについて 及び個人レッスン 第10回 歌うこと1：発声法 及び個人レッスン 第11回 歌うこと2：子どもの歌唱教材 及び個人レッスン 第12回 調性1：長音階 及び個人レッスン 第13回 調性2：短音階 及び個人レッスン 第14回 楽典の確認テスト 及び個人レッスン 第15回 期末試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技Ⅰ						
担当教員	奥村 正子・幸野 紀子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得						
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。中間試験と期末試験を実施する。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために教師・保育士に求められている感性を磨くこと、ピアノ演奏技能の向上を目標とする。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第2回 ピアノの基礎技能1 姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第3回 ピアノの基礎技能2 フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第4回 グレード毎の課題曲の解説 及び個人レッスン 第5回 読譜のために 及び個人レッスン 第6回 拍子について 及び個人レッスン 第7回 リズムについて 及び個人レッスン 第8回 中間試験 及び個人レッスン 第9回 コードネームについて 及び個人レッスン 第10回 歌うこと1：発声法 及び個人レッスン 第11回 歌うこと2：子どもの歌唱教材 及び個人レッスン 第12回 調性1：長音階 及び個人レッスン 第13回 調性2：短音階 及び個人レッスン 第14回 楽典の確認テスト 及び個人レッスン 第15回 期末試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技Ⅰ						
担当教員	奥村 正子・志茂 みなみ						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得						
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。中間試験と期末試験を実施する。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために教師・保育士に求められている感性を磨くこと、ピアノ演奏技能の向上を目標とする。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第2回 ピアノの基礎技能1 姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第3回 ピアノの基礎技能2 フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第4回 グレード毎の課題曲の解説 及び個人レッスン 第5回 読譜のために 及び個人レッスン 第6回 拍子について 及び個人レッスン 第7回 リズムについて 及び個人レッスン 第8回 中間試験 及び個人レッスン 第9回 コードネームについて 及び個人レッスン 第10回 歌うこと1：発声法 及び個人レッスン 第11回 歌うこと2：子どもの歌唱教材 及び個人レッスン 第12回 調性1：長音階 及び個人レッスン 第13回 調性2：短音階 及び個人レッスン 第14回 楽典の確認テスト 及び個人レッスン 第15回 期末試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技Ⅰ						
担当教員	奥村 正子・志茂 みなみ						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得						
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。中間試験と期末試験を実施する。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために教師・保育士に求められている感性を磨くこと、ピアノ演奏技能の向上を目標とする。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第2回 ピアノの基礎技能1 姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第3回 ピアノの基礎技能2 フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第4回 グレード毎の課題曲の解説 及び個人レッスン 第5回 読譜のために 及び個人レッスン 第6回 拍子について 及び個人レッスン 第7回 リズムについて 及び個人レッスン 第8回 中間試験 及び個人レッスン 第9回 コードネームについて 及び個人レッスン 第10回 歌うこと1：発声法 及び個人レッスン 第11回 歌うこと2：子どもの歌唱教材 及び個人レッスン 第12回 調性1：長音階 及び個人レッスン 第13回 調性2：短音階 及び個人レッスン 第14回 楽典の確認テスト 及び個人レッスン 第15回 期末試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技Ⅰ						
担当教員	奥村 正子・矢野 ゆかり						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得						
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。中間試験と期末試験を実施する。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために教師・保育士に求められている感性を磨くこと、ピアノ演奏技能の向上を目標とする。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第2回 ピアノの基礎技能1 姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第3回 ピアノの基礎技能2 フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第4回 グレード毎の課題曲の解説 及び個人レッスン 第5回 読譜のために 及び個人レッスン 第6回 拍子について 及び個人レッスン 第7回 リズムについて 及び個人レッスン 第8回 中間試験 及び個人レッスン 第9回 コードネームについて 及び個人レッスン 第10回 歌うこと1：発声法 及び個人レッスン 第11回 歌うこと2：子どもの歌唱教材 及び個人レッスン 第12回 調性1：長音階 及び個人レッスン 第13回 調性2：短音階 及び個人レッスン 第14回 楽典の確認テスト 及び個人レッスン 第15回 期末試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技Ⅰ						
担当教員	奥村 正子・矢野 ゆかり						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得						
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。中間試験と期末試験を実施する。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために教師・保育士に求められている感性を磨くこと、ピアノ演奏技能の向上を目標とする。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第2回 ピアノの基礎技能1 姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第3回 ピアノの基礎技能2 フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第4回 グレード毎の課題曲の解説 及び個人レッスン 第5回 読譜のために 及び個人レッスン 第6回 拍子について 及び個人レッスン 第7回 リズムについて 及び個人レッスン 第8回 中間試験 及び個人レッスン 第9回 コードネームについて 及び個人レッスン 第10回 歌うこと1：発声法 及び個人レッスン 第11回 歌うこと2：子どもの歌唱教材 及び個人レッスン 第12回 調性1：長音階 及び個人レッスン 第13回 調性2：短音階 及び個人レッスン 第14回 楽典の確認テスト 及び個人レッスン 第15回 期末試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技Ⅰ						
担当教員	奥村 正子・横山 由美子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得						
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。中間試験と期末試験を実施する。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために教師・保育士に求められている感性を磨くこと、ピアノ演奏技能の向上を目標とする。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第2回 ピアノの基礎技能1 姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第3回 ピアノの基礎技能2 フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第4回 グレード毎の課題曲の解説 及び個人レッスン 第5回 読譜のために 及び個人レッスン 第6回 拍子について 及び個人レッスン 第7回 リズムについて 及び個人レッスン 第8回 中間試験 及び個人レッスン 第9回 コードネームについて 及び個人レッスン 第10回 歌うこと1：発声法 及び個人レッスン 第11回 歌うこと2：子どもの歌唱教材 及び個人レッスン 第12回 調性1：長音階 及び個人レッスン 第13回 調性2：短音階 及び個人レッスン 第14回 楽典の確認テスト 及び個人レッスン 第15回 期末試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技Ⅰ						
担当教員	奥村 正子・横山 由美子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実技の基礎技能及び楽典の基礎知識の習得						
授業の概要	毎時の個人レッスンでは、グレード別の課題曲を中心に学ぶ。楽典、ソルフェージュはグループで学ぶ。中間試験と期末試験を実施する。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために教師・保育士に求められている感性を磨くこと、ピアノ演奏技能の向上を目標とする。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明及び課題曲について 第2回 ピアノの基礎技能1 姿勢、身体の柔軟性、脱力などについて 第3回 ピアノの基礎技能2 フレージング、レガート、スタッカートなどについて 第4回 グレード毎の課題曲の解説 及び個人レッスン 第5回 読譜のために 及び個人レッスン 第6回 拍子について 及び個人レッスン 第7回 リズムについて 及び個人レッスン 第8回 中間試験 及び個人レッスン 第9回 コードネームについて 及び個人レッスン 第10回 歌うこと1：発声法 及び個人レッスン 第11回 歌うこと2：子どもの歌唱教材 及び個人レッスン 第12回 調性1：長音階 及び個人レッスン 第13回 調性2：短音階 及び個人レッスン 第14回 楽典の確認テスト 及び個人レッスン 第15回 期末試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日々のピアノ練習は必須です。授業で指摘された問題点は次回までに解決できるよう、積極的に取り組むこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87888-377-5 グレードごとの課題曲は、授業開始日に発表する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技Ⅱ						
担当教員	横山 由美子・奥村 正子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実践の基礎技能の習得。						
授業の概要	「音楽実技Ⅰ」と同様に、1クラスを2つのグループに分けて授業を行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」や「弾き歌い」についての指導、アンサンブルなどを行う。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている感性を磨くとともに、「音楽実技Ⅰ」で学んだピアノ奏法の技能、実践力のさらなる向上を目標とする。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『新・幼児の音楽教育』代表著者：井口 太 朝日出版社 『おんがくのしくみ』教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 （上記の教科書は、一年次に既に購入済）						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技Ⅱ						
担当教員	横山 由美子・奥村 正子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実践の基礎技能の習得。						
授業の概要	「音楽実技Ⅰ」と同様に、1クラスを2つのグループに分けて授業を行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」や「弾き歌い」についての指導、アンサンブルなどを行う。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている感性を磨くとともに、「音楽実技Ⅰ」で学んだピアノ奏法の技能、実践力のさらなる向上を目標とする。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『新・幼児の音楽教育』代表著者：井口 太 朝日出版社 『おんがくのしくみ』教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 （上記の教科書は、一年次に既に購入済）						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技Ⅱ						
担当教員	横山 由美子・河瀬 里子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実践の基礎技能の習得。						
授業の概要	「音楽実技Ⅰ」と同様に、1クラスを2つのグループに分けて授業を行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」や「弾き歌い」についての指導、アンサンブルなどを行う。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている感性を磨くとともに、「音楽実技Ⅰ」で学んだピアノ奏法の技能、実践力のさらなる向上を目標とする。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『新・幼児の音楽教育』代表著者：井口 太 朝日出版社 『おんがくのしくみ』教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 （上記の教科書は、一年次に既に購入済）						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技Ⅱ						
担当教員	横山 由美子・河瀬 里子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実践の基礎技能の習得。						
授業の概要	「音楽実技Ⅰ」と同様に、1クラスを2つのグループに分けて授業を行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」や「弾き歌い」についての指導、アンサンブルなどを行う。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている感性を磨くとともに、「音楽実技Ⅰ」で学んだピアノ奏法の技能、実践力のさらなる向上を目標とする。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『新・幼児の音楽教育』代表著者：井口 太 朝日出版社 『おんがくのしくみ』教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 （上記の教科書は、一年次に既に購入済）						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技Ⅱ						
担当教員	横山 由美子・木本 雅子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実践の基礎技能の習得。						
授業の概要	「音楽実技Ⅰ」と同様に、1クラスを2つのグループに分けて授業を行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」や「弾き歌い」についての指導、アンサンブルなどを行う。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている感性を磨くとともに、「音楽実技Ⅰ」で学んだピアノ奏法の技能、実践力のさらなる向上を目標とする。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『新・幼児の音楽教育』代表著者：井口 太 朝日出版社 『おんがくのしくみ』教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 （上記の教科書は、一年次に既に購入済）						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技Ⅱ						
担当教員	横山 由美子・木本 雅子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実践の基礎技能の習得。						
授業の概要	「音楽実技Ⅰ」と同様に、1クラスを2つのグループに分けて授業を行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」や「弾き歌い」についての指導、アンサンブルなどを行う。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている感性を磨くとともに、「音楽実技Ⅰ」で学んだピアノ奏法の技能、実践力のさらなる向上を目標とする。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『新・幼児の音楽教育』代表著者：井口 太 朝日出版社 『おんがくのしくみ』教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 （上記の教科書は、一年次に既に購入済）						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技Ⅱ						
担当教員	横山 由美子・幸野 紀子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実践の基礎技能の習得。						
授業の概要	「音楽実技Ⅰ」と同様に、1クラスを2つのグループに分けて授業を行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」や「弾き歌い」についての指導、アンサンブルなどを行う。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている感性を磨くとともに、「音楽実技Ⅰ」で学んだピアノ奏法の技能、実践力のさらなる向上を目標とする。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『新・幼児の音楽教育』代表著者：井口 太 朝日出版社 『おんがくのしくみ』教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 （上記の教科書は、一年次に既に購入済）						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技Ⅱ						
担当教員	横山 由美子・幸野 紀子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実践の基礎技能の習得。						
授業の概要	「音楽実技Ⅰ」と同様に、1クラスを2つのグループに分けて授業を行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」や「弾き歌い」についての指導、アンサンブルなどを行う。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている感性を磨くとともに、「音楽実技Ⅰ」で学んだピアノ奏法の技能、実践力のさらなる向上を目標とする。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『新・幼児の音楽教育』代表著者：井口 太 朝日出版社 『おんがくのしくみ』教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 （上記の教科書は、一年次に既に購入済）						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技Ⅱ						
担当教員	横山 由美子・志茂 みなみ						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実践の基礎技能の習得。						
授業の概要	「音楽実技Ⅰ」と同様に、1クラスを2つのグループに分けて授業を行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」や「弾き歌い」についての指導、アンサンブルなどを行う。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている感性を磨くとともに、「音楽実技Ⅰ」で学んだピアノ奏法の技能、実践力のさらなる向上を目標とする。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『新・幼児の音楽教育』代表著者：井口 太 朝日出版社 『おんがくのしくみ』教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 （上記の教科書は、一年次に既に購入済）						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技Ⅱ						
担当教員	横山 由美子・矢野 ゆかり						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実践の基礎技能の習得。						
授業の概要	「音楽実技Ⅰ」と同様に、1クラスを2つのグループに分けて授業を行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」や「弾き歌い」についての指導、アンサンブルなどを行う。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている感性を磨くとともに、「音楽実技Ⅰ」で学んだピアノ奏法の技能、実践力のさらなる向上を目標とする。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『新・幼児の音楽教育』代表著者：井口 太 朝日出版社 『おんがくのしくみ』教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 （上記の教科書は、一年次に既に購入済）						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技Ⅱ						
担当教員	横山 由美子・矢野 ゆかり						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	音楽実践の基礎技能の習得。						
授業の概要	「音楽実技Ⅰ」と同様に、1クラスを2つのグループに分けて授業を行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」や「弾き歌い」についての指導、アンサンブルなどを行う。						
到達目標	子どもの音楽活動を援助、指導するために保育士、教師に求められている感性を磨くとともに、「音楽実技Ⅰ」で学んだピアノ奏法の技能、実践力のさらなる向上を目標とする。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。 『新・幼児の音楽教育』代表著者：井口 太 朝日出版社 『おんがくのしくみ』教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 （上記の教科書は、一年次に既に購入済）						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技Ⅲ						
担当教員	奥村 正子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	「声」と「身体」による音楽表現の探求とともに、音楽実技1、音楽実技2で培った演奏技能をさらに向上させ、レパートリーを増やす。						
授業の概要	心地よい声、よく聴き取れる日本語で歌うための発声法、また子どもの音楽表現を引き出す柔軟で豊かな身体表現、声や楽器によるアンサンブルを学ぶ。各自のレベルに応じたピアノ曲に取り組み、技能を向上させる。						
到達目標	明瞭な発音、その楽曲に相応しい発声、正確な音程で歌うことができるようになる。 それぞれが役割を担って、「聖誕劇」で聖歌を歌うことができるようになる。 子どもの音楽活動を豊かに援助することのできる表現力を獲得する。						
授業計画	第1回 ガイダンス／授業の概要説明 第2回 声と身体1（発声の仕組み）及びピアノ課題の設定 第3回 声と身体2（柔軟な身体、柔軟な声） 第4回 話す声・読む声1（表情、身振り、感情と声） 第5回 話す声・読む声2（朗読、台詞） 第6回 声のアンサンブル1（発声のしくみと呼吸法） 第7回 声のアンサンブル2（二声の合唱） 第8回 楽器と身体表現1（様々なリズム楽器） 第9回 楽器と身体表現2（ミュージック・ベル） 第10回 「聖誕劇」の発表（チャペルにおけるキャンドル・サービス） 第11回 物語と音楽 第12回 即興的なピアノ演奏の基礎 第13回 声と楽器のリズムアンサンブル 第14回 総合的な音楽表現 第15回 期末テストとまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	聖誕劇の台詞やピアノ曲など、授業で指定した課題について、繰り返し練習すること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	発表40点 実技テスト20点 毎回の授業への取り組み40点 出席回数が2/3以下の場合は評価の対象としない。						
教科書	楽譜、資料等は、そのつど配布する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技Ⅳ						
担当教員	奥村 正子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	実習及び採用試験に向けて、音楽表現力の向上とレパートリーの拡充を目指す。						
授業の概要	ピアノ演奏や歌唱、弾き歌いについて、これまで学んできたことを基に、「音楽表現活動のためのピアノ曲演奏」「発声」「ピアノと声の音量バランス」「歌う表情」など具体的に指導する。採用試験対策として、学習指導要領や楽典についても指導する。						
到達目標	音楽技能と音楽的感性の向上を目指し、教育実習や採用試験に対応できる実力を身につける。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明 第2回 弾き歌いと子どもの歌唱教材 第3回 子どもの音楽表現活動を指導するためのピアノ曲 第4回 楽典の復習1：伴奏の簡略化 第5回 歌唱とピアノ伴奏1：明瞭な発音と発声法 第6回 歌唱とピアノ伴奏2：ピアノと声の音量バランス 第7回 学習指導要領1：各学年の共通教材 第8回 中間試験 第9回 楽典の復習2：移調の実習、およびピアノ曲演習 第10回 学習指導要領2：表現と鑑賞 第11回 指揮法1：基本の拍子、及びピアノ曲演習 第12回 連弾曲の解説 及びピアノ曲演習 第13回 楽器のアンサンブル 及びピアノ曲演習 第14回 指揮法2：弱起の曲、及び連弾の発表 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	各自の課題について、日々の練習を怠らないこと。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点70点（課題への取り組み、中間試験などを総合する） 期末試験 30点 10回以上の出席がないと評価の対象としない。						
教科書	「音楽科指導法」と「保育内容（表現1）」を履修した際に使用したテキスト 課題曲の楽譜はそのつど配布する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽入門						
担当教員	奥村 正子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	子どもの音楽活動を支える音楽実践技能の基礎を習得する。						
授業の概要	子どもの音楽活動を援助したり、指導するために必要な楽典の基礎知識とピアノ奏法の基礎を学ぶ。各自の鍵盤楽器の学習経験に即した課題曲に取り組む。連弾曲の練習と発表を通して、アンサンブルの体験をする。						
到達目標	五線譜に記された楽譜を読み取り、歌やピアノで実際に音として再現するための約束事、音名、音程、音階などの基礎的知識を理解する。ピアノを演奏する際の姿勢、手の形、運指やポジションなどの基本を理解し、ピアノ演奏の基礎を学ぶ。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、アンケートによるグレード分け 第2回 ピアノ奏法のための基礎的な用語解説 第3回 楽典について 及びレッスン1 第4回 課題曲の解説 及びレッスン2 第5回 「譜表と音名」 及びレッスン3 第6回 「音符と休符」 及びレッスン4 第7回 バーナムの練習曲による小テスト 及びレッスン5 第8回 連弾について 及びレッスン6 第9回 「音程」 及びレッスン7 第10回 「音階と調」 及びレッスン8 第11回 「リズムと拍子」 及びレッスン9 第12回 連弾の発表 第13回 「ペダルの使用法」 及びレッスン10 第14回 「音楽表現のための楽語」 及びレッスン11 第15回 演奏の発表（期末試験）とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で指摘された問題点を次の授業までに解決できるよう、日々の練習に取り組んで下さい。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点（レッスンへの取り組み、連弾の発表などを総合する）60％ 期末試験40％ 出席回数が10回に満たない場合、また期末試験を受けない場合は評価の対象にならない。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社 グレード別のピアノ課題曲は、第1回めの授業で発表します。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽入門						
担当教員	奥村 正子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	子どもの音楽活動を支える音楽実践技能の基礎を習得する。						
授業の概要	子どもの音楽活動を援助したり、指導するために必要な楽典の基礎知識とピアノ奏法の基礎を学ぶ。各自の鍵盤楽器の学習経験に即した課題曲に取り組む。連弾曲の練習と発表を通して、アンサンブルの体験をする。						
到達目標	五線譜に記された楽譜を読み取り、歌やピアノで実際に音として再現するための約束事、音名、音程、音階などの基礎的知識を理解する。ピアノを演奏する際の姿勢、手の形、運指やポジションなどの基本を理解し、ピアノ演奏の基礎を学ぶ。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、アンケートによるグレード分け 第2回 ピアノ奏法のための基礎的な用語解説 第3回 楽典について 及びレッスン1 第4回 課題曲の解説 及びレッスン2 第5回 「譜表と音名」 及びレッスン3 第6回 「音符と休符」 及びレッスン4 第7回 バーナムの練習曲による小テスト 及びレッスン5 第8回 連弾について 及びレッスン6 第9回 「音程」 及びレッスン7 第10回 「音階と調」 及びレッスン8 第11回 「リズムと拍子」 及びレッスン9 第12回 連弾の発表 第13回 「ペダルの使用法」 及びレッスン10 第14回 「音楽表現のための楽語」 及びレッスン11 第15回 演奏の発表（期末試験）とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で指摘された問題点を次の授業までに解決できるよう、日々の練習に取り組んで下さい。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点（レッスンへの取り組み、連弾の発表などを総合する）60％ 期末試験40％ 出席回数が10回に満たない場合、また期末試験を受けない場合は評価の対象にならない。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社 グレード別のピアノ課題曲は、第1回めの授業で発表します。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽入門						
担当教員	河瀬 里子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	子どもの音楽活動を支える音楽実践技能の基礎を習得する。						
授業の概要	子どもの音楽活動を援助したり、指導するために必要な楽典の基礎知識とピアノ奏法の基礎を学ぶ。各自の鍵盤楽器の学習経験に即した課題曲に取り組む。連弾曲の練習と発表を通して、アンサンブルの体験をする。						
到達目標	五線譜に記された楽譜を読み取り、歌やピアノで実際に音として再現するための約束事、音名、音程、音階などの基礎的知識を理解する。ピアノを演奏する際の姿勢、手の形、運指やポジションなどの基本を理解し、ピアノ演奏の基礎を学ぶ。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、アンケートによるグレード分け 第2回 ピアノ奏法のための基礎的な用語解説 第3回 楽典について 及びレッスン1 第4回 課題曲の解説 及びレッスン2 第5回 「譜表と音名」 及びレッスン3 第6回 「音符と休符」 及びレッスン4 第7回 バーナムの練習曲による小テスト 及びレッスン5 第8回 連弾について 及びレッスン6 第9回 「音程」 及びレッスン7 第10回 「音階と調」 及びレッスン8 第11回 「リズムと拍子」 及びレッスン9 第12回 連弾の発表 第13回 「ペダルの使用方法」 及びレッスン10 第14回 「音楽表現のための楽語」 及びレッスン11 第15回 演奏の発表（期末試験）とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で指摘された問題点を次の授業までに解決できるよう、日々の練習に取り組んで下さい。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点（レッスンへの取り組み、連弾の発表などを総合する）60％ 期末試験40％ 出席回数が10回に満たない場合、また期末試験を受けない場合は評価の対象にならない。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社 グレード別のピアノ課題曲は、第1回めの授業で発表します。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽入門						
担当教員	河瀬 里子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	子どもの音楽活動を支える音楽実践技能の基礎を習得する。						
授業の概要	子どもの音楽活動を援助したり、指導するために必要な楽典の基礎知識とピアノ奏法の基礎を学ぶ。各自の鍵盤楽器の学習経験に即した課題曲に取り組む。連弾曲の練習と発表を通して、アンサンブルの体験をする。						
到達目標	五線譜に記された楽譜を読み取り、歌やピアノで実際に音として再現するための約束事、音名、音程、音階などの基礎的知識を理解する。ピアノを演奏する際の姿勢、手の形、運指やポジションなどの基本を理解し、ピアノ演奏の基礎を学ぶ。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、アンケートによるグレード分け 第2回 ピアノ奏法のための基礎的な用語解説 第3回 楽典について 及びレッスン1 第4回 課題曲の解説 及びレッスン2 第5回 「譜表と音名」 及びレッスン3 第6回 「音符と休符」 及びレッスン4 第7回 バーナムの練習曲による小テスト 及びレッスン5 第8回 連弾について 及びレッスン6 第9回 「音程」 及びレッスン7 第10回 「音階と調」 及びレッスン8 第11回 「リズムと拍子」 及びレッスン9 第12回 連弾の発表 第13回 「ペダルの使用法」 及びレッスン10 第14回 「音楽表現のための楽語」 及びレッスン11 第15回 演奏の発表（期末試験）とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で指摘された問題点を次の授業までに解決できるよう、日々の練習に取り組んで下さい。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点（レッスンへの取り組み、連弾の発表などを総合する）60% 期末試験40% 出席回数が10回に満たない場合、また期末試験を受けない場合は評価の対象にならない。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社 グレード別のピアノ課題曲は、第1回めの授業で発表します。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽入門						
担当教員	幸野 紀子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	子どもの音楽活動を支える音楽実践技能の基礎を習得する。						
授業の概要	子どもの音楽活動を援助したり、指導するために必要な楽典の基礎知識とピアノ奏法の基礎を学ぶ。各自の鍵盤楽器の学習経験に即した課題曲に取り組む。連弾曲の練習と発表を通して、アンサンブルの体験をする。						
到達目標	五線譜に記された楽譜を読み取り、歌やピアノで実際に音として再現するための約束事、音名、音程、音階などの基礎的知識を理解する。ピアノを演奏する際の姿勢、手の形、運指やポジションなどの基本を理解し、ピアノ演奏の基礎を学ぶ。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、アンケートによるグレード分け 第2回 ピアノ奏法のための基礎的な用語解説 第3回 楽典について 及びレッスン1 第4回 課題曲の解説 及びレッスン2 第5回 「譜表と音名」 及びレッスン3 第6回 「音符と休符」 及びレッスン4 第7回 バーナムの練習曲による小テスト 及びレッスン5 第8回 連弾について 及びレッスン6 第9回 「音程」 及びレッスン7 第10回 「音階と調」 及びレッスン8 第11回 「リズムと拍子」 及びレッスン9 第12回 連弾の発表 第13回 「ペダルの使用方法」 及びレッスン10 第14回 「音楽表現のための楽語」 及びレッスン11 第15回 演奏の発表（期末試験）とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で指摘された問題点を次の授業までに解決できるよう、日々の練習に取り組んで下さい。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点（レッスンへの取り組み、連弾の発表などを総合する）60％ 期末試験40％ 出席回数が10回に満たない場合、また期末試験を受けない場合は評価の対象にならない。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社 グレード別のピアノ課題曲は、第1回めの授業で発表します。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽入門						
担当教員	幸野 紀子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	子どもの音楽活動を支える音楽実践技能の基礎を習得する。						
授業の概要	子どもの音楽活動を援助したり、指導するために必要な楽典の基礎知識とピアノ奏法の基礎を学ぶ。各自の鍵盤楽器の学習経験に即した課題曲に取り組む。連弾曲の練習と発表を通して、アンサンブルの体験をする。						
到達目標	五線譜に記された楽譜を読み取り、歌やピアノで実際に音として再現するための約束事、音名、音程、音階などの基礎的知識を理解する。ピアノを演奏する際の姿勢、手の形、運指やポジションなどの基本を理解し、ピアノ演奏の基礎を学ぶ。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、アンケートによるグレード分け 第2回 ピアノ奏法のための基礎的な用語解説 第3回 楽典について 及びレッスン1 第4回 課題曲の解説 及びレッスン2 第5回 「譜表と音名」 及びレッスン3 第6回 「音符と休符」 及びレッスン4 第7回 バーナムの練習曲による小テスト 及びレッスン5 第8回 連弾について 及びレッスン6 第9回 「音程」 及びレッスン7 第10回 「音階と調」 及びレッスン8 第11回 「リズムと拍子」 及びレッスン9 第12回 連弾の発表 第13回 「ペダルの使用法」 及びレッスン10 第14回 「音楽表現のための楽語」 及びレッスン11 第15回 演奏の発表（期末試験）とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で指摘された問題点を次の授業までに解決できるよう、日々の練習に取り組んで下さい。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点（レッスンへの取り組み、連弾の発表などを総合する）60% 期末試験40% 出席回数が10回に満たない場合、また期末試験を受けない場合は評価の対象にならない。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社 グレード別のピアノ課題曲は、第1回めの授業で発表します。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽入門						
担当教員	横山 由美子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	子どもの音楽活動を支える音楽実践技能の基礎を習得する。						
授業の概要	子どもの音楽活動を援助したり、指導するために必要な楽典の基礎知識とピアノ奏法の基礎を学ぶ。各自の鍵盤楽器の学習経験に即した課題曲に取り組む。連弾曲の練習と発表を通して、アンサンブルの体験をする。						
到達目標	五線譜に記された楽譜を読み取り、歌やピアノで実際に音として再現するための約束事、音名、音程、音階などの基礎的知識を理解する。ピアノを演奏する際の姿勢、手の形、運指やポジションなどの基本を理解し、ピアノ演奏の基礎を学ぶ。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、アンケートによるグレード分け 第2回 ピアノ奏法のための基礎的な用語解説 第3回 楽典について 及びレッスン1 第4回 課題曲の解説 及びレッスン2 第5回 「譜表と音名」 及びレッスン3 第6回 「音符と休符」 及びレッスン4 第7回 バーナムの練習曲による小テスト 及びレッスン5 第8回 連弾について 及びレッスン6 第9回 「音程」 及びレッスン7 第10回 「音階と調」 及びレッスン8 第11回 「リズムと拍子」 及びレッスン9 第12回 連弾の発表 第13回 「ペダルの使用方法」 及びレッスン10 第14回 「音楽表現のための楽語」 及びレッスン11 第15回 演奏の発表（期末試験）とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で指摘された問題点を次の授業までに解決できるよう、日々の練習に取り組んで下さい。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点（レッスンへの取り組み、連弾の発表などを総合する）60％ 期末試験40％ 出席回数が10回に満たない場合、また期末試験を受けない場合は評価の対象にならない。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社 グレード別のピアノ課題曲は、第1回めの授業で発表します。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽入門						
担当教員	横山 由美子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	子どもの音楽活動を支える音楽実践技能の基礎を習得する。						
授業の概要	子どもの音楽活動を援助したり、指導するために必要な楽典の基礎知識とピアノ奏法の基礎を学ぶ。各自の鍵盤楽器の学習経験に即した課題曲に取り組む。連弾曲の練習と発表を通して、アンサンブルの体験をする。						
到達目標	五線譜に記された楽譜を読み取り、歌やピアノで実際に音として再現するための約束事、音名、音程、音階などの基礎的知識を理解する。ピアノを演奏する際の姿勢、手の形、運指やポジションなどの基本を理解し、ピアノ演奏の基礎を学ぶ。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、アンケートによるグレード分け 第2回 ピアノ奏法のための基礎的な用語解説 第3回 楽典について 及びレッスン1 第4回 課題曲の解説 及びレッスン2 第5回 「譜表と音名」 及びレッスン3 第6回 「音符と休符」 及びレッスン4 第7回 バーナムの練習曲による小テスト 及びレッスン5 第8回 連弾について 及びレッスン6 第9回 「音程」 及びレッスン7 第10回 「音階と調」 及びレッスン8 第11回 「リズムと拍子」 及びレッスン9 第12回 連弾の発表 第13回 「ペダルの使用方法」 及びレッスン10 第14回 「音楽表現のための楽語」 及びレッスン11 第15回 演奏の発表（期末試験）とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で指摘された問題点を次の授業までに解決できるよう、日々の練習に取り組んで下さい。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点（レッスンへの取り組み、連弾の発表などを総合する）60％ 期末試験40％ 出席回数が10回に満たない場合、また期末試験を受けない場合は評価の対象にならない。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社 グレード別のピアノ課題曲は、第1回めの授業で発表します。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	海外教育実習／Teaching Practice Abroad						
担当教員	寺見 陽子						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	異文化体験を通して、海外教育事情や多文化共生教育を理解するとともに、日本の保育・教育との比較検討を行い、子どもの養護と教育の本質を考える。						
授業の概要	海外の子育て事情や教育事情を視察することを通して、次のような理解を深める。 ・子育てや教育の多様なあり方を理解する ・現場視察を通して、多文化共生教育の意義を理解する。 ・現場での見学・観察・実習を通して、海外の子どもの文化や保育・教育の実際を学ぶ。						
到達目標	・海外教育事情を理解する ・多文化共生教育を理解する ・異文化体験を通して、日本における子どもの養育と教育のあり方について考察する						
授業計画	1. 海外研修の意義と目的・実習内容について 2. オーストラリアの生活・文化と子育て・教育事情(ゲストスピーカー招聘の予定) 3. 異文化理解と多文化共生教育の意義 4. 自己課題とテーマ設定、実習計画案の作成 5. 教材研究 6. 教材研究 7. 英語研修 8. 英語研修 9. 英語研修 10. 保育・教育視察(オーストラリア・アデレード) 11. 見学実習(オーストラリア・アデレード) 12. 観察実習(オーストラリア・アデレード) 13. 計画実習(オーストラリア・アデレード) 14. プレゼンテーション(オーストラリア・アデレード) 15. 自己評価とまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	体調管理。日常生活における簡単な英会話に慣れておくこと。日本の文化への理解と見識を深めておくこと。						
授業方法	グループ活動と個別指導						
評価基準と評価方法	実習計画 30点 プレゼンテーション 30点 海外教育実習報告書 40点						
教科書	必要に応じて示す						
参考書	必要に応じて示す						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	介護等体験						
担当教員	谷口 和良						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	介護体験実習を有意義なものにするための意識の変革と資質の向上（介護等体験実習に対する事前・事後指導による意識の変革と資質の向上）						
授業の概要	この授業では介護等体験の意義、つまり個人の尊厳や社会連帯の理念に対する理解を深めることをねらいとしている。そこで、社会福祉に関する知識と理解、障害者や高齢者などの介護や援助、そして参加と連帯の精神などを活かして、実際の介護等体験を充実させる必要がある。そのために、障害児や施設利用者への配慮、コミュニケーションの取り方、職員との接し方、施設での取り組みなどを探究していく。						
到達目標	介護等体験実習に向けて、それぞれの学校や施設及び利用者の現状や実態を把握し、実習への心構えや態度などを養い、有意義な介護等体験をすることができる。						
授業計画	○ 集中講義 第1回 オリエンテーション：授業概要とアイス・ブレイキング（介護・介助等の意義と目的等） 第2回 特別支援学校の概要と実態 第3回 特別支援学校での介護等体験に取り組む留意点と心構え 第4回 社会福祉施設での介護等体験に取り組む留意点と心構え 第5回 社会福祉施設の現状及び問題・課題「ゲスト・スピーカー招聘予定」 第6回 特別支援学校での介護等体験の振り返り 第7回 社会福祉施設での介護等体験の振り返り 第8回 まとめ（介護等の体験による自己変革・改革、生命の尊厳、介護のあり方等） ○ 現場体験 1. 特別支援学校において2日間 2. 社会福祉施設において5日間						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：2回生で受講した「子ども発達実習」での特別支援学校訪問のレポートを見直し、復習するとともに訪問時のことを想起しておいてください。 授業後学習：事前・事後の授業及び現場で体験したことを復習しながら整理しておき、教職現場に立った時に活用できるようにしておくことが大切です						
授業方法	授業計画にあるように、集中講義8回（事前指導として5回と二つの実習報告・振り返りを含めた事後指導として3回）と現場体験（特別支援学校2日間と社会福祉施設5日間）を行う						
評価基準と評価方法	発表やワークシートなどの平常点40%、体験レポート40%、体験先の評価の参考20% なお、体験終了後、体験先から交付される「証明書」を提出しないと、体験を完了していても単位が与えられないので注意すること						
教科書							
参考書	「教師をめざす人の介護等体験ハンドブック」（現代教師養成研究会編）大修館書店						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	家庭科研究						
担当教員	守野 美佐子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校における家庭科教育のあり方						
授業の概要	現状の家庭生活の抱える問題、児童の育ちを阻害するものなどを見渡しながら、家庭科教育が、小学校高学年の段階の児童のいかなる面に働きかけ、いかなる力を伸ばすことをめざすのかを考える。また、家庭科の具体的な学習内容を学び、学習主体の学習動機を見据えて「学びたい」、「わかる・できることが楽しい気持ちにさせる教材を吟味する機会とする。						
到達目標	小学校の家庭科の学習は、児童にいかなる力をつける機会となるのか、また、家庭科教育は、変化する社会の要請や期待に応えることができるのか考え、自分の家庭科教育の目標を持てるようになる。また、学習主体の学習動機を喚起する、学習内容および指導方法について考え、工夫することができるようになる。そして、自分自身の生活についても見直し、改善する姿勢を身につける。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：小学校家庭科教育のイメージ 第2回 家庭科教育とは：学習指導要領の理解と学習内容の概観 第3回 家族との関わり 第4回 子どもの育ちと家庭環境 第5回 家庭生活での役割 家事労働 生活時間 第6回 消費と節約 環境にやさしい暮らしの工夫 第7回 健康的な暮らし（1）生活習慣 第8回 健康的な暮らし（2）食生活 第9回 衛生的な暮らし（1）住生活 第10回 衛生的な暮らし（2）衣生活 第11回 快適な暮らし 楽しみ・工夫と改善 第12回 自立と生活スキル（1）家事技術の習得 第13回 自立と生活スキル（2）自己管理能力の育成 第14回 自立と生活スキル（3）家族・身近な人とのコミュニケーション 第15回 まとめ：今後の課題						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：小学校、中学校、高校の家庭科の教科書を見て、どんな学習内容が含まれているか確認しておくこと。 授業後学習：授業で解説した基礎的基本的な内容をもとに、それを小学生が理解できるように説明するにはどのような表現が適切か考えるようにしてください。						
授業方法	講義および意見交換						
評価基準と評価方法	基本用語の確認テスト30% 指導案の作成30% レポート2回 40%						
教科書	中間美砂子編著『小学校家庭科の指導』建帛社（家庭科指導法でも使用します） 小学校用教科書『新しい家庭』東京書籍（講義開始後に教科書販売店に注文します）						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	家庭科研究						
担当教員	守野 美佐子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校における家庭科教育のあり方						
授業の概要	現状の家庭生活の抱える問題、児童の育ちを阻害するものなどを見渡しながら、家庭科教育が、小学校高学年の段階の児童のいかなる面に働きかけ、いかなる力を伸ばすことをめざすのかを考える。また、家庭科の具体的な学習内容を学び、学習主体の学習動機を見据えて「学びたい」、「わかる・できることが楽しい気持ちにさせる教材を吟味する機会とする。						
到達目標	小学校の家庭科の学習は、児童にいかなる力をつける機会となるのか、また、家庭科教育は、変化する社会の要請や期待に応えることができるのか考え、自分の家庭科教育の目標を持てるようになる。また、学習主体の学習動機を喚起する、学習内容および指導方法について考え、工夫することができるようになる。そして、自分自身の生活についても見直し、改善する姿勢を身につける。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：小学校家庭科教育のイメージ 第2回 家庭科教育とは：学習指導要領の理解と学習内容の概観 第3回 家族との関わり 第4回 子どもの育ちと家庭環境 第5回 家庭生活での役割 家事労働 生活時間 第6回 消費と節約 環境にやさしい暮らしの工夫 第7回 健康的な暮らし（1）生活習慣 第8回 健康的な暮らし（2）食生活 第9回 衛生的な暮らし（1）住生活 第10回 衛生的な暮らし（2）衣生活 第11回 快適な暮らし 楽しみ・工夫と改善 第12回 自立と生活スキル（1）家事技術の習得 第13回 自立と生活スキル（2）自己管理能力の育成 第14回 自立と生活スキル（3）家族・身近な人とのコミュニケーション 第15回 まとめ：今後の課題						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：小学校、中学校、高校の家庭科の教科書を見て、どんな学習内容が含まれているか確認しておくこと。 授業後学習：授業で解説した基礎的基本的な内容をもとに、それを小学生が理解できるように説明するにはどのような表現が適切か考えるようにしてください。						
授業方法	講義および意見交換						
評価基準と評価方法	基本用語の確認テスト30% 指導案の作成30% レポート2回 40%						
教科書	中間美砂子編著『小学校家庭科の指導』建帛社（家庭科指導法でも使用します） 小学校用教科書『新しい家庭』東京書籍（講義開始後に教科書販売店に注文します）						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	家庭科指導法						
担当教員	守野 美佐子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校における家庭科指導の具体的内容と方法を考える						
授業の概要	実際の生活と関わりある内容を取り扱う家庭科の指導において大切なことは、まず、小学校高学年という発達に応じた生活体験や生活状況を配慮した上で、興味関心を引き出し、児童の内面での学習動機付けを喚起することである。理解を促す教材やテーマは、児童にとって具体的であるとともに一般化しやすい側面を持ち合わせるものを選びたい。本講義では、児童が生活に関心を深め、自らの生活を変革する意識と実践力を身につけられるような指導方法を考える機会としたい。						
到達目標	自分の家庭科教育の目標を実現できる教材の選び方、授業の組み立て方を工夫することができる。実技指導の内容について、教材を吟味して指導計画することができる。多様な実践例などから学び、自分で指導計画の立案ができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：小学生の生活と生活能力 第2回 家庭科で何を教えるか：実技指導を伴う授業の計画 第3回 教材研究のための実践1：調理実習（1）料理って楽しいな（卵料理） 第4回 教材研究のための実践2：調理実習（2）家族のための和食（味噌汁） 第5回 教材研究1：家族の健康的な食生活 第6回 教材研究2：食生活に必要な技術 第7回 教材研究3：調理実習の指導のための教材作り 第8回 教材研究のための実践3：被服製作（1）フェルトを使った小物作り 第9回 教材研究のための実践4：被服製作（2）手縫いで作る小物（縫い方の確認） 第10回 教材研究4：暮らしの中の布製品 第11回 教材研究5：縫う技術の体験のための教材作り 第12回 教材研究6：健康な生活のための栄養に関する学習の教材作り 第13回 教材研究7：栄養に関する学習教材の発表 1回目 5大栄養素と食品群 第14回 教材研究8：栄養に関する学習教材の発表 2回目 栄養バランスのよい献立作成 第15回 まとめ：総評						
授業外における学習（準備学習の内容）	調理実習や被服製作の実技指導で、教材にできそうなものをリサーチし、自分で体験、実施しておくといよい。						
授業方法	各回のテーマに沿った教材提案の意見交換 教材作成 授業の詳案の作成 調理実習および縫製技術を活用した作品作りを含む						
評価基準と評価方法	実技を含む単元の指導計画の作成 20点 実技を含む単元の教材研究 30点 手縫いの基本技術 20点 模擬授業またはレポート 30点 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。						
教科書	中間美砂子編著『小学校家庭科指導の研究』建帛社（家庭科研究でも使います） 小学校用教科書『新しい家庭』東京書籍（家庭科研究受講時に購入してもらいます）						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	家庭科指導法							
担当教員	守野 美佐子							
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校における家庭科指導の具体的内容と方法を考える							
授業の概要	実際の生活と関わりある内容を取り扱う家庭科の指導において大切なことは、まず、小学校高学年という発達に応じた生活体験や生活状況を配慮した上で、興味関心を引き出し、児童の内面での学習動機付けを喚起することである。理解を促す教材やテーマは、児童にとって具体的であるとともに一般化しやすい側面を持ち合わせるものを選びたい。本講義では、児童が生活に関心を深め、自らの生活を変革する意識と実践力を身につけられるような指導方法を考える機会としたい。							
到達目標	自分の家庭科教育の目標を実現できる教材の選び方、授業の組み立て方を工夫することができる。実技指導の内容について、教材を吟味して指導計画することができる。多様な実践例などから学び、自分で指導計画の立案ができる。							
授業計画	第1回 オリエンテーション：小学生の生活と生活能力 第2回 家庭科で何を教えるか：実技指導を伴う授業の計画 第3回 教材研究のための実践1：調理実習（1）料理って楽しいな（卵料理） 第4回 教材研究のための実践2：調理実習（2）家族のための和食（味噌汁） 第5回 教材研究1：家族の健康的な食生活 第6回 教材研究2：食生活に必要な技術 第7回 教材研究3：調理実習の指導のための教材作り 第8回 教材研究のための実践3：被服製作（1）フェルトを使った小物作り 第9回 教材研究のための実践4：被服製作（2）手縫いで作る小物（縫い方の確認） 第10回 教材研究4：暮らしの中の布製品 第11回 教材研究5：縫う技術の体験のための教材作り 第12回 教材研究6：健康な生活のための栄養に関する学習の教材作り 第13回 教材研究7：栄養に関する学習教材の発表 1回目 5大栄養素と食品群 第14回 教材研究8：栄養に関する学習教材の発表 2回目 献立作成と栄養バランスチェック 第15回 まとめ：総評							
授業外における学習（準備学習の内容）	調理実習や被服製作の実技指導で、教材にできそうなものをリサーチし、自分で体験、実施しておくとい。							
授業方法	各回のテーマに沿った教材提案の意見交換 教材作成 授業の詳細案の作成 調理実習および縫製技術を活用した作品作りを含む							
評価基準と評価方法	実技を含む単元の指導計画の作成20点 実技を含む単元の教材研究30点 手縫いの基本技術20点 模擬授業またはレポート30点 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。							
教科書	中間美砂子編著『小学校家庭科指導の研究』建帛社（家庭科研究でも使います） 小学校用教科書『新しい家庭』東京書籍（家庭科研究受講時に購入してもらいます）							
参考書								

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	学校観察実習						
担当教員	大石 正廣						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	スクールサポーターとしての体験学習を通して、教職へのモチベーションを高める。						
授業の概要	小学校現場で、週一回（半日）、合計15回以上継続して、児童の学習支援や学校行事の手伝いを行う。ただし、ボランティア的活動とはいえ、児童に与える影響は大きいことから、十分な事前指導や説明、事後の集中講義を受ける必要がある。 実習では教育の厳しさや喜びを体験でき、教職をめざす自覚も高められるだけでなく、人間理解を深め、自己啓発ができる機会も得られる。子どもにとってもスクールサポーターと接することで、自尊感情や学ぶ意欲を高めることができるなどの得がたい交流ができる。						
到達目標	小学校の教育現場の実態を知る。自己の適性を知り、教職への意欲を高める。						
授業計画	○実習前の講義等 第1回 実習ガイダンス スクールサポーターに求められる資質・見識 第2回 小学校教育の現状と課題、主な活動内容 第3回 子ども理解と接し方、助言支援の方法 第4回 実習記録・活動報告書の書き方、挨拶・自己紹介の仕方 ○当該学校での観察実習 毎週1回（半日）以上、継続して実習を行う。活動状況報告書を書く。 スクールサポーター配置校を訪問し、学生の活動状況を把握し、指導助言を行う。 ○実習後の講義等 第5回 活動報告書のコメントから学ぶこと、実習記録の整理・レポートの作成 第6回 報告会1・経験したこと・学んだことをどう生かすか（グループ交流と全体発表内容の検討） 第7回 報告会2・経験したこと・学んだことをどう生かすか（全体交流） 第8回 講話とまとめ・教職を目指す学生に期待すること						
授業外における学習（準備学習の内容）	配置される学校の特色、教育目標や活動内容などについて情報を収集する。						
授業方法	学校での観察実習、講義と講話、グループ・全体討議						
評価基準と評価方法	事前指導・事後指導を受けること。週1回程度継続して学校観察実習を行い、実習記録や感想文、レポートを提出することを評価の条件とする。 ・実習回数は15回以上でなくてはならない。 ・当該学校の活動報告書、並びに事前・事後の指導時におけるレポートの内容を加味して評価する。 実習校での実習意欲や態度、その活動報告書で4割、実習の記録と感想文で3割。事前・事後指導時のレポートで3割という割合で総合評価をする。						
教科書	資料やプリントを配布する。						
参考書	講義時に紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育課程論						
担当教員	大下 卓司						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	教育課程・カリキュラムに関する基礎的事項と考え方						
授業の概要	教育課程・カリキュラムに関する基礎的事項と考え方の習得を目指すために、次の3つを主たる目的として授業内容を構成する。 第1に、各学校段階（幼稚園・保育所なども含む）の教育課程・カリキュラムに関する基本的知識と特色を習得する。 第2に、授業実践や学力問題といったさまざまな視点からアプローチすることで、教育課程・カリキュラムと授業及び評価との関わりについて理解を深める。 第3に、教育課程・カリキュラム改革の歴史に関する知識を身につけることで、今日注目を浴びているカリキュラム開発の考え方の背景について理解を深め、これらかの時代に求められる教育課程・カリキュラムのあり方について考察する。						
到達目標	・教育課程・カリキュラムに関する基本的知識を習得する ・教育課程・カリキュラムと授業・評価との関わりについて理解を深める ・教育課程・カリキュラム改革の歴史に関する知識を身につける ・今日注目を浴びているカリキュラム開発とカリキュラム評価の考え方の背景について理解を深める ・これからの時代に求められる教育課程・カリキュラムのあり方について考察を深める						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業概要の説明および、理想の時間割とは？ 第2回 「教育課程」と「カリキュラム」 第3回 幼稚園・保育所のカリキュラム 第4回 小学校のカリキュラム 第5回 中学校・高校のカリキュラム 第6回 カリキュラムと授業づくり①：教科中心 第7回 カリキュラムと授業づくり②：活動（体験）中心 第8回 カリキュラムと評価①：学力問題を中心に 第9回 教育課程の歴史①：戦後民主主義と経験主義カリキュラム 第10回 教育課程の歴史②：戦後の経済的発展と系統主義カリキュラム 第11回 教育課程の歴史③：「荒れ」の時代と「ゆとり」 第12回 教育課程の歴史④：「新しい学力観」と「確かな学力」 第13回 カリキュラムと評価②：パフォーマンス評価を中心に 第14回 カリキュラム開発とカリキュラムマネジメント 第15回 まとめと今後の課題・筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業中に指示した教科書の該当箇所や配布資料について予習をする。 授業後学習：授業で学んだことを整理し、ポイント等を教科書や参考書等で確認しながら復習し、理解を深める。						
授業方法	講義形態による授業に加えて視聴覚教材を活用するなど、多様なアプローチによって授業内容に関する学生の理解を深めることを目指す。						
評価基準と評価方法	試験60%、授業毎の課題40% 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。						
教科書	田中耕治他『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房。						
参考書	田中耕治他『新しい時代の教育課程』（第3版）有斐閣。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育経営論						
担当教員	根津 隆男						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	教育法規や教育行政について学び、子どもたちが、共に学び、共に成長する学級・学校の在り方を明らかにする						
授業の概要	まず、学校教育の歴史を振り返り、1990年代以降の変化する社会状況の中で、現代の学校園教育は如何にあるべきか、教育基本法に立ち返り、学校教育の目的を再考し、教育行政や教育制度が現在の教育法規の基でどのようなになっているのかも学習する。その上で、学校教育が担う教育機能は、子どもたちに、知識・技能の習得をさせることだけでなく、心理社会的な発達を援助する側面を重視した学校経営論を構築していく。						
到達目標	現在の学校園の実態を把握して、子どもを中心に据えた学級・学校園経営を考える						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：学校教育の目的 第3回：教育法規 第4回：学習指導要領と幼稚園教育要領 第5回：教育課程 第6回：子ども理解 第7回：保護者対応 第8回：教育行政と学校 学ぶ 第9回：教職員の組織 第10回：学校経営と心の教育 第11回：学習指導と生徒指導 第12回：育てる教育相談 第13回：海外の教育と比べて 第14回：地域の中の学校 第15回：今学校に求められるもの 定期試験 1990年代以降の子どもたち 教育基本法から探る公教育のねらいと学校に期待されるもの 学校教育法・学校教育法施行規則 子どもの指導の体系として カリキュラムの必要性とカリキュラムにないもの 子どもは自ら伸びようとする力を持っている 保護者は味方にも敵にもなる 教育行政のトップの方を招いて、教育行政と学校の関係について リーダーシップとフォロアーシップ 鍵となるルールとリレーションをつくる 学習指導計画の大切さと生徒指導のプログラム化 集団の中で個を育てる 諸外国の幼児教育、初等教育との違いについて調べる 防災教育を核とした、地域へ発信する学校 学校教育の変わらぬ意義「人は 人によって 人になる」						
授業外における学習（準備学習の内容）	学校園に出かけ、子どもとふれあい、子どもや学校・保育所の実態を知る						
授業方法	講義・演習						
評価基準と評価方法	平常点（授業態度・レポート） 30％ 演習点（興味関心度・表現力） 30％ テスト点（子どもを中心に据えた経営論が、立てられているか） 40％ 意欲（授業に関心を持ち、懸命に参加する） 知識（教育用語を十分理解している） 適性（教育に関する発言が的確にできる）						
教科書	学習指導要領解説 総則編（平成20年8月） 文部科学省 生徒指導提要（平成22年3月）						
参考書	教育六法						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育原理						
担当教員	松岡 靖						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	現代日本の教育問題を教育学の概念で分析しよう。						
授業の概要	1. 近代的な学校教育制度の成り立ちと構造を説明する。 2. 学校化社会を業績原理とジェンダーの視点で考える。 3. カウンセリングマインドを手法と背景から理解する。 4. 教育評価に関するいくつかの類型論を比較検討する。 5. 「教育」をめぐる常識と定義の違いを明らかにする。						
到達目標	1. すでに学習してきた内容を教育学の概念で反省的に振り返る。 2. 教育学理論のうち保育や教育に役立ちそうな部分を活用する。 3. 問いと答え、論理とデータを兼ね備えたレポートを発表する。						
授業計画	1. オリエンテーション：授業概要とアイスブレイク 2. 高校と大学の違い(1)：皆さんが気づくズレと理由は？ 3. 高校と大学の違い(2)：学校系統図と就進学率の歴史 4. 高校と大学の違い(3)：社会学者が大学生を比べると？ 5. 学校化社会の戦略(1)：帰属原理と業績原理はどう違う？ 6. 学校化社会の戦略(2)：女らしさと業績原理の間には？ 7. 学校化社会の戦略(3)：学校は授業で塾に勝てるか？ 8. カウンセリングマインド(1)：構成的エンカウンター 9. カウンセリングマインド(2)：中国の小学校って？ 10. 教育評価を振り返る(1)：相対と絶対を比べると？ 11. 教育評価を振り返る(2)：診断・形成・総括の三段階 12. 教育の常識から定義へ(1)：伝統的稽古と近代的教育 13. 教育の常識から定義へ(2)：「発達への介入」として 14. 教育原理を実践する：グループ発表と相互コメント 15. まとめ：レポート返却と成績説明						
授業外における学習（準備学習の内容）	1. 教科書を解説しますが各自でも読んでください。 2. 参加者が自分の物語をテキストにしてください。 3. 最後のレポートに楽しんで取り組んでください。						
授業方法	1. 前半は講義を主に進めます。 2. 後半は活動を取り入れます。 3. 途中で映像も折り込みます。						
評価基準と評価方法	1. 平常点40点（コメントカード、レポート発表など） 2. レポート60点（授業を踏まえて現代日本の教育問題を論じる） 3. 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価します。						
教科書	『サヨナラ、学校化社会』上野千鶴子、筑摩書房、978-4-480-42460-0。						
参考書	教科書は指定しつつ、必要な資料を配付し、参考文献も紹介します。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育原理						
担当教員	松岡 靖						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	現代日本の教育問題を教育学の概念で分析しよう。						
授業の概要	1. 近代的な学校教育制度の成り立ちと構造を説明する。 2. 学校化社会を業績原理とジェンダーの視点で考える。 3. カウンセリングマインドを手法と背景から理解する。 4. 教育評価に関するいくつかの類型論を比較検討する。 5. 「教育」をめぐる常識と定義の違いを明らかにする。						
到達目標	1. すでに学習してきた内容を教育学の概念で反省的に振り返る。 2. 教育学理論のうち保育や教育に役立ちそうな部分を活用する。 3. 問いと答え、論理とデータを兼ね備えたレポートを発表する。						
授業計画	1. オリエンテーション：授業概要とアイスブレイク 2. 高校と大学の違い(1)：皆さんが気づくズレと理由は？ 3. 高校と大学の違い(2)：学校系統図と就進学率の歴史 4. 高校と大学の違い(3)：社会学者が大学生を比べると？ 5. 学校化社会の戦略(1)：帰属原理と業績原理はどう違う？ 6. 学校化社会の戦略(2)：女らしさと業績原理の間には？ 7. 学校化社会の戦略(3)：学校は授業で塾に勝てるか？ 8. カウンセリングマインド(1)：構成的エンカウンター 9. カウンセリングマインド(2)：中国の小学校って？ 10. 教育評価を振り返る(1)：相対と絶対を比べると？ 11. 教育評価を振り返る(2)：診断・形成・総括の三段階 12. 教育の常識から定義へ(1)：伝統的稽古と近代的教育 13. 教育の常識から定義へ(2)：「発達への介入」として 14. 教育原理を実践する：グループ発表と相互コメント 15. まとめ：レポート返却と成績説明						
授業外における学習（準備学習の内容）	1. 教科書を解説しますが各自でも読んでください。 2. 参加者が自分の物語をテキストにしてください。 3. 最後のレポートに楽しんで取り組んでください。						
授業方法	1. 前半は講義を主に進めます。 2. 後半は活動を取り入れます。 3. 途中で映像も折り込みます。						
評価基準と評価方法	1. 平常点40点（コメントカード、レポート発表など） 2. レポート60点（授業を踏まえて現代日本の教育問題を論じる） 3. 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価します。						
教科書	『サヨナラ、学校化社会』上野千鶴子、筑摩書房、978-4-480-42460-0。						
参考書	教科書は指定しつつ、必要な資料を配付し、参考文献も紹介します。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育心理学						
担当教員	藤本 浩一						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの発達の理解と学習支援						
授業の概要	教職活動を行うためには実習などの経験に加えて知識の枠組みが有用である。心理学的知識を修得し、子どもを理解し受容する姿勢を養うことにつなげる。内容としては、子どもの認知・言語・社会性の発達についての理解、学習の動機づけや認知プロセス、学級集団、教師の力量、人格理論と心理検査および心理療法、不適応児の指導と発達アンバランス（発達障害）、特別支援教育、教育評価などである。						
到達目標	子どもの発達と記憶・学習に関する知識を整理できる。それらを教育場面に応用すればどうなるかを説明できる社会性の発達を学び、そこから不適応や「いじめ」について考察し、対処法を説明できる。						
授業計画	1. 「教育活動」学ぶ楽しさとは何か。知識獲得の方法 2. 生涯発達の心理学（1）初期経験・乳幼児期 3. 生涯発達の心理学（2）児童期・青年期から成人期まで 4. 社会性の発達と「いじめ」対人関係の発達と「いじめ」の関連を探る 5. 発達障害（1）発達障害に関する正しい知識と取り組みの姿勢 LD、ADHD 6. 発達障害（2）自閉症の特徴と支援の方法 7. 学習と記憶 記憶活動の仕組みを教育との関連で紹介する。 8. 「「わかる」ことのプロセス」知識を覚えるだけでなく「わかる」ことの過程を検討する。 9. 人との関わり、社会との関わり 10. 不適応 不登校・ひきこもりなど、教育現場での不適応について、原因や対処法を学ぶ。 11. 「知能」 知能観を検討しつつ、頭の良さとは何かを考える。 12. 「心理アセスメント」 教育現場で有効な心理査定について、知能テストや性格テストを実習し概説する。 13. 「教師心理」 教師のストレスや教師のリーダーシップと学級経営の関係について。 14. 「学級集団」 集団としての学級の性質を社会心理学の観点から学ぶ。 15. 「復習と評価」 半期授業内容の復習と確認。記述式の筆記試験を行う（持ち込み不可）。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に書きとめたノートを復習し、予告された各回の授業内容に関してインターネットや文献などで下調べを行う。						
授業方法	講義、討論、視聴覚教材						
評価基準と評価方法	授業中に簡単な提出物を課す（50％）。記述式テストを学期末に行う（50％）。なお、履修カルテについては「意欲」「知識」「適性」の3つの観点で評価する。						
教科書							
参考書	タイトルに「教育心理学」を含む書物						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育心理学						
担当教員	藤本 浩一						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの発達の理解と学習支援						
授業の概要	教職活動を行うためには実習などの経験に加えて知識の枠組みが有用である。心理学的知識を修得し、子どもを理解し受容する姿勢を養うことにつなげる。内容としては、子どもの認知・言語・社会性の発達についての理解、学習の動機づけや認知プロセス、学級集団、教師の力量、人格理論と心理検査および心理療法、不適応児の指導と発達アンバランス（発達障害）、特別支援教育、教育評価などである。						
到達目標	子どもの発達と記憶・学習に関する知識を整理できる。それらを教育場面に応用すればどうなるかを説明できる社会性の発達を学び、そこから不適応や「いじめ」について考察し、対処法を説明できる。						
授業計画	1. 「教育活動」学ぶ楽しさとは何か。知識獲得の方法 2. 生涯発達の心理学（1）初期経験・乳幼児期 3. 生涯発達の心理学（2）児童期・青年期から成人期まで 4. 社会性の発達と「いじめ」対人関係の発達と「いじめ」の関連を探る 5. 発達障害（1）発達障害に関する正しい知識と取り組みの姿勢 LD、ADHD 6. 発達障害（2）自閉症の特徴と支援の方法 7. 学習と記憶 記憶活動の仕組みを教育との関連で紹介する。 8. 「「わかる」ことのプロセス」知識を覚えるだけでなく「わかる」ことの過程を検討する。 9. 人との関わり、社会との関わり 10. 不適応 不登校・ひきこもりなど、教育現場での不適応について、原因や対処法を学ぶ。 11. 「知能」 知能観を検討しつつ、頭の良さとは何かを考える。 12. 「心理アセスメント」 教育現場で有効な心理査定について、知能テストや性格テストを実習し概説する。 13. 「教師心理」 教師のストレスや教師のリーダーシップと学級経営の関係について。 14. 「学級集団」 集団としての学級の性質を社会心理学の観点から学ぶ。 15. 「復習と評価」 半期授業内容の復習と確認。記述式の筆記試験を行う（持ち込み不可）。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に書きとめたノートを復習し、予告された各回の授業内容に関してインターネットや文献などで下調べを行う。						
授業方法	講義、討論、視聴覚教材						
評価基準と評価方法	授業中に簡単な提出物を課す（50％）。記述式テストを学期末に行う（50％）。なお、履修カルテについては「意欲」「知識」「適性」の3つの観点で評価する。						
教科書							
参考書	タイトルに「教育心理学」を含む書物						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習Ⅰ						
担当教員	根津 隆男						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	効果的な教育実習を行う						
授業の概要	小学校教育実習で、直接、児童と触れ合うことを通して、子ども理解を深め、実習校園の教師の指導の下で、教育の実践を体験する。実習期間中は教育内容等を記録して、実習校園の担当教員の指導を受ける。						
到達目標	幼稚園・小学校教育の現場で、教育実習を体験することにより、これまで学習してきた教科の知識・技能を、現実の小学校教諭としての仕事内容や役割など、実践を通して学び、児童理解をさらに深め、小学校教員としての教育観をもつ。						
授業計画	授業のほとんどは、実習校園で行われる。授業内容は、下記のとおりである。 ・教育実習校園訪問 （実習校園へのあいさつ・実習校園でのオリエンテーション・担当クラス、教材等の確認） ・教育実習 （見学、観察、参加実習、実習記録の記入等） ・研究授業 （研究保育・代表授業等） ・研究事業の反省会 （研究授業後の自己評価、実習校園長、指導教員等からの指導助言） ・事後指導 （自己評価、実習記録の整理と提出）						
授業外における学習（準備学習の内容）	目標に迫るための模擬授業（保育）をする。 課題解決に向けて、学校園現場に積極的に関わる。						
授業方法	実習校園における実習						
評価基準と評価方法	実習校園における勤務状況、実習の成績評価 50％ 教育実習の記録等の評価 50％ を総合して評価する						
教科書							
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習Ⅰ						
担当教員	春 豊子						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	効果的な教育実習を行う。						
授業の概要	幼稚園教育実習で、直接幼児とふれあい、実習園の教師の指導を通して、幼児理解を深めながら教育の実験を体験する。実習期間中は教育内容等を記録して、実習園の担当教員の指導を受ける。						
到達目標	幼稚園教諭としての仕事内容や役割を、幼稚園教育の現場で教育実習を体験することにより、これまで習熟してきた教科の知識・技能と実践との関係について学び、実践力を身につける。						
授業計画	授業のほとんどは、実習園で行われる。授業内容は、下記のとおりである。 ・教育実習園訪問（実習園へのあいさつ・実習園でのオリエンテーション・担当クラス、教材等の確認） ・教育実習（見学、観察、参加実習、実習記録の記入 等） ・責任実習（部分保育、研究保育、全日保育 等） ・責任実習の反省会（責任実習後の自己評価、実習園長・指導教員等からの指導助言） ・事後指導（自己評価、実習記録の整理と提出）						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：目標にせまるための模擬保育や教材研究などを行う。 授業後学習：課題解決に向けて、ボランティア等で幼稚園現場と積極的にかかわる。						
授業方法	実習園における実習						
評価基準と評価方法	実習園における勤務状況、実習の成績評価 50% 教育実習の記録等の評価 50% を総合して評価する。						
教科書	「実習の手引」神戸松蔭女子学院大学 人間科学部 子ども発達学科 教育実習指導で配布したプリント						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習Ⅰ						
担当教員	春 豊子						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	効果的な教育実習を行う。						
授業の概要	幼稚園教育実習で、直接幼児とふれあい、実習園の教師の指導を通して、幼児理解を深めながら教育の実際を体験する。実習期間中は教育内容等を記録して、実習園の担当教員の指導を受ける。						
到達目標	幼稚園教諭としての仕事内容や役割を、幼稚園教育の現場で教育実習を体験することにより、これまで習熟してきた教科の知識・技能と実践との関係について学び、実践力を身につける。						
授業計画	授業のほとんどは、実習園で行われる。授業内容は、下記のとおりである。 ・教育実習園訪問（実習園へのあいさつ・実習園でのオリエンテーション・担当クラス、教材等の確認） ・教育実習（見学、観察、参加実習、実習記録の記入 等） ・責任実習（部分保育、研究保育、全日保育 等） ・責任実習の反省会（責任実習後の自己評価、実習園長・指導教員等からの指導助言） ・事後指導（自己評価、実習記録の整理と提出）						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：目標にせまるための模擬保育や教材研究などを行う。 授業後学習：課題解決に向けて、ボランティア等で幼稚園現場と積極的にかかわる。						
授業方法	実習園における実習						
評価基準と評価方法	実習園における勤務状況、実習の成績評価 50% 教育実習の記録等の評価 50% を総合して評価する。						
教科書	「実習の手引」神戸松蔭女子学院大学 人間科学部 子ども発達学科 教育実習指導で配布したプリント						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習指導						
担当教員	根津 隆男						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	「学校園現場の実態把握を的確にする教育実習を目指す」						
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生がこれまでに学んできた専門的な理論や技術、教職科目・一般教育科目の理論や知識を、教育現場で実践に結び付ける貴重な体験の場である。 まず教育実習の意義と目的を認識し、教育者としての使命感と自覚を強く持ち、教育実習に対する心構えをしっかりと持つ。また、学校園・子どもたちの実態を把握し、理想と現実をより近いものにしていく。						
到達目標	模擬実習を経験して、子供・教職員へのあいさつの仕方や子供が主体となる授業・保育づくりなどを学び、教育実習に対する興味・関心、意欲を高める。						
授業計画	第1回：オリエンテーション：教育実習の概要 第2回：教育実習の意地：教育実習の目的 第3回：子どもたち・学校園の実態：最近の学校園、子どもたちの実態把握 第4回：教育実習に向けての心構え：記録の書き方 第5回：学校園の生活：1日の生活時程の把握 第6回：学習指導①：授業の基本・教材研究と指導計画の作成 第7回：学習指導②：学習指導案の作成・模擬授業 第8回：危機管理：生徒指導・保護者対応 第9回：模擬実習①：模擬授業・生徒指導とロールプレイ 第10回：模擬実習②：模擬授業・学習展開の実際 第11回：教育観①：友達の感想を知り、自己の教育観を再考する 第12回：教育観②：グループで実習後の教育観を交換し、全体で発表する 第13回：教育観③：今後の課題 第14回：教育観④：震災から学ぶ防災教育 第15回：まとめ：子どもの前に立って						
授業外における学習（準備学習の内容）	ボランティアなど、学校園現場とのかかわりを積極的にもつ						
授業方法	講義・演習						
評価基準と評価方法	授業態度（興味・関心度等） 50％ 提出物（実習計画・実習反省・指導案等） 50％						
教科書	教育実習の手引き（神戸松蔭女子学院大学作成）						
参考書	小学校学習指導要領解説総則編（平成20年版）						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習指導						
担当教員	根津 隆男						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	「学校園現場の実態把握を的確にする教育実習を目指す」						
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生がこれまでに学んできた専門的な理論や技術、教職科目・一般教育科目の理論や知識を、教育現場で実践に結び付ける貴重な体験の場である。 まず教育実習の意義と目的を認識し、教育者としての使命感と自覚を強く持ち、教育実習に対する心構えをしっかりと持つ。また、学校園・子どもたちの実態を把握し、理想と現実をより近いものにしていく。						
到達目標	模擬実習を経験して、子供・教職員へのあいさつの仕方や子供が主体となる授業・保育づくりなどを学び、教育実習に対する興味・関心、意欲を高める。						
授業計画	第1回：オリエンテーション：教育実習の概要 第2回：教育実習の意地：教育実習の目的 第3回：子どもたち・学校園の実態：最近の学校園、子どもたちの実態把握 第4回：教育実習に向けての心構え：記録の書き方 第5回：学校園の生活：1日の生活時程の把握 第6回：学習指導①：授業の基本・教材研究と指導計画の作成 第7回：学習指導②：学習指導案の作成・模擬授業 第8回：危機管理：生徒指導・保護者対応 第9回：模擬実習①：模擬授業・生徒指導とロールプレイ 第10回：模擬実習②：模擬授業・学習展開の実際 第11回：教育観①：友達の感想を知り、自己の教育観を再考する 第12回：教育観②：グループで実習後の教育観を交換し、全体で発表する 第13回：教育観③：今後の課題 第14回：教育観④：震災から学ぶ防災教育 第15回：まとめ：子どもの前に立って						
授業外における学習（準備学習の内容）	ボランティアなど、学校園現場とのかかわりを積極的にもつ						
授業方法	講義・演習						
評価基準と評価方法	授業態度（興味・関心度等） 50％ 提出物（実習計画・実習反省・指導案等） 50％						
教科書	教育実習の手引き（神戸松蔭女子学院大学作成）						
参考書	小学校学習指導要領解説総則編（平成20年版）						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習指導						
担当教員	春 豊子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	幼稚園現場の実態把握を的確にする教育実習を目指す						
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生が、これまで学んできた専門的な理論や技術、教職科目・一般教育科目の理論や知識を、教育現場で実践に結びつける貴重な体験の場である。 まず、教育実習の意義と目的を確認し、教育者としての使命感と自覚を強くもち、教育実習に対する心構えをしっかりともつ。また、幼稚園生活の様子を映像で観て、幼稚園・幼児の実態を把握し、理想と現実をより近いものにしていく。						
到達目標	模擬実習を経験して、幼児・教職員へのあいさつの仕方や幼児が主体となる保育づくりなどを学び、教育実習に対する興味・関心、意欲を高める。						
授業計画	(事前指導) 第1回 オリエンテーション : 教育実習の概要 幼稚園のデイリープログラム 第2回 教育実習の意義と心得 : 幼稚園教育の基礎・基本 実習生としての自覚・身だしなみ 第3回 教育実習に向けての心構え : 保育教材の研究と準備 保育指導案の書き方 (部分・研究・全日) 第4回 保育指導 (1) : 模擬保育とディスカッション 保育指導案の作成 第5回 保育指導 (2) : 模擬保育とディスカッション 実習日誌の書き方① 第6回 保育指導 (3) : 模擬保育とディスカッション 実習日誌の書き方② 第7回 保育指導 (4) : 模擬保育とディスカッション 実習終了後の心構え 第8回 保育指導 (5) : 模擬保育とディスカッション エピソード記録について 第9回 保育指導 (6) : 模擬保育とディスカッション 幼稚園における子育て支援の実際 第10回 保育指導 (7) : 模擬保育とディスカッション 特別な配慮を必要とする子供への対応 (事後指導) 第11回 実習の振り返り (1) : チェックリストに基づいての自己評価 第12回 実習の振り返り (2) : 学習内容の整理 教育観を交換する 第13回 実習の振り返り (3) : 今後の課題と課題解決に向けて 第14回 危機管理 : 安全管理と保護者対応 第15回 園内研修の在り方 : 保育カンファレンス						
授業外における学習 (準備学習の内容)	ボランティアなど、幼稚園現場との関わりを積極的にもつ。						
授業方法	講義形式、演習形式						
評価基準と評価方法	授業態度 (興味・関心度 等) 50% 提出物 (実習に向けて、模擬保育指導案、実習報告 等) 50% を総合して評価する。						
教科書	「教育実習の手引き」 (神戸松蔭女子学院大学作成版)						
参考書	幼稚園教育要領解説 (平成20年版) 保育の基本用語 長島 和代 編 わかば社 保育のマナーと言葉 長島 和代 編 わかば社						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習指導						
担当教員	春 豊子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	幼稚園現場の実態把握を的確にする教育実習を目指す						
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生が、これまで学んできた専門的な理論や技術、教職科目・一般教育科目の理論や知識を、教育現場で実践に結びつける貴重な体験の場である。 まず、教育実習の意義と目的を確認し、教育者としての使命感と自覚を強くもち、教育実習に対する心構えをしっかりともつ。また、幼稚園生活の様子を映像で観て、幼稚園・幼児の実態を把握し、理想と現実をより近いものにしていく。						
到達目標	模擬実習を経験して、幼児・教職員へのあいさつの仕方や幼児が主体となる保育づくりなどを学び、教育実習に対する興味・関心、意欲を高める。						
授業計画	(事前指導) 第1回 オリエンテーション : 教育実習の概要 幼稚園のデイリープログラム 第2回 教育実習の意義と心得 : 幼稚園教育の基礎・基本 実習生としての自覚・身だしなみ 第3回 教育実習に向けての心構え : 保育教材の研究と準備 保育指導案の書き方 (部分・研究・全日) 第4回 保育指導 (1) : 模擬保育とディスカッション 保育指導案の作成 第5回 保育指導 (2) : 模擬保育とディスカッション 実習日誌の書き方① 第6回 保育指導 (3) : 模擬保育とディスカッション 実習日誌の書き方② 第7回 保育指導 (4) : 模擬保育とディスカッション 実習終了後の心構え 第8回 保育指導 (5) : 模擬保育とディスカッション エピソード記録について 第9回 保育指導 (6) : 模擬保育とディスカッション 幼稚園における子育て支援の実際 第10回 保育指導 (7) : 模擬保育とディスカッション 特別な配慮を必要とする子供への対応 (事後指導) 第11回 実習の振り返り (1) : チェックリストに基づいての自己評価 第12回 実習の振り返り (2) : 学習内容の整理 教育観を交換する 第13回 実習の振り返り (3) : 今後の課題と課題解決に向けて 第14回 危機管理 : 安全管理と保護者対応 第15回 園内研修の在り方 : 保育カンファレンス						
授業外における学習 (準備学習の内容)	ボランティアなど、幼稚園現場との関わりを積極的にもつ。						
授業方法	講義形式、演習形式						
評価基準と評価方法	授業態度 (興味・関心度 等) 50% 提出物 (実習に向けて、模擬保育指導案、実習報告 等) 50% を総合して評価する。						
教科書	「教育実習の手引き」 (神戸松蔭女子学院大学作成版)						
参考書	幼稚園教育要領解説 (平成20年版) 保育の基本用語 長島 和代 編 わかば社 保育のマナーと言葉 長島 和代 編 わかば社						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習指導						
担当教員	春 豊子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3～4	単位数	1.0
授業のテーマ	幼稚園現場の実態把握を的確にする教育実習を目指す						
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生が、これまで学んできた専門的な理論や技術、教職科目・一般教育科目の理論や知識を、教育現場で実践に結びつける貴重な体験の場である。 まず、教育実習の意義と目的を確認し、教育者としての使命感と自覚を強くもち、教育実習に対する心構えをしっかりともつ。また、幼稚園生活の様子を映像で観て、幼稚園・幼児の実態を把握し、理想と現実をより近いものにしていく。						
到達目標	模擬実習を経験して、幼児・教職員へのあいさつの仕方や幼児が主体となる保育づくりなどを学び、教育実習に対する興味・関心、意欲を高める。						
授業計画	(事前指導) 第1回 オリエンテーション : 教育実習の概要 幼稚園のデイリープログラム 第2回 教育実習の意義と心得 : 幼稚園教育の基礎・基本 実習生としての自覚・身だしなみ 第3回 教育実習に向けての心構え : 保育教材の研究と準備 保育指導案の書き方 (部分・研究・全日) 第4回 保育指導 (1) : 絵本の読み聞かせ (ゲストスピーカー招聘) 第5回 保育指導 (2) : 模擬保育とディスカッション 保育指導案の作成 第6回 保育指導 (3) : 模擬保育とディスカッション 実習日誌の書き方① 第7回 保育指導 (4) : 模擬保育とディスカッション 実習終了後の心構え 第8回 保育指導 (5) : 模擬保育とディスカッション エピソード記録について 第9回 保育指導 (6) : 模擬保育とディスカッション 幼稚園における子育て支援の実際 第10回 保育指導 (7) : 模擬保育とディスカッション 特別な支援を必要とする子供への対応 (事後指導) 第11回 実習の振り返り (1) : チェックリストに基づいての自己評価 第12回 実習の振り返り (2) : 学習内容の整理 教育観を交換する 第13回 実習の振り返り (3) : 今後の課題と課題解決に向けて 第14回 危機管理 : 安全管理と保護者対応 第15回 園内研修の在り方 : 保育カンファレンス						
授業外における学習 (準備学習の内容)	ボランティアなど、幼稚園現場との関わりを積極的にもつ。						
授業方法	講義形式、演習形式						
評価基準と評価方法	授業態度 (興味・関心度 等) 50% 提出物 (実習に向けて、模擬保育指導案、実習報告 等) 50% を総合して評価する。						
教科書	「教育実習の手引き」 (神戸松蔭女子学院大学作成版)						
参考書	幼稚園教育要領解説 (平成20年版) 保育の基本用語 長島 和代 編 わかば社 保育のマナーと言葉 長島 和代 編 わかば社						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習指導						
担当教員	春 豊子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	3～4	単位数	1.0
授業のテーマ	幼稚園現場の実態把握を的確にする教育実習を目指す						
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生が、これまで学んできた専門的な理論や技術、教職科目・一般教育科目の理論や知識を、教育現場で実践に結びつける貴重な体験の場である。 先ず、教育実習の意義と目的を確認し、教育者としての使命感と自覚を強くもち、教育実習に対する心構えをしっかりともつ。また、幼稚園生活の様子を映像で観て、幼稚園・幼児の実態を把握し、理想と現実をより近いものにしていく。						
到達目標	模擬実習を経験して、幼児・教職員へのあいさつの仕方や幼児が主体となる保育づくりなどを学び、教育実習に対する興味・関心、意欲を高める。						
授業計画	(事前指導) 第1回 オリエンテーション 第2回 教育実習の意義と心得 第3回 教育実習に向けての心構え 第4回 保育指導 (1) 第5回 保育指導 (2) 第6回 保育指導 (3) 第7回 保育指導 (4) 第8回 保育指導 (5) 第9回 保育指導 (6) 第10回 保育指導 (7) : 教育実習の概要 幼稚園のデイリープログラム : 幼稚園教育の基礎・基本 実習生としての自覚・身だしなみ : 保育指導案の書き方 (部分・研究・全日) : 模擬保育とディスカッション 保育指導案の作成 : 絵本の読み聞かせ (ゲストスピーカー招聘) : 模擬保育とディスカッション 実習日誌の書き方 : 模擬保育とディスカッション 実習終了後の心構え : 模擬保育とディスカッション エピソード記録について : 模擬保育とディスカッション 幼稚園における子育て支援の実際 : 模擬保育とディスカッション 特別な支援を必要とする子供への対応 (事後指導) 第11回 実習の振り返り (1) 第12回 実習の振り返り (2) 第13回 実習の振り返り (3) 第14回 危機管理 第15回 園内研修の在り方 : チェックリストに基づいての自己評価 : 学習内容の整理 教育観を交換する : 今後の課題と課題解決に向けて : 安全管理と保護者対応 : 保育カンファレンス						
授業外における学習 (準備学習の内容)	ボランティアなど、幼稚園現場との関わりを積極的にもつ。						
授業方法	講義形式、演習形式						
評価基準と評価方法	授業態度 (興味・関心度 等) 50% 提出物 (実習に向けて、模擬保育指導案、実習報告 等) 50% を総合して評価する。						
教科書	「教育実習の手引き」 (神戸松蔭女子学院大学作成版)						
参考書	幼稚園教育要領解説 (平成20年版) 保育の基本用語 長島 和代 編 わかば社 保育のマナーと言葉 長島 和代 編 わかば社						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育相談						
担当教員	根津 隆男						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	学級経営・生徒指導上の問題対応できる予防的開発的教育相談						
授業の概要	学校教育現場においては、児童個人に対して、治療的教育相談だけでなく、学級経営上・生徒指導上の対応できる予防的開発的教育相談の必要性が高まっている。本講義では、教師として身につけたい教育相談の知識と手法について知り、事例研究やグループワーク・ロールプレイを通して児童支援の実践を理解していく。						
到達目標	個々の児童の治療的な教育相談だけでなく、学級経営・生徒指導上の問題について理解し、集団を対象として予防的開発的教育相談について知識の理解と手法の獲得を通して、教師としての児童理解の姿勢とスキルを身につけると同時に、生徒指導との関連で考えることが出来るようにする。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 構成的グループエンカウンターを通して、対人関係上の問題について理解を図る 第2回：現代の子どもの問題 教師に必要な学校教育相談（「生徒指導提要」から） 第3回：現代の子どもの問題（2）子どもの問題行動の背景 第4回：教育相談の理論と方法（1）来談者中心療法、認知行動療法、精神分析療法 第5回：教育相談の理論と方法（2）マイクロカウンセリング、ブリーフセラピー 第6回：教育相談の個別支援（1）不登校 第7回：教育相談の個別支援（2）いじめ 第8回：教育相談の個別支援（3）非行 第9回：教育相談の個別支援（4）保護者対応 第10回：予防的開発的教育相談（育てる教育相談）の7考え方 第11回：予防的開発的教育相談（1）構成的グループエンカウンター 第12回：予防的開発的教育相談（2）社会的スキル教育 第13回：予防的開発的教育相談（3）ピアサポート 第14回：学校教育現場における教育相談と生徒指導（ガイダンスカリキュラム） 第15回：まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	事例研究やグループワーク・ロールプレイを中心に授業を進めるので、積極的な参加する姿勢を望む						
授業方法	講義と事例研究やグループワーク・ロールプレイなど参加型のプログラムを実施していく						
評価基準と評価方法	平常点 30% レポート30% 試験 40%						
教科書	文部科学省（2010）「生徒指導提要」教育図書						
参考書	國分康孝監修（1999）「構成的グループエンカウンターで子どもが変わるショートエクササイズ集」図書文化 國分康孝監修 小林正幸・相川充編（1999）「ソーシャルスキル教育で子どもが変わる」図書文化 中村豊（2013）「子どもの基礎的人間力養成のための積極的生徒指導 児童生徒における社会性の育ちそびれの考察」学事出版						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育の方法と技術						
担当教員	大下 卓司						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	教育方法・教育技術を知り、習得する						
授業の概要	学校で行われるさまざまな教育やその背後にある教育学的知見、心理学的知見、法規的規程、教師としての経験、子どもの学びに着目し、それらに存在する教育方法、教育技術を知り、教師として今後これらを駆使する能力を育成する。また、幼稚園教諭の実践を合わせて取り上げることで、子どもの発達段階と学習の関係を考察する。						
到達目標	(1) これまでの教育課程においてどのような能力の形成が目指されていたのかを理解できる (2) 授業を教える立場からとらえ、教授と学習の関係について理解できる (3) 教育方法及び教育技術について理解できる						
授業計画	第1回 オリエンテーション：学校の組織と授業について 第2回 学習指導要領の変遷：日本の教育の変遷について 第3回 教育課程と授業：教育課程の法的規程について 第4回 授業の構成要素：教育目標・教材・教授行為・学習形態と、その実践 第5回 学習指導案とは何か：学習指導案の作成と教材研究について 第6回 教育の評価：教育評価の役割と評価方法（観察を含む）、評価の留意点（発達段階等）について学ぶ。 第7回 子どもの学びと教育方法：子どもに効果的な指導言と板書の類型について学ぶ 第8回 教育実践事例の検討（1）：子どもをひきつける教材や学習形態のあり方について考える。 第9回 教育実践事例の検討（2）：「総合的な学習の時間」を通じて、学習での直接経験の役割を理解する。 第10回 情報機器の活用した授業：ICTを取り入れた効果的な授業方法について学ぶ。 第11回 学習指導案づくり（1）：グループを作成し、単元計画を中心に学習指導案を実際に作成してみる。 第12回 学習指導案づくり（2）：グループで本時の展開を中心に学習指導案を作成する。 第13回 模擬授業発表会（1）：グループで役割分担を行い、学習指導案を模擬授業として発表する。 第14回 模擬授業発表会（2）：グループで役割分担を行い、学習指導案を模擬授業として発表する。 第15回 まとめと教育改革の動向：能力ベースのカリキュラム、アクティブラーニングなど教育改革の動向について学ぶ。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前に前の授業で配布した資料の該当箇所を読み、理解できなかったことをメモしておくこと。 授業で配布した資料や自分の記録を読み返し、理解を深めること。 学習指導案作成による模擬授業の計画・実施を通じて、体験的に学習を深めること。						
授業方法	講義、演習、視聴覚教材						
評価基準と評価方法	模擬授業の発表および作成した学習指導案60%、授業毎の課題20%、レポート20%で評価を行う。 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行う。						
教科書	授業時に適宜、資料として配布する。						
参考書	『よくわかる授業論』、田中耕治編、ミネルヴァ書房、ISBN：978-4-623-04332-3 『新しい時代の教育方法』、田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之著、有斐閣、ISBN：978-4130513203						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育の方法と技術						
担当教員	大下 卓司						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	教育方法・教育技術を知り、習得する						
授業の概要	学校で行われるさまざまな教育やその背後にある教育学的知見、心理学的知見、法規的規程、教師としての経験、子どもの学びに着目し、それらに存在する教育方法、教育技術を知り、教師として今後これらを駆使する能力を育成する。また、幼稚園教諭の実践を合わせて取り上げることで、子どもの発達段階と学習の関係を考察する。						
到達目標	(1) これまでの教育課程においてどのような能力の形成が目指されていたのかを理解できる (2) 授業を教える立場からとらえ、教授と学習の関係について理解できる (3) 教育方法及び教育技術について理解できる						
授業計画	第1回 オリエンテーション：学校の組織と授業について 第2回 学習指導要領の変遷：日本の教育の変遷について 第3回 教育課程と授業：教育課程の法的規程について 第4回 授業の構成要素：教育目標・教材・教授行為・学習形態と、その実践 第5回 学習指導案とは何か：学習指導案の作成と教材研究について 第6回 教育の評価：教育評価の役割と評価方法（観察を含む）、評価の留意点（発達段階等）について学ぶ。 第7回 子どもの学びと教育方法：子どもに効果的な指導言と板書の類型について学ぶ 第8回 教育実践事例の検討（1）：子どもをひきつける教材や学習形態のあり方について考える。 第9回 教育実践事例の検討（2）：「総合的な学習の時間」を通じて、学習での直接経験の役割を理解する。 第10回 情報機器の活用した授業：ICTを取り入れた効果的な授業方法について学ぶ。 第11回 学習指導案づくり（1）：グループを作成し、単元計画を中心に学習指導案を実際に作成してみる。 第12回 学習指導案づくり（2）：グループで本時の展開を中心に学習指導案を作成する。 第13回 模擬授業発表会（1）：グループで役割分担を行い、学習指導案を模擬授業として発表する。 第14回 模擬授業発表会（2）：グループで役割分担を行い、学習指導案を模擬授業として発表する。 第15回 まとめと教育改革の動向：能力ベースのカリキュラム、アクティブラーニングなど教育改革の動向について学ぶ。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前に前の授業で配布した資料の該当箇所を読み、理解できなかったことをメモしておくこと。 授業で配布した資料や自分の記録を読み返し、理解を深めること。 学習指導案作成による模擬授業の計画・実施を通じて、体験的に学習を深めること。						
授業方法	講義、演習、視聴覚教材						
評価基準と評価方法	模擬授業の発表および作成した学習指導案60%、授業毎の課題20%、レポート20%で評価を行う。 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行う。						
教科書	授業時に適宜、資料として配布する。						
参考書	『よくわかる授業論』、田中耕治編、ミネルヴァ書房、ISBN：978-4-623-04332-3 『新しい時代の教育方法』、田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之著、有斐閣、ISBN：978-4130513203						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	内田 祐貴						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校における理科教育について、知識技術を深め、理科の得意な教員を目指す。						
授業の概要	理科指導法をうけ、さらに各学年の理科で扱うそれぞれの内容に対して、具体的な授業案や教材を作成できるための準備として、より深く、理科教育法について学ぶ。						
到達目標	・理科の授業を行うための、特に実験についての指導方法を身に付ける ・教材作成のための、資料準備や活用方法を身につける。						
授業計画	第01回 オリエンテーション 第02回 生物の育成観察について 第03回 3年生「物と重さ」学習内容と実験 第04回 3年生「物と重さ」模擬授業 第05回 3年生「風やゴムの働き」学習内容と実験 第06回 3年生「風やゴムの働き」模擬授業 第07回 博物館、科学館教育について 第08回 3年生「磁石の性質」学習内容と実験 第09回 3年生「磁石の性質」模擬授業 第10回 3年生「電気の通り道」学習内容と実験 第11回 3年生「電気の通り道」模擬授業 第12回 4年生「空気と水の性質」学習内容と実験 第13回 4年生「空気と水の性質」模擬授業 第14回 4年生「金属、水、空気と温度」学習内容と実験 第15回 4年生「金属、水、空気と温度」学習内容と実験 デジタル教材の使い方や、アクティブラーニング、先行事例研究などもこれらの具体的な単元を使いながら行っていきます。						
授業外における学習（準備学習の内容）	博物館教育として水族館や青少年科学館での子どもの学習について考える。 最近の理科教育について興味をもったものを調べておく。						
授業方法	講義と発表、実験実習、提出物の作成						
評価基準と評価方法	提出物など(60)を主資料として取り組みの熱意、平常点など(40)を考慮する						
教科書							
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	大下 卓司						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	学生による発表を通じて、過去の優れた教育実践について学び、現代の問題を結びつけて教育を考える						
授業の概要	教育方法学の基本文献を共通テキストに設定し、担当を決めて読み進めていく。担当者は、割り当てられた部分の要約と話題提供を行い、学生全員で議論する。教員も議論に加わり、補足説明や論点の提示を適宜行う。						
到達目標	・やや専門的な文献の読み方・まとめ方を身につける ・発表を通じて、プレゼンテーションと質疑応答の技術、他者の意見を受け止め、応答的に議論する力を身につける ・教育実践・研究の蓄積を、自分自身の素朴な疑問や、現代日本の教育問題と結び付けて学ぶ思考を身につける						
授業計画	第1回 オリエンテーション、授業の目的と進め方の説明 第2回 テキストの内容に関する説明、レジュメの作り方と発表方法の説明 第3回 資料・文献の探し方 第4回 雑誌論文を用いたレジュメ作成と発表の練習 第5回 雑誌論文を用いたレジュメ作成と発表の練習 第6回 テキスト発表とディスカッション 第7回 テキスト発表とディスカッション 第8回 テキスト発表とディスカッション 第9回 テキスト発表とディスカッション 第10回 テキスト発表の中間まとめ 第11回 テキスト発表とディスカッション 第12回 テキスト発表とディスカッション 第13回 テキスト発表とディスカッション 第14回 テキスト発表とディスカッション 第15回 総括討論とレポート課題の説明						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時に指示したテキストの該当箇所の予習を行う。						
授業方法	テキストの要約の作成・発表と全体討論。議論の深まりに応じて、博物館や科学館など学外の社会教育施設等に行き、学校以外の教育機関における教育について学ぶ。						
評価基準と評価方法	授業中への出席と積極的な参加を前提としながら、平常点50%とレポート課題50%で評価する。						
教科書							
参考書	中室牧子『学力の経済学』ディスカバリー、2014年。 田中耕治編『時代を拓いた教師たち』日本標準、2005年。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	奥 美佐子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもと美術Ⅰ						
授業の概要	美術教育では表現と鑑賞における相互の関係を重視している。美術の表現と鑑賞に関わるテーマを設定して、材料研究、文献や美術作品及び子どもの作品を介して、意見の相互交換を行う。アウトサイダーアートなど現代の美術及び美術教育の動向を共有し、文献購読、作品鑑賞、実践研究から子どもの造形行為の読み取りや子ども理解に関する課題を見出し、課題解決の道筋で子どもの造形・美術教育関わる専門的な議論ができるようにする。						
到達目標	以下を到達目標とする。 ・アウトサイダー・アートについて解説でき、意見を交換することができる。 ・文献を的確に要約することができる。 ・興味ある課題を見つけることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 美術作品及び子どもの作品を通して 1 現代美術と子どもの美術 第3回 美術作品及び子どもの作品を通して 2 アウトサイダー・アートA 第4回 美術作品及び子どもの作品を通して 3 アウトサイダー・アートB 第5回 美術作品及び子どもの作品を通して 4 まとめ 第6回 教材研究 1 学生の提案から 第7回 教材研究 2 学生の提案から 第8回 教材研究 3 学生の提案から 第9回 文献検索 第10回 課題レポートの書き方 第11回 文献購読と要約 1 第12回 文献購読と要約 2 第13回 課題レポートのプレゼンテーション1 第14回 課題レポートのプレゼンテーション2 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：課題について、各自資料を収集しておく。 授業後学習：資料や作品などについて要点をまとめ、次回につなぐようにする。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	参加態度、作品、提出物など30%、発表及び課題レポート70%で評価する。						
教科書	必要な文献を指定する。						
参考書	必要に応じて紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	奥村 正子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	音楽と子どもの関わりを知る。						
授業の概要	音楽教育の変遷について解説し、その中で各自が興味を持った問題を中心に討論を行う。並行して、子どものための音楽劇などを、実際に演奏する。						
到達目標	幼児期・児童期の音楽教育に関する問題意識を自分なりに持つことができるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 音楽と子ども 第3回 文献探索の方法（図書館の利用、データベース検索、学会誌検索など）について 第4回 音楽教育の変遷1 第5回 音楽教育の変遷2 第6回 音楽教育の変遷3 第7回 まとめとレポートの提出 第8回 文献購読1 第9回 文献購読2 第10回 文献購読3 第11回 テーマ発見に向けて 第12回 発表1 第13回 発表2 第14回 発表3 第15回 まとめと文献リストの提出						
授業外における学習（準備学習の内容）	各自がテーマの発見に向けて、図書館の活用をはじめ、興味・関心を広げるために行動しよう。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点（授業への取り組み）40%、レポート30% 発表30% 出席回数が授業全体の3分の2に満たない場合、評価の対象としない。						
教科書							
参考書	そのつど紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	倉 真智子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	研究テーマの設定と講読						
授業の概要	子どもを取り巻くさまざまな環境からくる健康問題について、教育現場や地域、家庭教育といった視点から考え、教職につく立場として理解を深めることを目的とする。 子どもの体力・運動能力、生活習慣、遊び文化などについて、テキストや文献、先行研究をもとに考え討議し、それらから各自のテーマを見つける。						
到達目標	子どもを取り巻く環境について、身近なところから問題意識をもち、その要因や考えられる要因についてディスカッションできるようにする。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 各自のテーマ設定と発表についての説明 第3回 問題提起とディスカッションの方法 第4回 問題提起と文献研究 第5回 発表およびディスカッション ー幼児の運動に焦点をあてるー 第6回 発表およびディスカッション ー小学生の体育に焦点をあてるー 第7回 発表およびディスカッション ー保護者に焦点をあてるー 第8回 発表およびディスカッション ー保育者に焦点をあてるー 第9回 文献検索の方法について 第10回 各自テーマについて文献収集 第11回 文献購読 ー幼児期の運動遊びに関してー 第12回 文献購読 ー児童期の運動に関してー 第13回 文献購読 ー保護者に関してー 第14回 文献購読 ー保育者に関してー 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	興味、関心のある分野の書物や論文を検索しておく。						
授業方法	発表、ディスカッション						
評価基準と評価方法	授業への取り組み（40％）、発表（30％）、レポート（30％）						
教科書	必要に応じて紹介する。また、適宜プリントを配布する。						
参考書	各自の内容に応じて紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	寺見 陽子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	乳幼児の発達と育児・保育の実践研究						
授業の概要	目的：乳幼児の発達に関する理解を深め、乳幼児の養育・保育・教育に関する専門的知識・技術および実践研究法を学ぶ 概要：人間性の発達の基盤となる乳幼児期について、生涯発達心理学的視点から理解を深め、乳幼児の育ちにおける生活や遊びの意義、発達環境としての親子関係や家庭環境、養育者・保育者の役割、幼稚園・保育所における保育環境や保育者の役割について、自分自身の実習経験を踏まえて文献や先行研究をもとに考える。また、乳幼児期の育児・保育における今日的課題である育児支援や地域・家庭の教育力を高める支援のあり方について、これまでの調査研究やフィールド研究から考える。						
到達目標	自己課題の設定とその課題解決に向けた研究方法について学ぶと共に、乳幼児の保育・教育に関する専門的な知見を身につける。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 養育・保育における今日的課題および保育現場の動向と課題 第3回 乳幼児期の発達とその理論について 第4回 乳幼児期の発達と環境について 第5回 乳幼児期の発達と遊びについて 第6回 乳幼児期の発達と養育・親子関係、家庭教育について 第7回 乳幼児期の発達と幼児教育・保育について 第8回 乳幼児期の発達環境と養育・保育について 第9回 グループ編成・グループ研究 第10回 グループ研究―課題設定 第11回 グループ研究―論文購読 第12回 グループ研究―フィールド研究 第13回 プレゼンテーション（1） 第14回 プレゼンテーション（2） 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	文献検索・文献輪読・レジメ作成・フィールドワーク・プレゼンテーション						
授業方法	グループワーク及びディスカッションを中心とします。						
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 小レポートとプレゼンテーション 50点 最終レポート 50点						
教科書	特に指定しません。						
参考書	必要に応じて示します。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	藤本 浩一						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	生涯発達心理学						
授業の概要	文献検索の仕方、問題意識の立て方、心理学論文の読み方などを学ぶ。 本年度は「飽きることの心理」「ユーモアの研究」というテーマでグループ研究を行う。						
到達目標	①相関係数を使った調査データの処理とレポートの作成 ②心理学的観点から調査を行うための問題意識をつくる						
授業計画	第1回 文献検索の方法を例示し、図書館での資料の調べ方などのガイダンスを行う。 第2回 「飽きる心理」研究の紹介（1）視覚心理学から／体験報告／文章の書き方 第3回 「飽きる心理」研究の紹介（2）逆U字曲線／体験報告／論文の構成 第4回 「飽きる心理」研究の紹介（3）単純接触効果／体験報告／論文体の練習 第5回 発表2名・全員討論「飽きるということ」／相関係数を使った研究法例示 第6回 発表2名・全員討論「飽きないこと」／構成概念とは 第7回 発表2名・全員討論「飽きない工夫」／アンケート項目解説 第8回 発表2名・全員討論「美人は3日で飽きるか」／アンケート項目の作成 第9回 発表2名・全員討論「ユーモアは役に立つか①」／アンケート実施 第10回 発表2名・全員討論「ユーモアは役に立つか②」／アンケート集計法 第11回 発表2名・全員討論「ユーモアの種類」／エクセル入力の方法 第12回 調査計画／相関係数について 第13回 調査実施／相関係数の有意性検定 第14回 相関係数と有意性のデータ処理 第15回 全員で個別発表						
授業外における学習（準備学習の内容）	発表準備、文献・ネット検索など						
授業方法	発表、討論、DVD視聴、小テスト記載（まとめ）、講義						
評価基準と評価方法	小テスト、発表などの平常点（50％）、レポート（50％）で合計100％ なお、発表・レジメの評価は、努力（2）、わかりやすさ（2）、理解度（3）の割合で行う。						
教科書							
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	松岡 靖						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	自分の興味・問題を保育・教育の理論へとつなげよう。						
授業の概要	1. 保育・教育の基本文献のうち、学生が担当部分を報告する。 2. 多様な視点から学生が質疑応答し、教員は背景を解説する。 3. 専門書の読み方、プレゼンの技法、意見の理解力を伸ばす。						
到達目標	1. 現代日本の教育問題を学生が発見して自分なりに答えられる。 2. 学生が興味ある問題を考えるために情報と論理を活用できる。						
授業計画	1. 皆さんの動機と目標 2. 発表・質疑・レポートの説明 3. 図書館での論文ガイダンス 4. 教育の意義はどこにある？ 5. 幼児教育の特徴とは何か？ 6. 教育思想の歴史を辿ると？ 7. 現代日本の教育問題とは？ 8. 保・幼・小による連携は？ 9. 大学教育から生涯学習へ？ 10. 学生による中間報告(1) 11. 学生による中間報告(2) 12. 学生による中間報告(3) 13. 学生による発表と質疑(1) 14. 学生による発表と質疑(2) 15. 成績の説明と授業の批評						
授業外における学習（準備学習の内容）	1. 各自の発表に責任を持って取り組んでください。 2. 自分の物語をテキストへと仕立ててみましょう。 3. 最後のレポートは楽しんで取り組んでください。						
授業方法	1. 前半は教科書を使った報告と質疑を中心に進めます。 2. 後半は学生の個人発表と議論応答を中心に進めます。						
評価基準と評価方法	1. 平常点30点（発言などの授業貢献） 2. 発表点20点（プレゼンと質疑応答） 3. レポート50点（学期末に提出する）						
教科書	『教育原理』倉戸直実監修、聖公会出版、978-4-88274-196-1。						
参考書	自分の興味・問題に役立つものを探してください。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	内田 祐貴						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校における理科教育について、知識技術を深め、理科の得意な教員を目指す。						
授業の概要	発達教育演習Aをうけ、さらに各学年の理科で扱うそれぞれの内容に対して、具体的な授業案や教材を作成をする。また、理科教育について必要な統計処理や、新しい教育方法であるアクティブラーニングの手法を学ぶ。						
到達目標	・理科の授業を行うための、特に実験についての指導方法を身に付ける ・教材作成のための、資料準備や活用方法を身につける。						
授業計画	第01回 指導案と評価 第02回 4年生「電気の働き」学習内容と実験 第03回 4年生「電気の働き」模擬授業 第04回 教材作成演習1 第05回 教材作成演習2 第06回 4年生「天気の様子」学習内容と実験 第07回 4年生「天気の様子」模擬授業 第08回 博物館科学館実習 第09回 5年生「物の溶け方」学習内容と実験 第10回 5年生「物の溶け方」模擬授業 第11回 5年生「振り子の運動」学習内容と実験 第12回 5年生「振り子の運動」模擬授業 第13回 5年生「電流の働き」学習内容と実験 第14回 5年生「電流の働き」模擬授業 第15回 論文の構成と書き方 デジタル教材の使い方や、アクティブラーニング、先行事例研究などもこれらの具体的な単元を使いながら行っていきます。						
授業外における学習（準備学習の内容）	最近の理科教育について興味をもったものを調べておく。						
授業方法	講義と模擬授業、実験実習、提出物の作成						
評価基準と評価方法	提出物などを主資料(60)として取り組みの熱意、平常点等(40)を考慮する						
教科書							
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	大下 卓司						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	関心を持った教育実践や教育問題に沿って各自が内容を掘り下げる						
授業の概要	学生が、各自の興味・関心に応じて文献（教育方法学の理論書、実践記録など）を選び、毎回の授業で交代で発表し、発表内容について学生全員で議論する。教員も議論に加わり、補足説明や論点の提示を適宜行う。授業の進め方は、「教育発達演習A」の延長ではあるが、4年次の「卒業研究」に向けての準備とすべく、追求したい問題の立て方、そのための文献の選び方、そこからの論点の取り出し方などについて指導する。また、問いと追求と答えという三要素を備えたレポートも作成できることをめざす。						
到達目標	・ 4年次の「卒業研究」に向けての準備とすべく、追求したい問題の立て方、そのための文献の選び方、そこからの論点の取り出し方などを身につける ・ 問いと追求と答えという三要素を備えたレポートも作成できるようになる。						
授業計画	第1回 レポート返却およびコメント 第2回 テキストの内容と使用方法に関する説明、より伝わるレポートの書き方の指導 第3回 「教育発達演習A」のレポートの調査を深め、報告を行い、相互に検討する 第4回 「教育発達演習A」のレポートの調査を深め、報告を行い、相互に検討する 第5回 「教育発達演習A」のレポートの調査を深め、報告を行い、相互に検討する 第6回 テキスト発表とディスカッション 第7回 テキスト発表とディスカッション 第8回 テキスト発表とディスカッション 第9回 テキスト発表とディスカッション 第10回 テキスト発表のまとめ 第11回 自由テーマによる発表とディスカッション 第12回 自由テーマによる発表とディスカッション 第13回 自由テーマによる発表とディスカッション 第14回 自由テーマによる発表とディスカッション 第15回 総括討論						
授業外における学習（準備学習の内容）	・ 前半は視聴覚教材も使いながら、今日的な教育問題に関する議論を行い、学校教育への理解を深める ・ 後半は、自分のテーマについて事前に調べる。発表者以外の学生も、発表者のテーマに沿った基本資料を、発表者と相談したうえで指示する。						
授業方法	レジュメの作成・発表と全体討論。議論の深まりに応じて、学外の社会教育施設や小学校等による公開研究会で学ぶ。						
評価基準と評価方法	授業中への出席と積極的な参加を前提としながら、平常点50%とレポート課題50%で評価する。						
教科書	授業中に適宜指示をする						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	奥 美佐子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもと美術Ⅱ						
授業の概要	子どもの造形、美術教育の分野で、教育発達演習Aにおいて見出した課題をさらに専門的に研究する方法を修得する。各自がテーマを持って発表し、学生間で討議する経験を積む。この過程で卒業研究の課題の発見、課題へのアプローチの仕方、文献研究や実践的、実証的研究の方法及び論文作成法を身につけることができるようにする。						
到達目標	以下を到達目標とする。 ・卒業研究のテーマを設定し、資料収集することができる。 ・各自のトピックを発表し、討議することができる。 ・テーマに沿ったレポートの作成とプレゼンテーションができる。						
授業計画	第1回 テーマ設定 第2回 論文の読み方と発表の仕方 第3回 論文購読 第4回 論文購読 第5回 論文購読 第6回 資料収集・教材研究：文献検索、子どもの作品収集等 第7回 資料収集・教材研究：現地研修（授業時間外に別途日時を設定） 第8回 資料収集・教材研究：第6回～第9回のいずれかで現地研修を実施予定 第9回 資料収集・教材研究： 第10回 資料整理の方法 第11回 テーマの確認とレポート作成について 第12回 シラバス作成について 第13回 発表 1 第14回 発表 2 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：発表などに備えて、十分に資料などを検討しておくこと。 授業後学習：検討した課題について要点をまとめ、疑問があれば次回に質問できるようにすること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	参加態度、提出物など平常点30%、発表及びレポート70%で評価する。						
教科書	使用しない。						
参考書	必要に応じて紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	奥村 正子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもと音楽の関わりについて、自分の問題意識を明らかにする。						
授業の概要	幼児期・児童期の音楽教育に関する研究論文を講読する。各自の問題意識に関連した文献を収集し、その内容を全員で議論し、教員が解説する。授業の進め方は「教育発達演習A」の延長であるが、最終回は、研究計画と文献リストを提出する。						
到達目標	音楽教育に関する問題意識を持ち、卒業研究のテーマ設定を行う。						
授業計画	第1回 テーマ設定に向けて 第2回 文献探索の方法について 第3回 特色ある音楽教育1 第4回 特色ある音楽教育2 第5回 特色ある音楽教育3 第6回 研究手法について 第7回 文献講読1 第8回 文献講読2 第9回 文献講読3 第10回 文献講読4 第11回 レポートの提出とまとめ 第12回 発表1 第13回 発表2 第14回 発表3 第15回 研究計画と文献リストの提出						
授業外における学習（準備学習の内容）	図書館の活用、文献収集をはじめ、テーマ設定のために積極的に行動しよう。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点（授業への取り組み）40%、レポート30% 発表30% 出席回数が授業全体の3分の2に満たない場合、評価の対象としない。						
教科書							
参考書	そのつど紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	倉 真智子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	研究課題の精選と課題検討						
授業の概要	子どもを取り巻くさまざまな環境からくる健康問題について、教育現場や地域、家庭教育といった視点から考え、教職につく立場として理解を深めることを目的とする。 子どもの体力・運動能力、生活習慣、遊び文化などについて、テキストや文献、先行研究をもとに考え討議し、それらから卒業研究のテーマに向け進めていく。						
到達目標	子どもを取り巻く環境について理解し、それらの要因について討議し、関連した文献等の購読を行う。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 各自のテーマ設定と文献収集についての説明 第3回 文献の収集 第4回 文献リスト作成 第5回 レジューメの作成法と発表方法 第6回 先行研究から学ぶ論文の書き方 第7回 講読発表 ー幼児・児童に関する文献ー 第8回 講読発表 ー運動に関する文献からー 第9回 講読発表 ー子どもの健康に関する文献からー 第10回 講読発表 ー生活習慣に関する文献からー 第11回 講読発表 ー保護者に関する文献からー 第12回 講読発表 ー保育者に関する文献からー 第13回 プロポーザル 第14回 プロポーザルの検討 第15回 まとめと卒業研究に向けての課題						
授業外における学習（準備学習の内容）	各種文献やコラム等、身近な情報の収集をしておく。						
授業方法	講読発表、ディスカッション						
評価基準と評価方法	授業への取り組み（40%）、講読発表（30%）、発表レポート（30%）						
教科書	必要に応じて紹介する。また、適宜プリントを配布する。						
参考書	「よくわかる卒論の書き方」白井利明・高橋一郎 ミネルヴァ書房 「レポート・論文のまとめ方と書き方」宮内克男 川内書店						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	寺見 陽子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	乳幼児の発達研究と養育・保育の場における実践研究						
授業の概要	目的：自己課題を明確化させ、実践方法や研究方法について学ぶ。 概要：ここでは「教育発達演習A」での研究をもとに、自己研究課題を焦点化させ、文献や研究論文を購読するとともに、乳幼児の発達研究や保育実践研究の方法論について学ぶ。自分でプロポーザルを作成し、その流れに沿って、研究・実験・調査・観察等の実施計画や結果をまとめ、考察する。						
到達目標	自己課題の明確化と研究方法を学ぶ。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 自己課題の設定と研究法について 第3回 文献輪読・グループディスカッション（1） 第4回 文献輪読・グループディスカッション（2） 第5回 文献輪読・グループディスカッション（3） 第6回 文献輪読・グループディスカッション（4） 第7回 文献輪読・グループディスカッション（5） 第8回 中間報告 第9回 文献購読・プロポーザルの作成（1） 第10回 グループ・サーベイ（1） 第11回 グループ・サーベイ（2） 第12回 グループ・サーベイ（3） 第13回 プレゼンテーション（1） 第14回 プレゼンテーション（2） 第15回 報告書の作成と総括						
授業外における学習（準備学習の内容）	文献検索・文献輪読・グループ研究とフィールドサーベイ						
授業方法	グループワークを中心とします。						
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 小レポート（30）・プレゼンテーション（20）・報告書（50）						
教科書	必要に応じて示します。						
参考書	必要に応じて示します。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	藤本 浩一						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	生涯発達心理学						
授業の概要	文献検索の仕方、問題意識の立て方、心理学論文の読み方などを学ぶ。 本年度は「飽きることの心理」「ユーモアの研究」というテーマでグループ研究を行う。						
到達目標	①相関係数を使った調査データの処理とレポートの作成 ②心理学的観点から調査を行うための問題意識をつくる						
授業計画	第1回 ユーモア研究の紹介（ユーモアと健康） 第2回 ユーモア研究の紹介（ユーモアとストレス） 第3回 ユーモア研究の紹介（ユーモアと学校教育） 第4回 文系講読発表 第5回 実験計画の立案 第6回 ユーモア・パフォーマンスの研究紹介 第7回 アンケート調査項目の選定 第8回 アンケート調査実施法 第9回 結果の処理 第10回 統計実習 第11回 統計実習（2） 第12回 論文のまとめ方 第13回 グループ研究発表（ユーモアと類推能力） 第14回 グループ研究発表（ユーモア・テスト） 第15回 グループ研究発表（ユーモアと認知の変容）						
授業外における学習（準備学習の内容）	発表準備、文献・ネット検索など						
授業方法	発表、討論、DVD視聴、小テスト記載（まとめ）、講義						
評価基準と評価方法	小テスト、発表などの平常点（50％）、レポート（50％）で合計100％ なお、発表・レジメの評価は、努力（2）、わかりやすさ（2）、理解度（3）の割合で行う。						
教科書							
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	松岡 靖						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	働くことへの希望をもって自分なりに進路を模索しよう。						
授業の概要	1. 教育に必要な「希望」の本から、学生が担当部分を報告する。 2. いろんな論点で学生が質疑応答して、教員が背景を解説する。 3. 「卒業研究」の資料の探し方、問いの立て方などを練習する。						
到達目標	1. 保育・教育の基礎知識を増やし、進路選択をスムーズにする。 2. 「問い→追求→答え」というレポートの組み立てに習熟する。						
授業計画	1. 前期の振り返りと後期の見通し 2. 教科書(1)：そもそも希望とは何か？ 3. 教科書(2)：もう希望は失われたか？ 4. 教科書(3)：なぜ希望は失われたか？ 5. 教科書(4)：希望をめぐる物語とは？ 6. 教科書(5)：努力は無駄に終わるか？ 7. 教科書(6)：希望を取り戻すために？ 8. 教科書(7)：キャリア教育の役割は？ 9. 図書館での論文ガイダンス 10. 学生による中間報告(1) 11. 学生による中間報告(2) 12. 学生による中間報告(3) 13. 学生による発表と質疑(1) 14. 学生による発表と質疑(2) 15. 成績の説明と授業の批評						
授業外における学習（準備学習の内容）	1. 各自の発表に責任を持って取り組んでください。 2. 自分の物語をテキストへと仕立ててみましょう。 3. 最後のレポートは楽しんで取り組んでください。						
授業方法	1. 前半は教科書を使った報告と質疑を中心に進めます。 2. 後半は学生による個人発表と議論を中心に進めます。						
評価基準と評価方法	1. 平常点30点（発言などの授業貢献） 2. 発表点20点（プレゼンと質疑応答） 3. レポート50点（学期末に提出する）						
教科書	『希望のつくり方』 玄田有史、岩波書店、978-4-00-431270-3						
参考書	自分の興味・問題に沿って検索してください。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教職基本演習						
担当教員	谷口 和良						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	教職についての専門的な知識と実践的な指導力の育成						
授業の概要	本授業は、学生がこれまでの教職課程に関する履修や教職課程外での様々な活動を通じて、教員としての資質や能力が有機的に統合させ、形成してきているかを自己点検・確認することである。そして、教員になるために自分に不足している知識や技能などを補い、教員として必要な実践的な指導力の向上を図ることである。						
到達目標	学習指導について教材研究や学習指導案作成、模擬授業などにより教職における専門的な知識や実践的な授業力を高めることができる。また、学級経営や生徒指導について、事例研究、グループによる演習、ロールプレーなどにより指導的な実践力を養うことができる。						
授業計画	第 1 回 オリエンテーション：本授業のねらいや授業概要 第 2 回 教職課程の履修を振り返り、教員としての自己点検・確認して自己の課題の把握 第 3 回 授業における基本的な展開や教師の役割、評価などについて検討・討議 第 4 回 グループに分かれて学習指導案の作成 第 5 回 模擬授業の実施とその授業評価・授業修正（Ⅰ） 第 6 回 模擬授業の実施とその授業評価・授業修正（Ⅱ） 第 7 回 小学校教員としての仕事内容（校務分掌）・学校経営にも参画 第 8 回 小学校学級担任の役割と学級経営の在り方 第 9 回 小学校の担任としての学級づくりの具体化（経営方針や学級目標、係活動など） 第 10 回 問題行動の事例とその対策方法の検討（いじめ・不登校的な児童について） 第 11 回 問題行動の事例とその対策方法の検討（暴力的な子や学力遅進的な子など） 第 12 回 児童理解についての今日的課題及びその対策 第 13 回 問題行動児童の保護者との連携の在り方についての事例とその対策 第 14 回 ロールプレー等による担任と保護者との対応の仕方や在り方 第 15 回 まとめ：教員としての資質と能力についての自己評価と課題						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って、授業内容を踏まえこれまでの他の講義や実習などから該当する内容を予習・復習しておいてください。 授業後学習：授業で学んだことを復習整理し、要点をまとめておくようにしてください。そして、次に授業や実習及び就職した際に生かせるようにしておくことが大切です。授業中に理解できなかったことは、次の授業に質問したり課題にしたりして、実践に生かせるようにしてください。						
授業方法	参加型の授業を中心にし、グループで指導案作成や模擬授業の実施、事例に対する対応策作成などを行い、全体やグループで発表し合ったりディスカッションをしたりする。						
評価基準と評価方法	・平常点 50 %（授業やグループ発表での内容や態度、小テスト、授業のワークシートや意見・感想など） ・学期末レポート 50 %（教員として必要な資質や能力関するようなこと）						
教科書							
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教職指導						
担当教員	内田 祐貴						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	教職実務に必要な知識を学び、教師の資質を構築する。						
授業の概要	まず、法規に位置付けられた教育の理念をとらえ、学校教育を理解していくうえでの指針とする。 次に、現在の学校教育での子どもたちの実態・教師の指導の実情を把握し、教師としての使命感を持つ。 そのために、自分たちで各課題を調べ、自分の意見、考えをまとめ、表現できるようにする。						
到達目標	・教育法規と教育目標を理解する。 ・学校現場を想定した実践演習により、教師としての資質を身に付ける。 ・教員採用試験を見据え、自分の意見、考えを、小論文、プレゼンテーション、発表、グループディスカッションなど、適切な方法で表現できるようになる。						
授業計画	第01回 オリエンテーション 第02回 教育法規と学校教育の目標 第03回 教育法規と学校教育の目標：発表 第04回 教育法規と学校教育の目標：自分の考え（小論文にまとめる） 第05回 教師の使命 第06回 教師の使命：発表 第07回 教師の使命：自分の考え（プレゼンテーション） 第08回 学級経営 第09回 学級経営：発表 第10回 学級経営：自分の考え（グループディスカッション） 第11回 子どもの実態、児童の問題行動 第12回 子どもの実態、児童の問題行動：発表 第13回 子どもの実態、児童の問題行動：ロールプレイ 第14回 教師に求められるもの 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	教育に関する時事問題や、いままでの実習先での様子など、教育に関する様々な情報を集めておく						
授業方法	講義、グループ討議、発表						
評価基準と評価方法	平常点（40）、授業中の発表などの活動(30)、レポート点（30）を総合して評価する						
教科書							
参考書	「ポケット教育小六法」、伊藤 良高、橋本 一雄、大津 尚志、ISBN-13: 978-4771026193 「小学校学習指導要領解説 総則編」、文部科学省、東洋館出版社、ISBN-13: 978-4491023700 「ソーシャルスキル教育で子どもが変わる小学校—楽しく身につく学級生活の基礎・基本」、相川充、小林正幸、図書文化社 ISBN-13: 978-4810093124						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教職実践演習（幼・小）						
担当教員	松岡 靖・谷口 和良						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	教職課程履修カルテと教育実習記録を用いて実践的な事例研究を行う。事例研究のテーマは、（１）教職・保育者に必要な使命感・責任感・愛情、（２）職務上の社会性や対人関係能力、（３）行き届いた子ども理解や学級経営、（４）教科教育・保育内容の十分な指導力、とする。						
授業の概要	教職・保育士課程の完成教育として、教職科目と教科科目・保育内容の担当教員がオムニバスで分担する。大学での講義・討論、模擬授業・保育による事例研究とともに、教育・保育の現場へのフィールドワークを実施する。この授業を通じて学生が現場での実践的な対応力を伸ばす準備とする。						
到達目標	１．教育・保育課程の履修全体を総括し、実習経験を前向きに振り返る。 ２．教職・保育者に必要な資質・能力に照らし、自らの課題を省察する。 ３．実践的指導力を高め、教育者・保育者として順調な出発を準備する。						
授業計画	１．教職課程履修カルテ：教育者としての資質・能力 ２．教育のPDCAサイクル：実習記録での評価と課題は？ ３．教育のポートフォリオ：教職課程における役割は？ ４．実践事例研究（１）：実践でのPDCAサイクルの具体化 ５．実践事例研究（２）：教育者として必要な資質・能力 ６．フィールドワークの事前指導 ７．フィールドワーク：教育・保育の現場参観 ８．フィールドワークの事後指導 ９．実践事例研究（３）：教育・保育現場における組織論 １０．実践事例研究（４）：子ども理解から学級経営まで １１．模擬授業・保育（１）：指導計画と授業・保育の計画 １２．模擬授業・保育（２）：略案作成と授業・保育の準備 １３．模擬授業・保育（３）：模擬授業・保育の実施と検討 １４．模擬授業・保育（４）：模擬授業・保育のPDCAサイクル １５．履修カルテのまとめ：教育者としての決意の発表						
授業外における学習（準備学習の内容）	１．自らの履修カルテや実習記録を十分に活用すること。 ２．事例研究や模擬授業・保育を工夫して準備すること。						
授業方法	１．オムニバスだが毎回を複数教員で担当する。 ２．第１～３回は松岡が中心となって担当する。 ３．第４～１５回は谷口が中心となって担当する。						
評価基準と評価方法	１．教育者としての資質・能力を担当教員が連携して評価する。 ２．授業での提出課題50%、模擬授業・保育での発表内容50%。						
教科書	とくに指定せず履修カルテや実習記録などを使用する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教職実践演習（幼・小）						
担当教員	松岡 靖・春 豊子・吉田 直哉						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	教職課程履修カルテと教育実習記録を用いて実践的な事例研究を行う。事例研究のテーマは、（１）教職・保育者に必要な使命感・責任感・愛情、（２）職務上の社会性や対人関係能力、（３）行き届いた子ども理解や学級経営、（４）教科教育・保育内容の十分な指導力、とする。						
授業の概要	教職・保育士課程の完成教育として、教職科目と教科科目・保育内容の担当教員がオムニバスで分担する。大学での講義・討論、模擬授業・保育による事例研究とともに、教育・保育の現場へのフィールドワークを実施する。この授業を通じて学生が現場での実践的な対応力を伸ばす準備とする。						
到達目標	1. 教育・保育課程の履修全体を総括し、実習経験を前向きに振り返る。 2. 教職・保育者に必要な資質・能力に照らし、自らの課題を省察する。 3. 実践的指導力を高め、教育者・保育者として順調な出発を準備する。						
授業計画	1. 教職課程履修カルテ：教育者としての資質・能力 2. 教育のPDCAサイクル：実習記録での評価と課題は？ 3. 教育のポートフォリオ：教職課程における役割は？ 4. 実践事例研究(1)：実践でのPDCAサイクルの具体化 5. 実践事例研究(2)：教育者として必要な資質・能力 6. フィールドワークの事前指導 7. フィールドワーク：教育・保育の現場参観 8. フィールドワークの事後指導 9. 実践事例研究(3)：教育・保育現場における組織論 10. 実践事例研究(4)：子ども理解から学級経営まで 11. 模擬授業・保育(1)：指導計画と授業・保育の計画 12. 模擬授業・保育(2)：略案作成と授業・保育の準備 13. 模擬授業・保育(3)：模擬授業・保育の実施と検討 14. 模擬授業・保育(4)：模擬授業・保育のPDCAサイクル 15. 履修カルテのまとめ：教育者としての決意の発表						
授業外における学習（準備学習の内容）	1. 自らの履修カルテや実習記録を十分に活用すること。 2. 事例研究や模擬授業・保育を工夫して準備すること。						
授業方法	1. オムニバスだが毎回を複数教員で担当する。 2. 第１～３回は松岡が中心となって担当する。 3. 第４～１５回は春、吉田が中心となって担当する。						
評価基準と評価方法	1. 教育者としての資質・能力を担当教員が連携して評価する。 2. 授業での提出課題50%、模擬授業・保育での発表内容50%。						
教科書	とくに指定せず履修カルテや実習記録などを使用する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教職実践演習（幼・小）						
担当教員	松岡 靖・春 豊子・吉田 直哉						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	教職課程履修カルテと教育実習記録を用いて実践的な事例研究を行う。事例研究のテーマは、（１）教職・保育者に必要な使命感・責任感・愛情、（２）職務上の社会性や対人関係能力、（３）行き届いた子ども理解や学級経営、（４）教科教育・保育内容の十分な指導力、とする。						
授業の概要	教職・保育士課程の完成教育として、教職科目と教科科目・保育内容の担当教員がオムニバスで分担する。大学での講義・討論、模擬授業・保育による事例研究とともに、教育・保育の現場へのフィールドワークを実施する。この授業を通じて学生が現場での実践的な対応力を伸ばす準備とする。						
到達目標	1. 教育・保育課程の履修全体を総括し、実習経験を前向きに振り返る。 2. 教職・保育者に必要な資質・能力に照らし、自らの課題を省察する。 3. 実践的指導力を高め、教育者・保育者として順調な出発を準備する。						
授業計画	1. 教職課程履修カルテ：教育者としての資質・能力 2. 教育のPDCAサイクル：実習記録での評価と課題は？ 3. 教育のポートフォリオ：教職課程における役割は？ 4. 実践事例研究(1)：実践でのPDCAサイクルの具体化 5. 実践事例研究(2)：教育者として必要な資質・能力 6. フィールドワークの事前指導 7. フィールドワーク：教育・保育の現場参観 8. フィールドワークの事後指導 9. 実践事例研究(3)：教育・保育現場における組織論 10. 実践事例研究(4)：子ども理解から学級経営まで 11. 模擬授業・保育(1)：指導計画と授業・保育の計画 12. 模擬授業・保育(2)：略案作成と授業・保育の準備 13. 模擬授業・保育(3)：模擬授業・保育の実施と検討 14. 模擬授業・保育(4)：模擬授業・保育のPDCAサイクル 15. 履修カルテのまとめ：教育者としての決意の発表						
授業外における学習（準備学習の内容）	1. 自らの履修カルテや実習記録を十分に活用すること。 2. 事例研究や模擬授業・保育を工夫して準備すること。						
授業方法	1. オムニバスだが毎回を複数教員で担当する。 2. 第１～３回は松岡が中心となって担当する。 3. 第４～１５回は春、吉田が中心となって担当する。						
評価基準と評価方法	1. 教育者としての資質・能力を担当教員が連携して評価する。 2. 授業での提出課題50%、模擬授業・保育での発表内容50%。						
教科書	とくに指定せず履修カルテや実習記録などを使用する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教職論						
担当教員	大石 正廣						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	教職の意義と教員の役割						
授業の概要	教職課程の出発点として、教職の意義と役割を理解する。また、教職に対する自らの適性を吟味させつつ教員として働く意欲を引き出すことをめざす。そのため、次の3点を主な目標に授業内容を構成する。 第1に、教職の特徴と現状に関する基本的な知識を習得する。第2に、教員の職務内容を知り、これからの時代に求められる教師像について理解する。第3に、教員としての力量形成と教職の専門性に関する認識を深める。						
到達目標	・教職の意義と役割を理解する。 ・教員の職務内容を知る。 ・教職の特徴とその現状に関する基本的な知識を習得する。 ・これからの時代に求められる教師像について理解する。 ・教職の専門性に関する認識を深める。						
授業計画	第1回 オリエンテーション、及び、教職に関する基礎的知識 第2回 保育所・幼稚園 第3回 小学校・中学校 第4回 教員の職務内容と役割・義務 第5回 教員に求められる資質、能力・技能 第6回 教師としての生き方をさぐる 第7回 学校教育の歴史 第8回 教職の法制と制度 第9回 子どもにつけたい力 第10回 学習指導、カリキュラム開発と授業づくり 第11回 学級づくり 第12回 保護者・地域・社会との連携 第13回 教職をめぐる改革動向と教師の専門性 第14回 教員養成段階における学び・教育観をもつ 第15回 教員採用をめぐる今日的動向						
授業外における学習（準備学習の内容）	指導計画を参考にして、参考書などの該当する箇所を読む。授業後には、学んだことを整理し理解を深める。						
授業方法	対話型の模擬授業・演習を中心に行う。						
評価基準と評価方法	テスト6割、レポートなどの提出物2割 平常点2割（授業での積極的な参加や主体的な学びの態度など）で総合評価する。 授業のカルテの評価は、「意欲」、「知識」、「適正」の3観点で行う。						
教科書	資料を配布する。						
参考書	高谷哲也編著『教師の仕事と求められる力量』（現場と結ぶ教職シリーズ第17巻）あいり出版 片山紀子 富永直也 『学校が見える教職論』 大学教育出版 山口健二 高瀬淳 編 『教職論ハンドブック』 ミネルウァ書房						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	内田・藤本・松岡・吉田						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	これからの大学生活をデザインする。 自分で考え、表現できる力を養う。						
授業の概要	1. 大学四年間の学習の進め方について、四人の教員がオムニバス方式で演習を分担する。 2. 履修登録の指導、授業と自習の連動、授業への参加法、図書館での情報収集などを指導する。 3. 各教員の専門分野について学生が関心を持ちやすい内容を講義する。						
到達目標	1. 学生一人一人が大学四年間の学習計画をデザインできる。 2. レポート作成や発表することで専門的な学習への動機づけを強める。 3. 自ら考えて文章や口頭で表現できる。 4. 子どもの教育についての自分の意見をつくる。						
授業計画	全体指導 第1回 (1)履修指導：四年間の計画を立てる 第2回 (2)図書館オリエンテーション 第3回 (3)理科実験室と学生課のガイダンス 内田担当 第4回 (1)レポートの書き方1 アイデアの出し方、まとめ方 第5回 (2)レポートの書き方2 資料の調べ方 第6回 (3)レポートの書き方3 レポートにして発表する 藤本担当 第7回 (1)講義ノートを作る 第8回 (2)レポートを書く 第9回 (3)自分を知る「エゴグラム」 松岡担当 第10回 (1)ワークショップ：高校と大学では何が違うか？ 第11回 (2)教科書：コミュニケーションのゴールとは？ 第12回 (3)実践：「意見となぜ」のプレゼンテーション 吉田担当 第13回 (1)物語のあらすじを書く・伝える①：ドラマ「オレンジデイズ」 第14回 (2)物語のあらすじを書く・伝える②：映画「リリィ・シュシュのすべて」 第15回 (3)自分の見た映画のあらすじを伝え合う①						
授業外における学習（準備学習の内容）	グループ発表や個人レポートで引き受けた責任を果たすこと。						
授業方法	担当教員によって授業方法が異なるので、学生にはその点も学んでほしい。						
評価基準と評価方法	平常点で30点、レポートと試験で70点。						
教科書	（松岡担当分）山田ズーニー『あなたの話はなぜ「通じない」のか』ちくま文庫、2006年、ISBN:4-480-42280-3。						
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	内田・藤本・松岡・吉田						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	これからの大学生活をデザインする。 自分で考え、表現できる力を養う。						
授業の概要	1. 大学四年間の学習の進め方について、四人の教員がオムニバス方式で演習を分担する。 2. 履修登録の指導、授業と自習の連動、授業への参加法、図書館での情報収集などを指導する。 3. 各教員の専門分野について学生が関心を持ちやすい内容を講義する。						
到達目標	1. 学生一人一人が大学四年間の学習計画をデザインできる。 2. レポート作成や発表することで専門的な学習への動機づけを強める。 3. 自ら考えて文章や口頭で表現できる。 4. 子どもの教育についての自分の意見をつくる。						
授業計画	全体指導 第1回 (1)履修指導：四年間の計画を立てる 第2回 (2)図書館オリエンテーション 第3回 (3)理科実験室と学生課のガイダンス 内田担当 第4回 (1)レポートの書き方1 アイデアの出し方、まとめ方 第5回 (2)レポートの書き方2 資料の調べ方 第6回 (3)レポートの書き方3 レポートにして発表する 藤本担当 第7回 (1)講義ノートを作る 第8回 (2)レポートを書く 第9回 (3)自分を知る「エゴグラム」 松岡担当 第10回 (1)ワークショップ：高校と大学では何が違うか？ 第11回 (2)教科書：コミュニケーションのゴールとは？ 第12回 (3)実践：「意見となぜ」のプレゼンテーション 吉田担当 第13回 (1)物語のあらすじを書く・伝える①：ドラマ「オレンジデイズ」 第14回 (2)物語のあらすじを書く・伝える②：映画「リリィ・シュシュのすべて」 第15回 (3)自分の見た映画のあらすじを伝え合う①						
授業外における学習（準備学習の内容）	グループ発表や個人レポートで引き受けた責任を果たすこと。						
授業方法	担当教員によって授業方法が異なるので、学生にはその点も学んでほしい。						
評価基準と評価方法	平常点で30点、レポートと試験で70点。						
教科書	（松岡担当分）山田ズーニー『あなたの話はなぜ「通じない」のか』ちくま文庫、2006年、ISBN:4-480-42280-3。						
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	内田・藤本・松岡・吉田						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	これからの大学生活をデザインする。 自分で考え、表現できる力を養う。						
授業の概要	1. 大学四年間の学習の進め方について、四人の教員がオムニバス方式で演習を分担する。 2. 履修登録の指導、授業と自習の連動、授業への参加法、図書館での情報収集などを指導する。 3. 各教員の専門分野について学生が関心を持ちやすい内容を講義する。						
到達目標	1. 学生一人一人が大学四年間の学習計画をデザインできる。 2. レポート作成や発表することで専門的な学習への動機づけを強める。 3. 自ら考えて文章や口頭で表現できる。 4. 子どもの教育についての自分の意見をつくる。						
授業計画	全体指導 第1回 (1)履修指導：四年間の計画を立てる 第2回 (2)図書館オリエンテーション 第3回 (3)理科実験室と学生課のガイダンス 内田担当 第4回 (1)レポートの書き方1 アイデアの出し方、まとめ方 第5回 (2)レポートの書き方2 資料の調べ方 第6回 (3)レポートの書き方3 レポートにして発表する 藤本担当 第7回 (1)講義ノートを作る 第8回 (2)レポートを書く 第9回 (3)自分を知る「エゴグラム」 松岡担当 第10回 (1)ワークショップ：高校と大学では何が違うか？ 第11回 (2)教科書：コミュニケーションのゴールとは？ 第12回 (3)実践：「意見となぜ」のプレゼンテーション 吉田担当 第13回 (1)物語のあらすじを書く・伝える①：ドラマ「オレンジデイズ」 第14回 (2)物語のあらすじを書く・伝える②：映画「リリィ・シュシュのすべて」 第15回 (3)自分の見た映画のあらすじを伝え合う①						
授業外における学習（準備学習の内容）	グループ発表や個人レポートで引き受けた責任を果たすこと。						
授業方法	担当教員によって授業方法が異なるので、学生にはその点も学んでほしい。						
評価基準と評価方法	平常点で30点、レポートと試験で70点。						
教科書	（松岡担当分）山田ズーニー『あなたの話はなぜ「通じない」のか』ちくま文庫、2006年、ISBN:4-480-42280-3。						
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	内田・藤本・松岡・吉田						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	これからの大学生活をデザインする。 自分で考え、表現できる力を養う。						
授業の概要	1. 大学四年間の学習の進め方について、四人の教員がオムニバス方式で演習を分担する。 2. 履修登録の指導、授業と自習の連動、授業への参加法、図書館での情報収集などを指導する。 3. 各教員の専門分野について学生が関心を持ちやすい内容を講義する。						
到達目標	1. 学生一人一人が大学四年間の学習計画をデザインできる。 2. レポート作成や発表することで専門的な学習への動機づけを強める。 3. 自ら考えて文章や口頭で表現できる。 4. 子どもの教育についての自分の意見をつくる。						
授業計画	全体指導 第1回 (1)履修指導：四年間の計画を立てる 第2回 (2)図書館オリエンテーション 第3回 (3)理科実験室と学生課のガイダンス 内田担当 第4回 (1)レポートの書き方1 アイデアの出し方、まとめ方 第5回 (2)レポートの書き方2 資料の調べ方 第6回 (3)レポートの書き方3 レポートにして発表する 藤本担当 第7回 (1)講義ノートを作る 第8回 (2)レポートを書く 第9回 (3)自分を知る「エゴグラム」 松岡担当 第10回 (1)ワークショップ：高校と大学では何が違うか？ 第11回 (2)教科書：コミュニケーションのゴールとは？ 第12回 (3)実践：「意見となぜ」のプレゼンテーション 吉田担当 第13回 (1)物語のあらすじを書く・伝える①：ドラマ「オレンジデイズ」 第14回 (2)物語のあらすじを書く・伝える②：映画「リリィ・シュシュのすべて」 第15回 (3)自分の見た映画のあらすじを伝え合う①						
授業外における学習（準備学習の内容）	グループ発表や個人レポートで引き受けた責任を果たすこと。						
授業方法	担当教員によって授業方法が異なるので、学生にはその点も学んでほしい。						
評価基準と評価方法	平常点で30点、レポートと試験で70点。						
教科書	（松岡担当分）山田ズーニー『あなたの話はなぜ「通じない」のか』ちくま文庫、2006年、ISBN:4-480-42280-3。						
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	内田・藤本・松岡・吉田						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	プレゼンテーション能力を伸ばそう コミュニケーション力をつけよう 発想する、自分の意見を持つこと						
授業の概要	1. 各担当が専門分野の知見を活かし、学生が意欲的に効率よく学習できるよう指導する。 2. テキスト講読を通じて、資料の作り方、発表の話し方、質疑応答、図書館での検索野仕方を練習する。 3. 相手の立場に立ったコミュニケーションを考える。 4. 発想力、企画力をつける練習を行う。						
到達目標	1. 基本的なプレゼンテーションができる。 2. 二年代以降の学習に向けて基礎学力を獲得する。						
授業計画	第1回 (全体指導) 映像作品制作実習(1) 第2回 (全体指導) 映像作品制作実習(2) 内田担当 コミュニケーションって？ー相手の立場に立ったコミュニケーションー 第3回 (1)相手に伝える方法1 内容にあった話し方 第4回 (2)相手に伝える方法2 自分の意見を納得してもらう 第5回 (3)相手に伝える方法3 自分の考えを書いて伝える 藤本担当 第6回 発想する力(1)：創造性について 第7回 発想する力(2)：トップダウンとボトムアップ 第8回 発想する力(3)：画面の左右差 松岡担当 第9回 (1)ワークショップ：思い出の先生を語り合う 第10回 (2)教科書：人を説得する技術とは？ 第11回 (3)実践：「いい問い」のプレゼンテーション 吉田担当 第12回 (1)物語のあらすじを書く・伝える③：映画「告白」 第13回 (2)物語のあらすじを書く・伝える④：映画「桐島、部活やめるってよ」 第14回 (3)自分の見た映画のあらすじを伝え合う② (全体指導) 第15回 (全体指導)映像作品発表、大学での一年間を振り返る						
授業外における学習(準備学習の内容)	グループ発表や個人レポートで引き受けた責任を果たすこと。						
授業方法	担当教員によって授業方法が異なるので、学生にはその点も学んでほしい。						
評価基準と評価方法	平常点で30点、レポートと試験で70点						
教科書	(松岡担当分) 山田ズーニー『あなたの話はなぜ「通じない」のか』ちくま文庫、2006年、ISBN:4-480-42280-3。						
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	内田・藤本・松岡・吉田						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	プレゼンテーション能力を伸ばそう コミュニケーション力をつけよう 発想する、自分の意見を持つこと						
授業の概要	1. 各担当が専門分野の知見を活かし、学生が意欲的に効率よく学習できるよう指導する。 2. テキスト講読を通じて、資料の作り方、発表の話し方、質疑応答、図書館での検索野仕方を練習する。 3. 相手の立場に立ったコミュニケーションを考える。 4. 発想力、企画力をつける練習を行う。						
到達目標	1. 基本的なプレゼンテーションができる。 2. 二年代以降の学習に向けて基礎学力を獲得する。						
授業計画	第1回 (全体指導) 映像作品制作実習(1) 第2回 (全体指導) 映像作品制作実習(2) 内田担当 コミュニケーションって？ー相手の立場に立ったコミュニケーションー 第3回 (1)相手に伝える方法1 内容にあった話し方 第4回 (2)相手に伝える方法2 自分の意見を納得してもらう 第5回 (3)相手に伝える方法3 自分の考えを書いて伝える 藤本担当 第6回 発想する力(1)：創造性について 第7回 発想する力(2)：トップダウンとボトムアップ 第8回 発想する力(3)：画面の左右差 松岡担当 第9回 (1)ワークショップ：思い出の先生を語り合う 第10回 (2)教科書：人を説得する技術とは？ 第11回 (3)実践：「いい問い」のプレゼンテーション 吉田担当 第12回 (1)物語のあらすじを書く・伝える③：映画「告白」 第13回 (2)物語のあらすじを書く・伝える④：映画「桐島、部活やめるってよ」 第14回 (3)自分の見た映画のあらすじを伝え合う② (全体指導) 第15回 (全体指導)映像作品発表、大学での一年間を振り返る						
授業外における学習(準備学習の内容)	グループ発表や個人レポートで引き受けた責任を果たすこと。						
授業方法	担当教員によって授業方法が異なるので、学生にはその点も学んでほしい。						
評価基準と評価方法	平常点で30点、レポートと試験で70点						
教科書	(松岡担当分) 山田ズーニー『あなたの話はなぜ「通じない」のか』ちくま文庫、2006年、ISBN:4-480-42280-3。						
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	内田・藤本・松岡・吉田						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	プレゼンテーション能力を伸ばそう コミュニケーション力をつけよう 発想する、自分の意見を持つこと						
授業の概要	1. 各担当が専門分野の知見を活かし、学生が意欲的に効率よく学習できるよう指導する。 2. テキスト講読を通じて、資料の作り方、発表の話し方、質疑応答、図書館での検索野仕方を練習する。 3. 相手の立場に立ったコミュニケーションを考える。 4. 発想力、企画力をつける練習を行う。						
到達目標	1. 基本的なプレゼンテーションができる。 2. 二年代以降の学習に向けて基礎学力を獲得する。						
授業計画	第1回 (全体指導) 映像作品制作実習(1) 第2回 (全体指導) 映像作品制作実習(2) 内田担当 コミュニケーションって？ー相手の立場に立ったコミュニケーションー 第3回 (1)相手に伝える方法1 内容にあった話し方 第4回 (2)相手に伝える方法2 自分の意見を納得してもらう 第5回 (3)相手に伝える方法3 自分の考えを書いて伝える 藤本担当 第6回 発想する力(1)：創造性について 第7回 発想する力(2)：トップダウンとボトムアップ 第8回 発想する力(3)：画面の左右差 松岡担当 第9回 (1)ワークショップ：思い出の先生を語り合う 第10回 (2)教科書：人を説得する技術とは？ 第11回 (3)実践：「いい問い」のプレゼンテーション 吉田担当 第12回 (1)物語のあらすじを書く・伝える③：映画「告白」 第13回 (2)物語のあらすじを書く・伝える④：映画「桐島、部活やめるってよ」 第14回 (3)自分の見た映画のあらすじを伝え合う② (全体指導) 第15回 (全体指導)映像作品発表、大学での一年間を振り返る						
授業外における学習(準備学習の内容)	グループ発表や個人レポートで引き受けた責任を果たすこと。						
授業方法	担当教員によって授業方法が異なるので、学生にはその点も学んでほしい。						
評価基準と評価方法	平常点で30点、レポートと試験で70点						
教科書	(松岡担当分) 山田ズーニー『あなたの話はなぜ「通じない」のか』ちくま文庫、2006年、ISBN:4-480-42280-3。						
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	内田・藤本・松岡・吉田						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	プレゼンテーション能力を伸ばそう コミュニケーション力をつけよう 発想する、自分の意見を持つこと						
授業の概要	1. 各担当が専門分野の知見を活かし、学生が意欲的に効率よく学習できるよう指導する。 2. テキスト講読を通じて、資料の作り方、発表の話し方、質疑応答、図書館での検索野仕方を練習する。 3. 相手の立場に立ったコミュニケーションを考える。 4. 発想力、企画力をつける練習を行う。						
到達目標	1. 基本的なプレゼンテーションができる。 2. 二年代以降の学習に向けて基礎学力を獲得する。						
授業計画	第1回 (全体指導) 映像作品制作実習(1) 第2回 (全体指導) 映像作品制作実習(2) 内田担当 コミュニケーションって？ー相手の立場に立ったコミュニケーションー 第3回 (1)相手に伝える方法1 内容にあった話し方 第4回 (2)相手に伝える方法2 自分の意見を納得してもらう 第5回 (3)相手に伝える方法3 自分の考えを書いて伝える 藤本担当 第6回 発想する力(1)：創造性について 第7回 発想する力(2)：トップダウンとボトムアップ 第8回 発想する力(3)：画面の左右差 松岡担当 第9回 (1)ワークショップ：思い出の先生を語り合う 第10回 (2)教科書：人を説得する技術とは？ 第11回 (3)実践：「いい問い」のプレゼンテーション 吉田担当 第12回 (1)物語のあらすじを書く・伝える③：映画「告白」 第13回 (2)物語のあらすじを書く・伝える④：映画「桐島、部活やめるってよ」 第14回 (3)自分の見た映画のあらすじを伝え合う② (全体指導) 第15回 (全体指導)映像作品発表、大学での一年間を振り返る						
授業外における学習(準備学習の内容)	グループ発表や個人レポートで引き受けた責任を果たすこと。						
授業方法	担当教員によって授業方法が異なるので、学生にはその点も学んでほしい。						
評価基準と評価方法	平常点で30点、レポートと試験で70点						
教科書	(松岡担当分) 山田ズーニー『あなたの話はなぜ「通じない」のか』ちくま文庫、2006年、ISBN:4-480-42280-3。						
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	キリスト教保育						
担当教員	奥村 正子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教における子ども観を知る。 キリスト教保育で必要とされる「こどもさんびか」や「子どもと礼拝の音楽」について知る。						
授業の概要	教会暦、キリスト教と子どもについて学ぶ。クリスマスにチャペルで上演するイエス誕生の物語「聖誕劇」に参加する。賛美歌などのキリスト教音楽を知る。						
到達目標	「こどもさんびか」の伴奏や指導ができるようになる。 「聖誕劇」に取り組むことで、クリスマスの意味を知る。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明 第2回 キリスト教と子ども：こどもさんびか 1 第3回 生活のうた：こどもさんびか 2 第4回 自然と子ども：こどもさんびか 3 第5回 聖誕劇に向けて①：教会暦を知る 第6回 聖誕劇に向けて②：クリスマスの意味 第7回 聖誕劇に向けて③：登場する人々 第8回 聖誕劇に向けて④：台詞と音楽 第9回 聖誕劇に向けて⑤：アンサンブル 第10回 「聖誕劇」の発表 第11回 指導計画・シミュレーション指導案の作成 第12回 保育シミュレーションとディスカッション、及び ピアノによる礼拝曲（教会暦） 第13回 保育シミュレーションとディスカッション、及び ピアノによる礼拝曲（祈り） 第14回 保育シミュレーションとディスカッション、及び ピアノによる礼拝曲（賛美） 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	「聖誕劇」の歌や台詞、発表課題等は、できるだけ早い段階で暗譜すること。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	授業における積極的な取り組み、小テストなど平常点の評価が70%、期末試験が30%。 出席回数が10回に満たない場合は評価の対象としない。						
教科書	楽譜等、資料はそのつど配布する。						
参考書	・「新キリスト教保育指針」 キリスト教保育連盟 発行 その他は授業で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	国語科研究						
担当教員	大石 正廣						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	言葉の学び手・言葉の使い手を育てる国語科の教科専門力をつける						
授業の概要	国語科教育の役割と課題、国語科の全体構造、国語科で育てる学力の系統、言葉の機能、子どもの言語発達と言語環境といった国語力を養うために必要な知識や、国語科の3領域（話すこと・聞くこと、読むこと、書くこと）、及び、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項について解説する。これらの知識や内容の理解は、教材をもとに考察することで一層深められるので、現行教科書教材を取り上げながら、その眼点等について説明する。						
到達目標	1. 小学校国語科で扱う文学的文章・説明的文章などの教材分析力と授業構想力をつける。 2. 言葉の力を養う言語活動を活性化する方法や発問の仕方についての理解を深め、小学校国語科の教科専門力をつける。						
授業計画	第1回 日本語という言語の特質、子どもを取り巻く言語環境、求められる国語力 第2回 学習指導要領からみた国語科教育の変遷 第3回 国語科の中核目標と指導内容 第4回 文学教材の授業研究法 第5回 文学的文章の指導1「お手紙」を中心にした低学年の授業分析と育てる言語力・読解力 第6回 文学的文章の指導2「大造じさんとガン」を中心にした高学年の授業分析と育てる言語力・読解力 第7回 説明的文章の授業研究法 第8回 説明的文章の指導1「自動車くらべ」を中心にした低学年の授業分析と育てる言語力・読解力 第9回 説明的文章の指導2「くらしの中の和と洋」を中心にした高学年の授業分析と育てる言語力・読解力 第10回 音声言語教育の内容と指導 第11回 書くことの指導の内容と系統 第12回 漢字学習の内容と指導研究 第13回 伝統的な言語文化・小学校で扱う神話・民話・古典 第14回 国語科授業づくりの方法 第15回 これからの国語科教育の課題						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義で扱う教材について詠んでおくこと。						
授業方法	講義形式、演習形式、対話形式の授業など様々な形態の授業を組み合わせで行う。						
評価基準と評価方法	テスト（教科についての知識・理解）（6割）、授業への意欲・態度、取り組み（2割） 提出レポート（2割）の成績で総合評価する。 履修カルテの評価は。「意欲」「知識」「適性」の3観点で行う。						
教科書	プリントを配付する。 小学校国語教科書（東京書籍、三省堂、光村図書等）（授業で使用するが、個人で所有する必要はない）						
参考書	1. 文部科学省『小学校学習指導要領（国語科）東洋館出版（授業でときどき参照する） 2. 中洲正義監修『「新たな学び」を支える国語の授業』（上・下）三省堂 2012 3. 長崎伸仁・吉川芳則・石丸憲一編著『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』学事出版 2013 4. 長崎伸仁『表現力を鍛える対話の授業』明治図書 2011						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	国語科研究						
担当教員	大石 正廣						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	言葉の学び手・言葉の使い手を育てる国語科の教科専門力をつける						
授業の概要	国語科教育の役割と課題、国語科の全体構造、国語科で育てる学力の系統、言葉の機能、子どもの言語発達と言語環境といった国語力を養うために必要な知識や、国語科の3領域（話すこと・聞くこと、読むこと、書くこと）、及び、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項について解説する。これらの知識や内容の理解は、教材をもとに考察することで一層深められるので、現行教科書教材を取り上げながら、その眼点等について説明する。						
到達目標	1. 小学校国語科で扱う文学的文章・説明的文章などの教材分析力と授業構想力をつける。 2. 言葉の力を養う言語活動を活性化する方法や発問の仕方についての理解を深め、小学校国語科の教科専門力をつける。						
授業計画	第1回 日本語という言語の特質、子どもを取り巻く言語環境、求められる国語力 第2回 学習指導要領からみた国語科教育の変遷 第3回 国語科の中核目標と指導内容 第4回 文学教材の授業研究法 第5回 文学的文章の指導1「お手紙」を中心にした低学年の授業分析と育てる言語力・読解力 第6回 文学的文章の指導2「大造じさんとガン」を中心にした高学年の授業分析と育てる言語力・読解力 第7回 説明的文章の授業研究法 第8回 説明的文章の指導1「自動車くらべ」を中心にした低学年の授業分析と育てる言語力・読解力 第9回 説明的文章の指導2「くらしの中の和と洋」を中心にした高学年の授業分析と育てる言語力・読解力 第10回 音声言語教育の内容と指導 第11回 書くことの指導の内容と系統 第12回 漢字学習の内容と指導研究 第13回 伝統的な言語文化・小学校で扱う神話・民話・古典 第14回 国語科授業づくりの方法 第15回 これからの国語科教育の課題						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義で扱う教材について詠んでおくこと。						
授業方法	講義形式、演習形式、対話形式の授業など様々な形態の授業を組み合わせで行う。						
評価基準と評価方法	テスト（教科についての知識・理解）（6割）、授業への意欲・態度、取り組み（2割） 提出レポート（2割）の成績で総合評価する。 履修カルテの評価は。「意欲」「知識」「適性」の3観点で行う。						
教科書	プリントを配付する。 小学校国語教科書（東京書籍、三省堂、光村図書等）（授業で使用するが、個人で所有する必要はない）						
参考書	1. 文部科学省『小学校学習指導要領（国語科）東洋館出版（授業でときどき参照する） 2. 中洲正義監修『「新たな学び」を支える国語の授業』（上・下）三省堂 2012 3. 長崎伸仁・吉川芳則・石丸憲一編著『読解と表現をつなぐ文学・説明文の授業』学事出版 2013 4. 長崎伸仁『表現力を鍛える対話の授業』明治図書 2011						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	国語科指導法						
担当教員	大石 正廣						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	言語力の育成を重視する小学校国語科教育の実践的指導力の育成						
授業の概要	国語科教育の指導方法、国語科の3領域（話すこと・聞くこと、読むこと、書くこと）及び伝統的な言語文化と国語科の特質に関する事項ごとの授業づくりについて解説する。特に、教材研究、指導計画の立案、学習指導案の作成、指導方法、指導技術、評価方法については、授業構想力や実践的指導力の核となるものなので、事例をあげて説明をする。これらの理解は、教材を選び、指導計画を立て、発問や学習支援の方法などを考え、実際に指導を行うことで、確かなものになるので、受講者一人一人が指導案を作成し、模擬授業を行う。						
到達目標	小学校国語科を担当するために必要な指導理論、実践的展開力の基礎を身につけさせる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション国語科教育の目標、模擬授業 第2回 国語科学習指導案の立て方 第3回 話すこと・聞くことの指導の実際・対話力を養う指導法 第4回 読むことの授業づくり1「かさこじそう」を中心とした低学年の教材研究、主発問・補助発問づくり 第5回 「かさこじそう」の模擬授業 第6回 読むことの授業づくり2「ごんぎつね」を中心とした高学年の教材研究、主発問・補助発問づくり 第7回 「ごんぎつね」を中心とした模擬授業 第8回 読むことの授業づくり3 詩の教材分析、主発問、補助発問づくり 第9回 詩の指導の実際 模擬授業 第10回 読むことの授業づくり4 説明文「盲導犬の訓練」を中心とした低学年の教材研究、主発問、補助発問づくり 第11回 「盲導犬の訓練」を中心とした模擬授業 第12回 読むことの授業づくり5 説明文「未来に生かす自然のエネルギー」を中心とした高学年の教材研究、主発問、補助発問 第13回 「未来に生かす自然のエネルギー」を中心とした模擬授業 第14回 書くことの指導の実際 第15回 伝統的な言語文化についての指導の実際						
授業外における学習（準備学習の内容）	1. 小学校学習指導要領国語に示されている内容を把握しておくこと。 2. 模擬授業で扱う教材を熟読しておくこと。 3. 模擬授業で行う指導案の作成を事前にしておくこと。						
授業方法	講義形式、演習形式、模擬授業形式の授業など様々な形態を組み合わせで行う。						
評価基準と評価方法	授業への参加意欲・態度・（演習や模擬授業での発言内容等も含める）（2割）、学習指導案略案の作成能力と模擬授業などでみる実践的指導力（5割）、指導法についての知識の定着度をみるテスト（3割）で総合評価する。 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適正」の3観点で行う						
教科書	資料を配布する。 文部科学省『小学校学習指導要領解説（国語編）』東洋館出版〔授業で使用〕						
参考書	長崎伸仁・石丸憲一・大石正廣編著『文学・説明文の授業展開 全単元 小学校低学年』学事出版 2012 長崎伸仁・石丸憲一・大石正廣編著『文学・説明文の授業展開 全単元 小学校中学年』学事出版 2012 長崎伸仁・石丸憲一・大石正廣編著『文学・説明文の授業展開 全単元 小学校高学年』学事出版 2012 二瓶弘行編著『最良の教材で、最高の「言葉の力」を育む国語授業』東洋館出版社 2014 長崎伸仁・桂聖『文学の教材研究コーチング』東洋館出版社						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども英語I						
担当教員	吉井 康博						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	幼児・児童の英語教育研究						
授業の概要	この授業では、早期英語教育の理解に必要な認知心理学の基礎知識とSLA(第二言語習得)理論を学習します。言語を学習するには次のような要因が関与します。つまり、個人の言語学習に向かう動機と態度、inputとoutput、相互交流、さらに意識と注意、そして気づきなどです。これらの要因がどのような形で相互に関連しL2(第二言語)学習を促進するかを理論の実例から学習します。また授業の展開に必要な英語表現や基礎文法を口頭練習により学びます。						
到達目標	幼児・児童に英語を教える指導原理の習得と授業を行う際に要求される英語力を身に着けます。						
授業計画	English for Primary Teachers: EPT / Classroom English: CE / Sentence-Creating Exercises: SCE / Review Quiz: RQ 1. Introduction 2. EPT 1.1 First Language — second language CE 1-1 SCE1-1 3. RQ (CE1-1) EPT 1.2 Starting your lessons in English CE 1-2 SCE1-2 4. RQ (CE1-2) EPT 1.3 Organizing your classroom CE 1-3 SCE1-3 5. RQ (CE1-3) EPT 1.4 Ending your lessons CE 1-4 SCE1-4 6. RQ (CE1-4) EPT 1.5 Young learners CE 1-5 SCE1-5 7. RQ(CE1-5) EPT 2.1 Giving instructions in English CE 1-6 SCE1-6 8. RQ(CE1-6) EPT 2.2. Listening and identifying CE 1-7 SCE1-7 9. RQ(CE1-7) EPT 2.3 Listening and doing - TPR CE 1-8 SCE1-8 10. RQ(CE1-8) EPT 2.4 Listening and performing - miming CE 1-9 SCE1-9 11. RQ(CE1-9) EPT 2.5 Listening and responding games CE 1-10 SCE1-10 12. RQ(CE1-10) EPT 3.1 Listen and color CE 1-11 SCE1-11 13. RQ(CE1-11) EPT 3.2 Listen and draw CE 1-12 SCE1-12 14. RQ(CE1-12) EPT 3.3 Listen and make CE 1-13 SCE1-13 15. Question-and-Answer Session / Final Quiz						
授業外における学習（準備学習の内容）	(1) 毎回の授業で行うClassroom English(教室英語表現)は、Review Quiz(復習テスト)を行うので必ず口頭でも筆記でも対応できるよう準備が必要です。 (2) 教科書(English for Primary Teachers)は予習して、しっかり意味を理解しておく必要があります。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	Review Quiz: 40%; Participation:10%; Final Quiz:50%						
教科書	English for Primary Teachers Mary Slattery&Jane Willis Oxford Univ. Press ISBN 978-0-19-437563-3						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども英語Ⅱ						
担当教員	吉井 康博						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	幼児・児童の英語教育研究						
授業の概要	子ども英語Ⅰで学習した理論的知識に基づき、実用的な授業展開方法に関する理解を深め、効果的な指導方法について何が必要なのかを考察していきます。また、授業案を練ることを課題とし、その課題を実践する模擬授業を行ってもらいます。 子ども英語Ⅰと同様、英語の形と表現法を学ぶ過程で、児童に投げかける疑問文を作ることや、様々な表現を組み合わせる簡単な物語を創作する練習も行います。						
到達目標	幼児・児童に英語を教える指導原理の習得と授業を行う際に要求される英語力を身につけること、また授業が実際にできるようにすること。						
授業計画	English for Primary Teachers: EPT / Classroom English: CE / Sentence-Creating Exercises: SCE / Review Quiz: RQ 1. EPT 4.1 Using classroom phrases CE 1-1 SCE1-1 2. RQ (CE1-1) EPT 4.2 Saying rhymes and singing songs CE 1-2 SCE1-2 3. RQ (CE1-2) EPT 4.3 Practicing new vocabulary CE 1-3 SCE1-3 4. RQ (CE1-3) EPT 4.4 Playing vocabulary games CE 1-4 SCE1-4 5. RQ (CE1-4) EPT 4.5 Practicing pronunciation of new sounds CE 1-5 SCE1-5 6. RQ (CE1-5) EPT 5.1 Cognitive development CE 1-6 SCE1-6 7. RQ (CE1-6) EPT 5.2 Starting to speak freely CE 1-7 SCE1-7 8. RQ (CE1-7) EPT 5.3 Speaking games CE 1-8 SCE1-8 9. RQ (CE1-8) EPT 5.4 Children speaking in groups CE 1-9 SCE1-9 10. RQ (CE1-9) EPT 6.1 Beginning reading CE 1-10 SCE1-10 11. RQ (CE1-10) EPT 6.2 Speaking to reading CE 1-11 SCE1-11 12. RQ (CE1-11) EPT 6.3 Helping children recognize phrases CE 1-12 SCE1-12 13. RQ (CE1-12) EPT 6.4 Reading independently CE 1-13 SCE1-13 14. Presentation 15. Question-and-Answer Session / Final Quiz						
授業外における学習（準備学習の内容）	(1) 毎回の授業で行うClassroom English(教室英語表現)は、Review Quiz(復習テスト)を行うので必ず口頭でも筆記でも対応できるよう準備が必要です。 (2) 教科書(English for Primary Teachers)は予習して、しっかり意味を理解しておく必要があります。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	Review Quiz: 30%; Presentaion:20%; Final Quiz:50%						
教科書	English for Primary Teachers Mary Slattery&Jane Willis Oxford Univ. Press ISBN 978-0-19-437563-4						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども心理Ⅱ（子育て支援）／子ども心理Ⅲ（子育て支援）						
担当教員	寺見 陽子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保護者の養育性の発達および親子関係の発達と子育て支援の基本及びその実際について学ぶ。						
授業の概要	授業の概要： 少子化・核家族化が進行し、人間関係の希薄化した今日、家族・地域の教育力が低下し、親の育児不安や虐待とともに子どもの育ちのアンバランスさが問題となっている。ここでは、保護者の育児ストレス及びそのストレス・コーピングとソーシャルサポートについて一考し、親子、家族、地域における発達心理臨床の実際を学ぶ。						
到達目標	①今日の子育て環境と保護者の子育て心理を理解する。 ②保護者のアイデンティティの形成を促す支援のあり方について理解する。 ③子育て支援の実際について理解する。						
授業計画	第1回 子育て・子育ての原風景ー子育て・子育ての基本 第2回 現代社会と子育て・子育て 第3回 子育て支援の意義と動向 第4回 子育て支援の理論的・実践的背景 第5回 現代の親の育児ストレスの要因 第6回 ストレスコーピングとソーシャルサポート 第7回 親の養育性と親子関係の発達 第8回 子どもの養育と保護者支援の支援の視点 第9回 家族支援と地域支援の視点 第10回 次世代育成支援の視点 第11回 保育現場における子育て支援 第12回 子育て支援プログラムーその実際とその技法 第13回 子育て支援プログラムの開発ー計画と実践ー 第14回 子育て支援の実際（1）ー「まっぼっくり」実習 第15回 子育て支援の実際（2）ー子育て支援に関連する施設・拠点の見学実習 第16回 子育て支援の実際（3）ー社会的資源の活用とネットワークづくり 第17回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	子育て支援実習（「まっぼっくり」実習） 子育て支援に関連する施設・拠点の見学実習						
授業方法	講義およびグループワーク。インタビュー調査						
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 小レポート 20点 実習レポート 30点 テスト 50点						
教科書	寺見陽子編 「子育て・子育て支援学」 保育出版2011						
参考書	必要に応じて示します。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども心理III（理解と方法）／子ども心理I（理解と方法）						
担当教員	藤本 浩一						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	発達心理学研究法						
授業の概要	子どもの心理を調べる方法について具体的に学ぶ。主としてアンケートなどの情報収集とその統計処理および結果の解釈について習熟する。数回のレポートを提出する。心理学論文の読み方ガイドを行うので、各自論文を検索し発表してもらう。簡単な実習やビデオ視聴を行う。						
到達目標	簡単な統計処理について理解し、実際に使える。各種心理検査についておおまかな知識を修得し、区別できる。						
授業計画	1. 教育評価 2. 心理査定（WISC） 3. 心理査定（KABC2） 4. 心理査定（性格検査） 5. 性格テストの用い方 6. DVD視聴（子育てのセンス） 7. DVD視聴（面接法） 8. 半構造化面接 9. KJ法 10. 論文の読み方 11. 統計的検定の仕方 12. グループ発表（知能テスト関連） 13. グループ発表（人格テスト関連） 14. グループ発表（観察法、質的研究法） 15. 実験計画法、筆記試験。						
授業外における学習（準備学習の内容）	レポート作成、文献検索、課題完成など。						
授業方法	講義、グループ学習、視聴覚教材。						
評価基準と評価方法	平常点50％、筆記試験50％						
教科書	プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども心理Ⅳ（発達障害）						
担当教員	藤本 浩一						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	発達のアンバランスの理解と支援						
授業の概要	近年の教育・保育現場で注目されている発達アンバランス（発達障害）について正しい理解を持ち、適切な支援策を講じることができるよう知識基盤を得ることを目的とする。 LD、ADHD、自閉症スペクトラムなどについて概説し、発達障害児の特性を十分知った上で、学校や日常生活場面で彼らに対する適切な教育・訓練や対応の仕方を学ぶ。障害を持つ人が社会で誇りと満足を持って生きていくにはどうすればいいかを考えるきっかけとしたい。受講人数次第では論文講読・グループ発表を行う。						
到達目標	発達アンバランスについての知識を得て、各種の障害を区別できる。将来の職場でスムーズに対処できるように支援の方法を説明できる。						
授業計画	1. LD 特徴、ワーキングメモリー 2. LD 事例、支援 3. ADHD 特徴、査定 4. ADHD 事例、支援、大人のADHD 5. ASD／PDD 特徴、原因 6. ASD／PDD 事例、訓練 7. ASD／PDD 支援の取り組み 8. 知的遅滞 特徴、心理査定、支援の事例 9. ダウン症 特徴 10. 認知訓練の実際 中間テスト 11. 論文講読① 「発達障害の特徴」 12. 論文講読② 「自閉症について」 13. 論文講読③ 「園での発達障害児の支援の方法」 14. 論文講読④ 「学校での発達障害児の支援の方法」 15. 論文講読⑤ 「発達障害者の社会参加」						
授業外における学習（準備学習の内容）	文献検索、発表要旨作成等の準備、レポート課題						
授業方法	講義、視聴覚教材、討論、論文講読と発表						
評価基準と評価方法	中間テストにて発達障害に関する知識を問う（30％）。他に、発表のわかりやすさ・本人理解（30％）、筆記試験（40％）などにより総合的に評価を行う。						
教科書	プリント教材を配ります。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども心理Ⅴ（いじめと虐待）						
担当教員	高田 紗英子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	子どものトラウマ（いじめと虐待について）						
授業の概要	いじめや虐待は、学校や家庭といった所属集団内で生じる加害行為です。被害を受けた子どもたちは、いじめや虐待をうけている最中だけでなく、その後も長期間に渡り、こころとからだに大きな傷を負うことになります。 いじめや虐待は、ひとつひとつケースが異なり、ひとくくりの対処法はありません。この授業では、いじめや虐待について、被害者・加害者・ケア提供者の視点から、総合的な理解を深めます。また、円滑な対人関係を築くための、効果的なコミュニケーションのあり方についても、グループワークなどを通じて、実践的に行っていきます。 本授業は、講義だけでなく、映像資料やロールプレイ、学生の皆さんの意見交換などを含めた演習形式で行います。						
到達目標	いじめや虐待のメカニズムについて、理解を深めることができます。 また、実践的かつ多角的に学ぶことにより、教育・保育の現場で役立つ知識を習得することができます。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 虐待の種類とその構造 第3回 被虐待体験による心理的影響 第4回 虐待を受けた子どもの心理的ケアと回復プロセス 第5回 虐待する養育者の心理 第6回 映画「誰も知らない」からみる児童虐待：養育困難家庭に関する考察 第7回 映画「誰も知らない」からみる児童虐待：社会的孤立の中で生き抜くことについて 第8回 いじめの種類とその構造 第9回 いじめを受けた子どもへの心理的ケアと回復プロセス：グループワーク 第10回 いじめを受けた子どもへの心理的ケアと回復プロセス：グループワークおよびディスカッション 第11回 映画「問題のない私たち」からみるいじめ：思春期のこころ 第12回 映画「問題のない私たち」からみるいじめ：いじめの被害と加害の連鎖に関する考察 第13回 効果的なコミュニケーションのあり方を学ぶ（グループワーク） 第14回 ケア提供者への支援 第15回 まとめと試験 * 各回のテーマは、授業の流れや履修者の興味関心などにより、順番の入れ替えやテーマの変更を行う可能性があります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	ありません。						
授業方法	基本的には講義ですが、内容によってはグループワークを含めた演習形式で行います。						
評価基準と評価方法	平常点（30%）、レポート（30点）、試験（40点）						
教科書	適宜プリントを配布します。						
参考書	特にありません。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子どもの食と栄養／子ども発達Ⅰ（食育）						
担当教員	織田 小枝						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの健やかな発育・発達には適切な食生活が重要であるばかりではなく、生涯にわたる健康への第一歩である。本授業では、子どもの成長発達に必要な栄養や食品の基本的知識を学ぶとともに「食育」の重要性を理解し、食育を行うための専門的知識について講義する。						
授業の概要	1. 健康な食生活の意義と栄養に関する基本的知識を学ぶ。 2. 子どもの発育・発達に応じた食生活について理解を深める。 3. 食育の基本と内容および食育のための環境と地域社会との連携について理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。 5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。						
到達目標	1. 基本的な栄養学、食品学の知識を説明できる。 2. 子どもの発育・発達段階に応じた食生活を学び、有効な食育内容を検討することができる。 3. 食育の重要性について説明できる。						
授業計画	第1回 子どもの健康と食生活の意義 第2回 栄養に関する基本的知識①（糖質・脂質） 第3回 栄養に関する基本的知識②（たんぱく質・ミネラル） 第4回 栄養に関する基本的知識③（ビタミン・その他） 第5回 食べ物の消化、吸収と排泄 第6回 献立作成 第7回 調理の基本 第8回 乳児期の授乳の意義と食生活 第9回 乳児期の離乳の意義と食生活 第10回 幼児期の心身の発達と食生活 第11回 学童期の心身の発達と食生活 第12回 食育の基本と内容 第13回 児童福祉施設における食事と栄養 第14回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 第15回 まとめ、試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業内容の予習および復習 食に関する情報収集や市場調査を日頃から心がけること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験50%、課題・レポート50%として評価する。						
教科書	「最新子どもの食と栄養」 飯塚美和子他編、学建書院、2016年、ISBN=978-4-7624-5841-5						
参考書	「子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養」 堤ちはる・土井正子編著、萌文書林、2015年、ISBN=978-4-89347-154-3 「オールガイド食品成分表2016」 実教出版編集部編、実教出版、2015年、ISBN=978-4-407-33811-9						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子どもの食と栄養／子ども発達Ⅰ（食育）						
担当教員	織田 小枝						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの健やかな発育・発達には適切な食生活が重要であるばかりではなく、生涯にわたる健康への第一歩である。本授業では、子どもの成長発達に必要な栄養や食品の基本的知識を学ぶとともに「食育」の重要性を理解し、食育を行うための専門的知識について講義する。						
授業の概要	1. 健康な食生活の意義と栄養に関する基本的知識を学ぶ。 2. 子どもの発育・発達に応じた食生活について理解を深める。 3. 食育の基本と内容および食育のための環境と地域社会との連携について理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。 5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。						
到達目標	1. 基本的な栄養学、食品学の知識を説明できる。 2. 子どもの発育・発達段階に応じた食生活を学び、有効な食育内容を検討することができる。 3. 食育の重要性について説明できる。						
授業計画	第1回 子どもの健康と食生活の意義 第2回 栄養に関する基本的知識①（糖質・脂質） 第3回 栄養に関する基本的知識②（たんぱく質・ミネラル） 第4回 栄養に関する基本的知識③（ビタミン・その他） 第5回 食べ物の消化、吸収と排泄 第6回 献立作成 第7回 調理の基本 第8回 乳児期の授乳の意義と食生活 第9回 乳児期の離乳の意義と食生活 第10回 幼児期の心身の発達と食生活 第11回 学童期の心身の発達と食生活 第12回 食育の基本と内容 第13回 児童福祉施設における食事と栄養 第14回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 第15回 まとめ、試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業内容の予習および復習 食に関する情報収集や市場調査を日頃から心がけること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験50%、課題・レポート50%として評価する。						
教科書	「最新子どもの食と栄養」 飯塚美和子他編、学建書院、2016年、ISBN=978-4-7624-5841-5						
参考書	「子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養」 堤ちはる・土井正子編著、萌文書林、2015年、ISBN=978-4-89347-154-3 「オールガイド食品成分表2016」 実教出版編集部編、実教出版、2015年、ISBN=978-4-407-33811-9						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達Ⅱ（児童福祉）						
担当教員	塚元 重範						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	児童家庭福祉の意義と役割						
授業の概要	子どもの捉え方を歴史的経緯の中で理解し、現代社会における子どもや家庭の問題とそれに対応する児童家庭福祉の理念、制度、仕組みについて学ぶ。						
到達目標	児童家庭福祉の理念、仕組み、法律、制度を理解する。 現代の子どもと家庭を取り巻く環境について考え、児童問題とそれに対応する児童家庭福祉制度の利用の仕方やサービスについて理解する。 児童家庭福祉の現状と課題を理解し、今後の展望について考える。						
授業計画	第1回：オリエンテーション、児童家庭福祉の考え方 第2回：児童家庭福祉を取り巻く状況 第3回：児童家庭福祉の歴史 第4回：児童家庭福祉行政の仕組み 第5回：児童家庭福祉の機関と施設 第6回：健全育成サービス 第7回：母子保健サービス 第8回：保育サービス 第9回：要保護児童への福祉サービス 第10回：障害児福祉サービス 第11回：少年非行への対応 第12回：ひとり親家庭への福祉サービス 第13回：子ども虐待の防止とその対応 第14回：児童家庭福祉でのソーシャルワーク 第15回：まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回、授業を受ける前に必ず教科書を読んでおいてください。また、日頃から児童問題に関心を持ち、新聞などで児童問題に関する記事が出たら何が問題なのか自分なりに考えるようにしてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点 20% 小レポート 30% 試験 50%						
教科書	新プリマーズ『児童家庭福祉』第4版 福田公教・山縣文治編著 ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-07340-5 C3336						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達III（障害児と環境）						
担当教員	西川 央江						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	障害のある子どもへの理解と支援						
授業の概要	インクルーシブ教育の推進において特別な支援を要する子どもや保護者に対して専門的支援が求められている。この授業において、①ダウン症等の知的障害、自閉症スペクトラム、脳性麻痺等の運動障害、感覚障害の障害特性、②障害のある子どもを育てる保護者や家族を支援する方法、③保育、教育場で困っている子どもに対しての支援のあり方について学習する。また、障害のある子どもたちの豊かな発達を保障するためにどのような環境・システムを整えることが大切であるかについて考える。						
到達目標	1. 障害の特性について基本的な知識について説明できる 2. 障害のある子どもへの支援方法を述べることができる 3. 障害のある子どもの保護者や兄弟姉妹、その他周囲の人への支援方法を述べるができる 4. 障害のある子どもの発達を促すために環境・システムに求められる要件を述べるができる						
授業計画	第1回 障害児を取り巻く状況と保育・教育 第2回 障害のある子どもの発達 第3回 障害特性の理解と支援①（知的障害） 第4回 障害特性の理解と支援②（ダウン症） 第5回 障害特性の理解と支援③（自閉症スペクトラムー就学まで） 第6回 障害特性の理解と支援④（自閉症スペクトラムー就学後） 第7回 障害特性の理解と支援⑤（脳性麻痺） 第8回 障害特性の理解と支援⑥（てんかん） 第9回 障害特性の理解と支援⑦（重複する障害のケース） 第10回 障害特性の理解と支援⑧（視覚障害 聴覚障害） 第11回 子どもを支援する環境の実際①（保育場面中心） 第12回 子どもを支援する環境の実際②（学校場面中心） 第13回 子どもを支援する環境の実際③（家庭中心） 第14回 家族支援 関係機関との連携 第15回 まとめ 試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：障害のある子どもについて関心をもち報道番組や新聞記事などから情報を得る。 授業後学習：授業で学んだ知識をボランティア活動や教育実習場面で経験したこと照らし合わせ、将来的に保育・教育現場で生かしていける基礎能力になるようまとめる。						
授業方法	講義・グループワーク						
評価基準と評価方法	提出物50% 試験50%						
教科書	プリント配布						
参考書	「最新保育講座15 障害児保育」鯨岡峻編 ミネルヴァ書房 「新版テキスト 障害児保育」近藤直子・白石正久・中村尚子編 全障研出版部						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達III（障害児と環境）						
担当教員	西川 央江						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	障害のある子どもへの理解と支援						
授業の概要	インクルーシブ教育の推進において特別な支援を要する子どもや保護者に対して専門的支援が求められている。この授業において、①ダウン症等の知的障害、自閉症スペクトラム、脳性麻痺等の運動障害、感覚障害の障害特性、②障害のある子どもを育てる保護者や家族を支援する方法、③保育、教育場面で困っている子どもに対しての支援のあり方について学習する。また、障害のある子どもたちの豊かな発達を保障するためにどのような環境・システムを整えることが大切であるかについて考える。						
到達目標	1. 障害の特性について基本的な知識について説明できる 2. 障害のある子どもへの支援方法を述べることができる 3. 障害のある子どもの保護者や兄弟姉妹、その他周囲の人への支援方法を述べることができる 4. 障害のある子どもの発達を促すために環境・システムに求められる要件を述べるができる						
授業計画	第1回 障害児を取り巻く状況と保育・教育 第2回 障害のある子どもの発達 第3回 障害特性の理解と支援①（知的障害） 第4回 障害特性の理解と支援②（ダウン症） 第5回 障害特性の理解と支援③（自閉症スペクトラムー就学まで） 第6回 障害特性の理解と支援④（自閉症スペクトラムー就学後） 第7回 障害特性の理解と支援⑤（脳性麻痺） 第8回 障害特性の理解と支援⑥（てんかん） 第9回 障害特性の理解と支援⑦（重複する障害のケース） 第10回 障害特性の理解と支援⑧（視覚障害 聴覚障害） 第11回 子どもを支援する環境の実際①（保育場面中心） 第12回 子どもを支援する環境の実際②（学校場面中心） 第13回 子どもを支援する環境の実際③（家庭中心） 第14回 家族支援 関係機関との連携 第15回 まとめ 試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：障害のある子どもについて関心をもち報道番組や新聞記事などから情報を得る。 授業後学習：授業で学んだ知識をボランティア活動や教育実習場面で経験したこと照らし合わせ、将来的に保育・教育現場で生かしていける基礎能力になるようまとめる						
授業方法	講義・グループワーク						
評価基準と評価方法	提出物50% 試験50%						
教科書	プリント配布						
参考書	「最新保育講座15 障害児保育」鯨岡峻編 ミネルヴァ書房 「新版テキスト 障害児保育」近藤直子・白石正久・中村尚子編 全障研出版部						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達Ⅳ（人権と福祉）／子ども発達Ⅴ（人権と福祉）						
担当教員	塚元 重範						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	人権と社会福祉の役割と仕組み						
授業の概要	人権を守り、一人ひとりの生活を豊かにする社会福祉がどのような役割を担い、どういう仕組みになっているかを学ぶ。また、子どもの権利の侵害への対応方法や福祉制度の利用方法、関係機関同士の連携等保育や福祉現場で従事する者に求められるものを考える力を養う。						
到達目標	社会福祉の理念、仕組み、法律、制度を理解する。 社会的援助を必要とする状況を理解し、社会福祉制度の利用方法を理解し、適切な福祉サービスを考える力をつける。						
授業計画	第1回：オリエンテーション、社会福祉の考え方 第2回：社会福祉を取り巻く環境 第3回：社会福祉の歴史、社会福祉の仕組み 第4回：社会福祉サービスの利用の仕組み 第5回：社会福祉の機関と施設 第6回：社会保障、低所得者福祉 第7回：児童家庭福祉 第8回：児童虐待その1、現状と課題 第9回：児童虐待その2、対応と対策 第10回：高齢者福祉 第11回：障害者福祉 第12回：地域福祉、利用者保護制度 第13回：社会的援助技術 第14回：社会福祉の担い手 第15回：まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回授業までに教科書を読んでおいてください。また、日常的に福祉に関連する新聞記事などに関心を持ち、何が問題でどうあるべきか等考えるようにしておいてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点 20％ 小レポート 30％ 試験 50％						
教科書	新プリマーズ『社会福祉』第4版 石田慎二・山縣文治編著 ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-07341-2 C3336						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達Ⅴ（社会性と人格）／子ども発達Ⅳ（社会性と人格）						
担当教員	藤本 浩一						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会性と人格の発達						
授業の概要	子どもの人格と社会性の発達について講義を行う。子どもを取り巻く人間関係や社会文化的要因、自我の形成、対人関係などについて理解を深め、子どもの心の支援について考察する。「いじめ」対策や社会的スキル獲得など、個々の子どもに応じた対処の仕方を工夫できるような資源を作る。教師集団の心理についてもDVD視聴により社会心理学の観点から学習を深める。						
到達目標	社会性発達の研究を知る。						
授業計画	1. 人格の基礎 気質、タイプ 2. 社会性とは何か そのゴール 3. 社会性が損なわれるとき 4. 社会性の発達 5. 対人コミュニケーション 6. 家族関係 親子、兄弟 7. 社会的認知 8. 遊びと社会性 9. 友人関係の成立と発展 10. 自己主張と自己抑制 11. セルフコントロール 12. 学級の中での対人関係 13. 社会的スキルトレーニング 14. 道徳性発達 15. DVD視聴と筆記試験実施						
授業外における学習（準備学習の内容）	文献・論文検索、発表要旨作成、レポート課題作成。						
授業方法	講義、討論、視聴覚教材						
評価基準と評価方法	筆記試験（50％）と、不定期の提出物など（50％）で総合的に評価を行います。人数が多くなければ発表授業を行い、その場合は発表30％、筆記試験30％、提出物40％で総合評価します。						
教科書	プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達実習						
担当教員	内田 祐貴						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	学校・保育・子育て支援現場での実地学習を行う						
授業の概要	保育所・幼稚園・小学校・特別支援学校など、保育・教育の現場を訪問し、その実際について見学を通して理解する。						
到達目標	①乳幼児・児童期の子どもの育ちと教育について理解する ②乳幼児・児童を援助するための期保育・教育の実際について学ぶ ③授業全体を通じて、教師や保育者の仕事について理解を深める。						
授業計画	小学校（代表：根津）、幼稚園（代表：春）、保育所（代表：吉田）、特別支援学校（代表：谷口）を中心に、見学と実地体験を行う。具体的な訪問順、および訪問先は授業開始までに確定する。 第1回 オリエンテーション：授業の進め方・レポートに関する説明（大下・大石・内田）、訪問上の注意（根津、春、吉田、谷口） 第2回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第3回 現場見学と実地体験（1）：引率（全教員） 第4回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第5回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第6回 現場見学と実地体験（2）：引率（全教員） 第7回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第8回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第9回 現場見学と実地体験（3）：引率（全教員） 第10回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第11回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第12回 現場見学と実地体験（4）：引率（全教員） 第13回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第14回 全体に関するディスカッション（全教員） 第15回 まとめ（全教員）						
授業外における学習（準備学習の内容）	見学実習・レポート作成						
授業方法	講義およびグループディスカッション						
評価基準と評価方法	実習への参加＋レポート提出、総括レポート 計5回						
教科書	特に指定しない。						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達実習						
担当教員	内田 祐貴						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	学校・保育・子育て支援現場での実地学習を行う						
授業の概要	保育所・幼稚園・小学校・特別支援学校など、保育・教育の現場を訪問し、その実際について見学を通して理解する。						
到達目標	①乳幼児・児童期の子どもの育ちと教育について理解する ②乳幼児・児童を援助するための期保育・教育の実際について学ぶ ③授業全体を通じて、教師や保育者の仕事について理解を深める。						
授業計画	小学校（代表：根津）、幼稚園（代表：春）、保育所（代表：吉田）、特別支援学校（代表：谷口）を中心に、見学と実地体験を行う。具体的な訪問順、および訪問先は授業開始までに確定する。 第1回 オリエンテーション：授業の進め方・レポートに関する説明（大下・大石・内田）、訪問上の注意（根津、春、吉田、谷口） 第2回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第3回 現場見学と実地体験（1）：引率（全教員） 第4回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第5回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第6回 現場見学と実地体験（2）：引率（全教員） 第7回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第8回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第9回 現場見学と実地体験（3）：引率（全教員） 第10回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第11回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第12回 現場見学と実地体験（4）：引率（全教員） 第13回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第14回 全体に関するディスカッション（全教員） 第15回 まとめ（全教員）						
授業外における学習（準備学習の内容）	見学実習・レポート作成						
授業方法	講義およびグループディスカッション						
評価基準と評価方法	実習への参加＋レポート提出、総括レポート 計5回						
教科書	特に指定しない。						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達実習						
担当教員	大石 正廣						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	学校・保育・子育て支援現場での実地学習を行う						
授業の概要	保育所・幼稚園・小学校・特別支援学校など、保育・教育の現場を訪問し、その実際について見学を通して理解する。						
到達目標	①乳幼児・児童期の子どもの育ちと教育について理解する ②乳幼児・児童を援助するための期保育・教育の実際について学ぶ ③授業全体を通じて、教師や保育者の仕事について理解を深める。						
授業計画	小学校（代表：根津）、幼稚園（代表：春）、保育所（代表：吉田）、特別支援学校（代表：谷口）を中心に、見学と実地体験を行う。具体的な訪問順、および訪問先は授業開始までに確定する。 第1回 オリエンテーション：授業の進め方・レポートに関する説明（大下・大石・内田）、訪問上の注意（根津、春、吉田、谷口） 第2回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第3回 現場見学と実地体験（1）：引率（全教員） 第4回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第5回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第6回 現場見学と実地体験（2）：引率（全教員） 第7回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第8回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第9回 現場見学と実地体験（3）：引率（全教員） 第10回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第11回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第12回 現場見学と実地体験（4）：引率（全教員） 第13回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第14回 全体に関するディスカッション（全教員） 第15回 まとめ（全教員）						
授業外における学習（準備学習の内容）	見学実習・レポート作成						
授業方法	講義およびグループディスカッション						
評価基準と評価方法	実習への参加＋レポート提出、総括レポート 計5回						
教科書	特に指定しない。						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達実習						
担当教員	大石 正廣						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	学校・保育・子育て支援現場での実地学習を行う						
授業の概要	保育所・幼稚園・小学校・特別支援学校など、保育・教育の現場を訪問し、その実際について見学を通して理解する。						
到達目標	①乳幼児・児童期の子どもの育ちと教育について理解する ②乳幼児・児童を援助するための期保育・教育の実際について学ぶ ③授業全体を通じて、教師や保育者の仕事について理解を深める。						
授業計画	小学校（代表：根津）、幼稚園（代表：春）、保育所（代表：吉田）、特別支援学校（代表：谷口）を中心に、見学と実地体験を行う。具体的な訪問順、および訪問先は授業開始までに確定する。 第1回 オリエンテーション：授業の進め方・レポートに関する説明（大下・大石・内田）、訪問上の注意（根津、春、吉田、谷口） 第2回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第3回 現場見学と実地体験（1）：引率（全教員） 第4回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第5回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第6回 現場見学と実地体験（2）：引率（全教員） 第7回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第8回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第9回 現場見学と実地体験（3）：引率（全教員） 第10回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第11回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第12回 現場見学と実地体験（4）：引率（全教員） 第13回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第14回 全体に関するディスカッション（全教員） 第15回 まとめ（全教員）						
授業外における学習（準備学習の内容）	見学実習・レポート作成						
授業方法	講義およびグループディスカッション						
評価基準と評価方法	実習への参加＋レポート提出、総括レポート 計5回						
教科書	特に指定しない。						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達実習						
担当教員	大下 卓司						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	学校・保育・子育て支援現場での実地学習を行う						
授業の概要	保育所・幼稚園・小学校・特別支援学校など、保育・教育の現場を訪問し、その実際について見学を通して理解する。						
到達目標	①乳幼児・児童期の子どもの育ちと教育について理解する ②乳幼児・児童を援助するための期保育・教育の実際について学ぶ ③授業全体を通じて、教師や保育者の仕事について理解を深める。						
授業計画	小学校（代表：根津）、幼稚園（代表：春）、保育所（代表：吉田）、特別支援学校（代表：谷口）を中心に、見学と実地体験を行う。具体的な訪問順、および訪問先は授業開始までに確定する。 第1回 オリエンテーション：授業の進め方・レポートに関する説明（大下・大石・内田）、訪問上の注意（根津、春、吉田、谷口） 第2回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第3回 現場見学と実地体験（1）：引率（全教員） 第4回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第5回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第6回 現場見学と実地体験（2）：引率（全教員） 第7回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第8回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第9回 現場見学と実地体験（3）：引率（全教員） 第10回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第11回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第12回 現場見学と実地体験（4）：引率（全教員） 第13回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第14回 全体に関するディスカッション（全教員） 第15回 まとめ（全教員）						
授業外における学習（準備学習の内容）	見学実習・レポート作成						
授業方法	講義およびグループディスカッション						
評価基準と評価方法	実習への参加＋レポート提出、総括レポート 計5回						
教科書	特に指定しない。						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達実習						
担当教員	大下 卓司						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	学校・保育・子育て支援現場での実地学習を行う						
授業の概要	保育所・幼稚園・小学校・特別支援学校など、保育・教育の現場を訪問し、その実際について見学を通して理解する。						
到達目標	①乳幼児・児童期の子どもの育ちと教育について理解する ②乳幼児・児童を援助するための期保育・教育の実際について学ぶ ③授業全体を通じて、教師や保育者の仕事について理解を深める。						
授業計画	小学校（代表：根津）、幼稚園（代表：春）、保育所（代表：吉田）、特別支援学校（代表：谷口）を中心に、見学と実地体験を行う。具体的な訪問順、および訪問先は授業開始までに確定する。 第1回 オリエンテーション：授業の進め方・レポートに関する説明（大下・大石・内田）、訪問上の注意（根津、春、吉田、谷口） 第2回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第3回 現場見学と実地体験（1）：引率（全教員） 第4回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第5回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第6回 現場見学と実地体験（2）：引率（全教員） 第7回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第8回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第9回 現場見学と実地体験（3）：引率（全教員） 第10回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第11回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第12回 現場見学と実地体験（4）：引率（全教員） 第13回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第14回 全体に関するディスカッション（全教員） 第15回 まとめ（全教員）						
授業外における学習（準備学習の内容）	見学実習・レポート作成						
授業方法	講義およびグループディスカッション						
評価基準と評価方法	実習への参加＋レポート提出、総括レポート 計5回						
教科書	特に指定しない。						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達実習						
担当教員	谷口 和良						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	学校・保育・子育て支援現場での実地学習を行う						
授業の概要	保育所・幼稚園・小学校・特別支援学校など、保育・教育の現場を訪問し、その実際について見学を通して理解する。						
到達目標	①乳幼児・児童期の子どもの育ちと教育について理解する ②乳幼児・児童を援助するための期保育・教育の実際について学ぶ ③授業全体を通じて、教師や保育者の仕事について理解を深める。						
授業計画	小学校（代表：根津）、幼稚園（代表：春）、保育所（代表：吉田）、特別支援学校（代表：谷口）を中心に、見学と実地体験を行う。具体的な訪問順、および訪問先は授業開始までに確定する。 第1回 オリエンテーション：授業の進め方・レポートに関する説明（大下・大石・内田）、訪問上の注意（根津、春、吉田、谷口） 第2回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第3回 現場見学と実地体験（1）：引率（全教員） 第4回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第5回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第6回 現場見学と実地体験（2）：引率（全教員） 第7回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第8回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第9回 現場見学と実地体験（3）：引率（全教員） 第10回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第11回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第12回 現場見学と実地体験（4）：引率（全教員） 第13回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第14回 全体に関するディスカッション（全教員） 第15回 まとめ（全教員）						
授業外における学習（準備学習の内容）	見学実習・レポート作成						
授業方法	講義およびグループディスカッション						
評価基準と評価方法	実習への参加＋レポート提出、総括レポート 計5回						
教科書	特に指定しない。						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達実習						
担当教員	谷口 和良						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	学校・保育・子育て支援現場での実地学習を行う						
授業の概要	保育所・幼稚園・小学校・特別支援学校など、保育・教育の現場を訪問し、その実際について見学を通して理解する。						
到達目標	①乳幼児・児童期の子どもの育ちと教育について理解する ②乳幼児・児童を援助するための期保育・教育の実際について学ぶ ③授業全体を通じて、教師や保育者の仕事について理解を深める。						
授業計画	小学校（代表：根津）、幼稚園（代表：春）、保育所（代表：吉田）、特別支援学校（代表：谷口）を中心に、見学と実地体験を行う。具体的な訪問順、および訪問先は授業開始までに確定する。 第1回 オリエンテーション：授業の進め方・レポートに関する説明（大下・大石・内田）、訪問上の注意（根津、春、吉田、谷口） 第2回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第3回 現場見学と実地体験（1）：引率（全教員） 第4回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第5回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第6回 現場見学と実地体験（2）：引率（全教員） 第7回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第8回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第9回 現場見学と実地体験（3）：引率（全教員） 第10回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第11回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第12回 現場見学と実地体験（4）：引率（全教員） 第13回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第14回 全体に関するディスカッション（全教員） 第15回 まとめ（全教員）						
授業外における学習（準備学習の内容）	見学実習・レポート作成						
授業方法	講義およびグループディスカッション						
評価基準と評価方法	実習への参加＋レポート提出、総括レポート 計5回						
教科書	特に指定しない。						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達実習						
担当教員	根津 隆男						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	学校・保育・子育て支援現場での実地学習を行う						
授業の概要	保育所・幼稚園・小学校・特別支援学校など、保育・教育の現場を訪問し、その実際について見学を通して理解する。						
到達目標	①乳幼児・児童期の子どもの育ちと教育について理解する ②乳幼児・児童を援助するための期保育・教育の実際について学ぶ ③授業全体を通じて、教師や保育者の仕事について理解を深める。						
授業計画	小学校（代表：根津）、幼稚園（代表：春）、保育所（代表：吉田）、特別支援学校（代表：谷口）を中心に、見学と実地体験を行う。具体的な訪問順、および訪問先は授業開始までに確定する。 第1回 オリエンテーション：授業の進め方・レポートに関する説明（大下・大石・内田）、訪問上の注意（根津、春、吉田、谷口） 第2回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第3回 現場見学と実地体験（1）：引率（全教員） 第4回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第5回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第6回 現場見学と実施体験（2）：引率（全教員） 第7回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第8回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第9回 現場見学と実施体験（3）：引率（全教員） 第10回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第11回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第12回 現場見学と実地体験（4）：引率（全教員） 第13回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第14回 全体に関するディスカッション（全教員） 第15回 まとめ（全教員）						
授業外における学習（準備学習の内容）	見学実習・レポート作成						
授業方法	講義およびグループディスカッション						
評価基準と評価方法	実習への参加＋レポート提出、総括レポート 計5回						
教科書	特に指定しない。						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達実習						
担当教員	根津 隆男						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	学校・保育・子育て支援現場での実地学習を行う						
授業の概要	保育所・幼稚園・小学校・特別支援学校など、保育・教育の現場を訪問し、その実際について見学を通して理解する。						
到達目標	①乳幼児・児童期の子どもの育ちと教育について理解する ②乳幼児・児童を援助するための期保育・教育の実際について学ぶ ③授業全体を通じて、教師や保育者の仕事について理解を深める。						
授業計画	小学校（代表：根津）、幼稚園（代表：春）、保育所（代表：吉田）、特別支援学校（代表：谷口）を中心に、見学と実地体験を行う。具体的な訪問順、および訪問先は授業開始までに確定する。 第1回 オリエンテーション：授業の進め方・レポートに関する説明（大下・大石・内田）、訪問上の注意（根津、春、吉田、谷口） 第2回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第3回 現場見学と実地体験（1）：引率（全教員） 第4回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第5回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第6回 現場見学と実地体験（2）：引率（全教員） 第7回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第8回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第9回 現場見学と実地体験（3）：引率（全教員） 第10回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第11回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第12回 現場見学と実地体験（4）：引率（全教員） 第13回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第14回 全体に関するディスカッション（全教員） 第15回 まとめ（全教員）						
授業外における学習（準備学習の内容）	見学実習・レポート作成						
授業方法	講義およびグループディスカッション						
評価基準と評価方法	実習への参加＋レポート提出、総括レポート 計5回						
教科書	特に指定しない。						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達実習						
担当教員	春 豊子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	学校・保育・子育て支援現場での実地学習を行う						
授業の概要	保育所・幼稚園・小学校・特別支援学校など、保育・教育の現場を訪問し、その実際について見学を通して理解する。						
到達目標	①乳幼児・児童期の子どもの育ちと教育について理解する ②乳幼児・児童を援助するための期保育・教育の実際について学ぶ ③授業全体を通じて、教師や保育者の仕事について理解を深める。						
授業計画	小学校（代表：根津）、幼稚園（代表：春）、保育所（代表：吉田）、特別支援学校（代表：谷口）を中心に、見学と実地体験を行う。具体的な訪問順、および訪問先は授業開始までに確定する。 第1回 オリエンテーション：授業の進め方・レポートに関する説明（大下・大石・内田）、訪問上の注意（根津、春、吉田、谷口） 第2回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第3回 現場見学と実地体験（1）：引率（全教員） 第4回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第5回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第6回 現場見学と実地体験（2）：引率（全教員） 第7回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第8回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第9回 現場見学と実地体験（3）：引率（全教員） 第10回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第11回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第12回 現場見学と実地体験（4）：引率（全教員） 第13回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第14回 全体に関するディスカッション（全教員） 第15回 まとめ（全教員）						
授業外における学習（準備学習の内容）	見学実習・レポート作成						
授業方法	講義およびグループディスカッション						
評価基準と評価方法	実習への参加＋レポート提出、総括レポート 計5回						
教科書	特に指定しない。						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達実習						
担当教員	春 豊子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	学校・保育・子育て支援現場での実地学習を行う						
授業の概要	保育所・幼稚園・小学校・特別支援学校など、保育・教育の現場を訪問し、その実際について見学を通して理解する。						
到達目標	①乳幼児・児童期の子どもの育ちと教育について理解する ②乳幼児・児童を援助するための期保育・教育の実際について学ぶ ③授業全体を通じて、教師や保育者の仕事について理解を深める。						
授業計画	小学校（代表：根津）、幼稚園（代表：春）、保育所（代表：吉田）、特別支援学校（代表：谷口）を中心に、見学と実地体験を行う。具体的な訪問順、および訪問先は授業開始までに確定する。 第1回 オリエンテーション：授業の進め方・レポートに関する説明（大下・大石・内田）、訪問上の注意（根津、春、吉田、谷口） 第2回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第3回 現場見学と実地体験（1）：引率（全教員） 第4回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第5回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第6回 現場見学と実地体験（2）：引率（全教員） 第7回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第8回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第9回 現場見学と実地体験（3）：引率（全教員） 第10回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第11回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第12回 現場見学と実地体験（4）：引率（全教員） 第13回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第14回 全体に関するディスカッション（全教員） 第15回 まとめ（全教員）						
授業外における学習（準備学習の内容）	見学実習・レポート作成						
授業方法	講義およびグループディスカッション						
評価基準と評価方法	実習への参加＋レポート提出、総括レポート 計5回						
教科書	特に指定しない。						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達実習						
担当教員	吉田 直哉						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	学校・保育・子育て支援現場での実地学習を行う						
授業の概要	保育所・幼稚園・小学校・特別支援学校など、保育・教育の現場を訪問し、その実際について見学を通して理解する。						
到達目標	①乳幼児・児童期の子どもの育ちと教育について理解する ②乳幼児・児童を援助するための期保育・教育の実際について学ぶ ③授業全体を通じて、教師や保育者の仕事について理解を深める。						
授業計画	小学校（代表：根津）、幼稚園（代表：春）、保育所（代表：吉田）、特別支援学校（代表：谷口）を中心に、見学と実地体験を行う。具体的な訪問順、および訪問先は授業開始までに確定する。 第1回 オリエンテーション：授業の進め方・レポートに関する説明（大下・大石・内田）、訪問上の注意（根津、春、吉田、谷口） 第2回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第3回 現場見学と実地体験（1）：引率（全教員） 第4回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第5回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第6回 現場見学と実地体験（2）：引率（全教員） 第7回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第8回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第9回 現場見学と実地体験（3）：引率（全教員） 第10回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第11回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第12回 現場見学と実地体験（4）：引率（全教員） 第13回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第14回 全体に関するディスカッション（全教員） 第15回 まとめ（全教員）						
授業外における学習（準備学習の内容）	見学実習・レポート作成						
授業方法	講義およびグループディスカッション						
評価基準と評価方法	実習への参加＋レポート提出、総括レポート 計5回						
教科書	特に指定しない。						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども発達実習						
担当教員	吉田 直哉						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	学校・保育・子育て支援現場での実地学習を行う						
授業の概要	保育所・幼稚園・小学校・特別支援学校など、保育・教育の現場を訪問し、その実際について見学を通して理解する。						
到達目標	①乳幼児・児童期の子どもの育ちと教育について理解する ②乳幼児・児童を援助するための期保育・教育の実際について学ぶ ③授業全体を通じて、教師や保育者の仕事について理解を深める。						
授業計画	小学校（代表：根津）、幼稚園（代表：春）、保育所（代表：吉田）、特別支援学校（代表：谷口）を中心に、見学と実地体験を行う。具体的な訪問順、および訪問先は授業開始までに確定する。 第1回 オリエンテーション：授業の進め方・レポートに関する説明（大下・大石・内田）、訪問上の注意（根津、春、吉田、谷口） 第2回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第3回 現場見学と実地体験（1）：引率（全教員） 第4回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第5回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第6回 現場見学と実地体験（2）：引率（全教員） 第7回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第8回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第9回 現場見学と実地体験（3）：引率（全教員） 第10回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第11回 事前指導（根津、春、吉田、谷口）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第12回 現場見学と実地体験（4）：引率（全教員） 第13回 事後指導（根津、春、吉田、谷口）とレポート作成（大下・大石・内田） 第14回 全体に関するディスカッション（全教員） 第15回 まとめ（全教員）						
授業外における学習（準備学習の内容）	見学実習・レポート作成						
授業方法	講義およびグループディスカッション						
評価基準と評価方法	実習への参加＋レポート提出、総括レポート 計5回						
教科書	特に指定しない。						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子ども文化論						
担当教員	奥 美佐子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「創造」を演習しむ						
授業の概要	子ども文化の一つとして、紙芝居や人形劇は子どもたちに魅力ある環境を創造するものである。紙芝居は小さな劇場として物語を提供し、人形劇は子どもたちは命を吹き込まれた人形に心を開き、人形との応答を通して自己を表現したりする。紙芝居では個々の表現を、人形劇では教育的効果を踏まえて保育・教育に役立つように、人形制作、演出、上演、相互評価を行う。また、人形劇作成のプロセスを通じてグループワークによる学生のコミュニケーション能力や表現力の育成を目指す。						
到達目標	以下を到達目標とします。 ・絵本、紙芝居、人形劇の教育的効果を解説することができる。 ・絵本を基に人形劇の台本を作り、グループで人形劇を上演することができる。 ・自己評価、相互評価票を作成して、課題を具体的に述べるができる。						
授業計画	第1回 子ども文化論の概要 子ども文化と保育 第2回 ○紙芝居と出会う 紙芝居を創る：ストーリー展開を考える 紙芝居を創る：制作 第3回 紙芝居を演じる：舞台を使って演じる 第4回 ○人形劇を創る 人形劇の発生と歴史、物語ることについて 絵本から台本を創る 人形劇鑑賞と人形劇の基本の講義（人形劇団アニモさんの人形劇を鑑賞） 第5回 人形劇を創る：人形劇の構想 第6回 人形劇を創る：物語、話の展開と場面の絵コンテ、人形のデザイン 第7回 人形劇を創る：人形作成 第8回 人形劇を創る：人形作成 第9回 人形劇を創る：音声・背景などの製作 第10回 人形劇を創る：順次リハーサル 第11回 上演：前半グループの上演 第12回 上演：後半グループの上演 第13回 ○まとめと相互評価 第14回 第15回						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：グループごとの話し合いを十分にし、必要な材料・用具の準備すること。 授業後学習：全体の計画と照らしながら上演に向かって進めること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	紙芝居の制作と実演40%、台本作成・上演60%、参加の姿勢等平常点を加味して評価する。						
教科書	使用しない。適宜プリントを配布する。						
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	算数科研究						
担当教員	大下 卓司						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	算数の楽しさを自ら体験する						
授業の概要	日常生活で用いる算数の基礎的事項を再確認する。それを土台に数の不思議さや面白さ、図形の美しさ、学習内容の系統性や移行の内容などを、数と計算・量と測定・図形・数量関係の4領域から考察し、理解していく。						
到達目標	算数の基本的な内容を理解するとともに、算数の研究手法や楽しさを体得する。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業内容説明。算数科の目標・内容。家計の算数 第2回 数を楽しむ（1） ことばと演算（加減乗除）について議論する。身の回りの算数 第3回 数を楽しむ（2） 数と量の関係について理解する。％とは何か。 第4回 数を楽しむ（3） 分数の加法・減法について議論する。 第5回 数を楽しむ（3） 分数の乗法、除法について議論する。 第6回 量と測定（1） 式と単位の関係を理解する。 第7回 量と測定（2） 台形や複合図形の面積の求め方を考える。 第8回 量と測定（3） 単位量あたりの大きさについて議論する。 第9回 図形（1） 合同な図形や対称な図形等の理解を深め、様々な三角形・四角形の関係を知る。 第10回 図形（2） 図形の意味や性質について理解する。作図や制作を行う 第11回 数量関係（1） 二つの数量の変わり方を調べて問題解決を図る。 第12回 数量関係（2） 起こり得る場合を順序よく整理して調べる。 第13回 数量関係（3） 密度や速度の意味について議論する。 第14回 幼稚園児の遊びと算数の関係（4領域や算数的活動）を考える。 第15回 試験と授業全体の振り返り						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業までに教科書を読み、関心・意欲を持って授業にのぞんでください。 授業後学習：学んだことをもう一度簡単に整理し、要点をまとめてください。 復習のつもりで教科書を読んでもと理解が深まります。						
授業方法	講義やグループでのディスカッション						
評価基準と評価方法	試験50％、出席および各授業の課題50％						
教科書	小学校学習指導要領解説 算数編 文部科学省 東洋館出版社						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	算数科指導法						
担当教員	大下 卓司						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	楽しく、学習を促進する算数の授業を創る						
授業の概要	現行の算数科教科書から選んだ内容について、指導案を作成し、グループで模擬授業を行い検討していく。また、授業のビデオを見て、授業のあり方や問題点等を検討し、楽しい授業づくりに生かしていく。						
到達目標	算数好きで、生き生きとした児童を育成するための指導が行われている。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業概要の説明。算数を学ぶ意味について議論する。 第2回 算数科の指導案の書き方とポイントについて考える。 第3回 評価と学力調査をもとに分かる授業を考える。 第4回 問題解決の授業を目指した教材開発を行う。 第5回 授業のビデオを見て、算数の授業の特徴をつかむ。 第6回 授業プラン作成（1） グループごとに教材研究を行い、指導案の単元計画を立てる。 第7回 授業プラン作成（2） グループごとに模擬授業で行う本時の展開と板書計画を立てる。 第8回 授業プラン作成（3） グループごとに指導案を完成させ、検討会を行う。 第9回 模擬授業（1） グループごとに模擬授業を実施し、簡単な事後検討会を行う。 第10回 模擬授業（2） グループごとに模擬授業を実施し、簡単な事後検討会を行う。 第11回 模擬授業（3） グループごとに模擬授業を実施し、簡単な事後検討会を行う。 第12回 模擬授業の振り返り：模擬授業の中の数例を取り上げ再構成に向け議論する。 第13回 学力調査やテストの事例をもとに、各単元の学習内容を評価する際の考え方や方法を理解する。 第14回 授業プランを再構成する。グループごとに授業プランを練り直し、単元末の評価を計画する。 第15回 まとめ：講義全体を振り返るとともに模擬授業ではとらえられていない単元について学ぶ。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って、該当する箇所を考えてください。 授業後学習：教材、発問、板書等が適切であったか考察してください。						
授業方法	講義、演習、グループや全体でのディスカッション。						
評価基準と評価方法	意欲 発表および授業毎の課題 20% 知識 指導案 60% 適正 模擬授業 20%						
教科書	小学校学習指導要領解説 算数編 文部科学省 東洋館出版社						
参考書	「活用力・思考力・表現力を育てる 365日の算数学習指導案」清水廣監修 明治図書						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	社会科研究						
担当教員	根津 隆男						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「小学校社会科教育の在り方を追求する」						
授業の概要	現在に至るまでの社会科教育史を概観し、社会科成立の趣旨を理解し、小学校の社会科教育は、公民的資質の基礎を養うことを究極の目標にしていることについて理解を深める。その上で、学習指導要領に基づいて指導計画を作成し、授業を展開する。そのためには、社会科の目標と内容から、子どもたちにに何を理解させ、どのような指導をしたらよいのか、年間の指導計画を作成することによって、社会科の総合的理解を図る。						
到達目標	小学校社会の成立と変遷を知り、小学校社会科教育の内容についての総合的な理解を目指す。						
授業計画	第1回：オリエンテーション：社会科好きになるために 第2回：社会科誕生まで：小学校社会科の誕生 第3回：社会科教育の変遷①：小学校社会科の変遷 第4回：社会科教育の変遷②：学習指導要領の移り変わり 第5回：問題解決的な学習：経験主義と系統主義の融合 第6回：社会科の特質：全学年の目標と内容の理解 第7回：学習内容①：中学年の地域学習の内容と指導計画 第8回：学習内容②：産業学習の内容と指導計画 第9回：学習内容③：歴史学習の内容と指導計画 第10回：教科書の活用：学び方を学ぶ教科書の活用 第11回：現場学習：現場での驚きと疑問を「学習問題」へ 第12回：社会科における言語活動：体験を定着させる言語活動 第13回：社会科の評価：指導計画と評価計画 第14回：模擬授業①：地域に根差したカリキュラム 第15回：模擬授業②：教材観と児童観、どのように教えどのように学ぶ3のか						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞・テレビ等の情報機関より、世の中の動きを捉えておく。						
授業方法	講義・演習						
評価基準と評価方法	平常点（授業への参加度、提出物） 40％ 演習点（指導計画・指導案作成） 30％ テスト点（公民的資質を身につける社会科になっているか） 30％						
教科書	テキスト 小学校学習指導要領解説 社会編（平成20年8月） 文部科学省						
参考書	・評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 国立教育政策研究所教育課程研究センター著						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	社会科指導法						
担当教員	根津 隆男						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	「楽しく学べる社会科学学習のあり方を追求する」						
授業の概要	社会科を得意とする子供は多い、しかし社会科を苦手とする子供も少なくない。社会科はそれほど好き嫌いが極端な教科である。教師の中にも社会科の指導を苦手としているものが少なくない。それは社会が嫌いというよりは地域の特性などで教科書をそのままを使うことができないことなど、社会科の授業の進め方が分からないということに起因していると考えられる。そこで、覚えたり調べたりするだけの学習ではなく、驚きと疑問を解決していく「楽しく学べる社会学習」の指導法を、実際の模擬授業を通して目標に迫っていく。						
到達目標	「楽しい社会科授業づくり」の理論を構築し、子どもたちが満足して学習を終える授業づくりを、学習指導を案を作成したり、模擬授業を試みたりする体験的・実践的な学びを進める。						
授業計画	第1回：オリエンテーション：「社会科が好き」な子どもたちを目指して 第2回：小学校社会科の特性：社会科は何を教える教科か 第3回：学習指導要領：教育課程のよりどころとしての学習指導要領 第4回：社会科の目標と内容①：第3・4学年 第5回：社会科の目標と内容②：第5・6学年 第6回：地域学習、産業学習：身近な素材の教材化 第7回：歴史学習：人物中心の学習 第8回：社会から評価：目標に準拠した評価について考える 第9回：社会科「学習問題」の作成：子どもたちの驚きと疑問を「学習問題」に高める 第10回：教科書の活用を：「教科書で教える」か「教科書を教えるか」 第11回：社会科と協同学習：問題解決的学習と思考力・判断力・表現力を育てる協同学習 第12回：学習指導計画：資料活用・フィールドワークの仕方を精査する 第13回：学習指導案の作成：教材のねらいと子どもの活動案を結び付ける 第14回：模擬授業①：指導案と実際の授業のずれに気づく 第15回：模擬授業②：発問と板書						
授業外における学習（準備学習の内容）	小学校時代に使用した地図帳・教科書に目を通しておくこと						
授業方法	講義・演習						
評価基準と評価方法	平常点（授業への参加度・提出物） 30％ 演習（模擬授業・学習指導案） 40％ テスト点 30％ 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の三つの観点で行う。						
教科書	小学校学習指導要領解説社会編（平成20年8月） 文部科学省						
参考書	小学校社会科教師の専門性育成 教育出版 東京学芸大学社会科教育研究室編 授業実践ナビ 社会 文溪堂 安野功著						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	社会科指導法						
担当教員	根津 隆男						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	「楽しく学べる社会科学学習のあり方を追求する」						
授業の概要	社会科を得意とする子供は多い、しかし社会科を苦手とする子供も少なくない。社会科はそれほど好き嫌いが極端な教科である。教師の中にも社会科の指導を苦手としているものが少なくない。それは社会が嫌いというよりは地域の特性などで教科書をそのままを使うことができないことなど、社会科の授業の進め方が分からないということに起因していると考えられる。そこで、覚えたり調べたりするだけの学習ではなく、驚きと疑問を解決していく「楽しく学べる社会学習」の指導法を、実際の模擬授業を通して目標に迫っていく。						
到達目標	「楽しい社会科授業づくり」の理論を構築し、子どもたちが満足して学習を終える授業づくりを、学習指導を案を作成したり、模擬授業を試みたりする体験的・実践的な学びを進める。						
授業計画	第1回：オリエンテーション：「社会科が好き」な子どもたちを目指して 第2回：小学校社会科の特性：社会科は何を教える教科か 第3回：学習指導要領：教育課程のよりどころとしての学習指導要領 第4回：社会科の目標と内容①：第3・4学年 第5回：社会科の目標と内容②：第5・6学年 第6回：地域学習、産業学習：身近な素材の教材化 第7回：歴史学習：人物中心の学習 第8回：社会から評価：目標に準拠した評価について考える 第9回：社会科「学習問題」の作成：子どもたちの驚きと疑問を「学習問題」に高める 第10回：教科書の活用を：「教科書で教える」か「教科書を教えるか」 第11回：社会科と協同学習：問題解決的学習と思考力・判断力・表現力を育てる協同学習 第12回：学習指導計画：資料活用・フィールドワークの仕方を精査する 第13回：学習指導案の作成：教材のねらいと子どもの活動案を結び付ける 第14回：模擬授業①：指導案と実際の授業のずれに気づく 第15回：模擬授業②：発問と板書						
授業外における学習（準備学習の内容）	小学校時代に使用した地図帳・教科書に目を通しておくこと						
授業方法	講義・演習						
評価基準と評価方法	平常点（授業への参加度・提出物） 30％ 演習（模擬授業・学習指導案） 40％ テスト点 30％ 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の三つの観点で行う。						
教科書	小学校学習指導要領解説社会編（平成20年8月） 文部科学省						
参考書	小学校社会科教師の専門性育成 教育出版 東京学芸大学社会科教育研究室編 授業実践ナビ 社会 文溪堂 安野功著						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	社会的養護／養護原理						
担当教員	塚元 重範						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会的養護について理解を深める						
授業の概要	社会的養護の理念、制度、方法など基本的な内容について理解し、社会的養護の体系や施設養護の実際、役割を学ぶ。						
到達目標	社会的養護の現状と体系や制度及び社会的養護の課題等を理解し、保育者として必要な知識を身につける。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 社会的養護の理念 第2回：社会的養護の概念 第3回：社会的養護の歴史的変遷 第4回：児童家庭福祉の一分野としての社会的養護 第5回：児童の権利擁護と社会的養護 第6回：社会的養護の制度と法体系 第7回：家庭養護と施設養護 第8回：社会的養護の専門職・実施者 第9回：施設養護の基本原則 第10回：施設養護の実際 第11回：施設養護とソーシャルワーク 第12回：施設等運営管理の現状と課題 第13回：倫理の確立と被措置児童等の虐待防止 第14回：社会的養護と地域福祉の現状と課題 第15回：まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から社会的養護に関心を持ち、児童問題や児童福祉施設、里親などの新聞記事には目を通し、何が問題でどうあるべきかなどを自分なりに考えるようにしてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点 20％ 小レポート 30％ 試験 50％						
教科書	基本保育シリーズ6「社会的養護」 監修公益財団法人児童育成協会 編集：相澤 仁 林 浩康 中央法規 ISBN 978-4-8058-5206-4 C3036						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	社会的養護／養護原理						
担当教員	塚元 重範						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	社会的養護について理解を深める						
授業の概要	社会的養護の理念、制度、方法など基本的な内容について理解し、社会的養護の体系や施設養護の実際、役割を学ぶ。						
到達目標	社会的養護の現状と体系や制度及び社会的養護の課題等を理解し、保育者として必要な知識を身につける。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 社会的養護の理念 第2回：社会的養護の概念 第3回：社会的養護の歴史的変遷 第4回：児童家庭福祉の一分野としての社会的養護 第5回：児童の権利擁護と社会的養護 第6回：社会的養護の制度と法体系 第7回：家庭養護と施設養護 第8回：社会的養護の専門職・実施者 第9回：施設養護の基本原則 第10回：施設養護の実際 第11回：施設養護とソーシャルワーク 第12回：施設等運営管理の現状と課題 第13回：倫理の確立と被措置児童等の虐待防止 第14回：社会的養護と地域福祉の現状と課題 第15回：まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から社会的養護に関心を持ち、児童問題や児童福祉施設、里親などの新聞記事には目を通し、何が問題でどうあるべきかなどを自分なりに考えるようにしてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点 20％ 小レポート 30％ 試験 50％						
教科書	基本保育シリーズ6「社会的養護」 監修公益財団法人児童育成協会 編集：相澤 仁 林 浩康 中央法規 ISBN 978-4-8058-5206-4 C3036						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	社会福祉援助技術						
担当教員	塚元 重範						
学期	後期／2nd semester	曜日・時間	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会福祉援助技術の理論と実際						
授業の概要	社会福祉援助技術の意味や進め方、相談援助を行う上で必要な知識、技術を学びながら、相談援助者としての実践力を養う。						
到達目標	相談援助の基本的な知識、技術を習得する。 相談援助の実践力を養う。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：社会福祉援助技術とは 第3回：社会福祉援助技術の種類と内容 第4回：相談面接の基本1（面談と電話相談の留意点、事前準備） 第5回：相談面接の基本2（基本的態度） 第6回：相談面接の基本3（面接技法） 第7回：相談面接の実際（ロールプレイ） 第8回：自己覚知 第9回：他者理解 第10回：保育所・施設における保護者対応 第11回：相談援助の過程 第12回：地域援助技術と社会資源 第13回：児童虐待事例への対応 第14回：記録の目的と書き方 第15回：まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	相談援助の理論、原則をおさえたうえで、個々の事例の対応を考えるようにするため、絶えず、理論や原則を振り返るようにしてください。						
授業方法	講義、グループ討議、演習						
評価基準と評価方法	平常点 20％ 小レポート 30％ 試験 50％						
教科書	適宜プリントを配布						
参考書	「演習・保育と相談援助」監修前田敏夫、編集佐藤伸隆・中西遍彦（株）みらい ISBN 978-4-86015-320-5						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	社会福祉援助技術						
担当教員	塚元 重範						
学期	後期／2nd semester	曜日・時間	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会福祉援助技術の理論と実際						
授業の概要	社会福祉援助技術の意味や進め方、相談援助を行う上で必要な知識、技術を学びながら、相談援助者としての実践力を養う。						
到達目標	相談援助の基本的な知識、技術を習得する。 相談援助の実践力を養う。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：社会福祉援助技術とは 第3回：社会福祉援助技術の種類と内容 第4回：相談面接の基本1（面談と電話相談の留意点、事前準備） 第5回：相談面接の基本2（基本的態度） 第6回：相談面接の基本3（面接技法） 第7回：相談面接の実際（ロールプレイ） 第8回：自己覚知 第9回：他者理解 第10回：保育所・施設における保護者対応 第11回：相談援助の過程 第12回：地域援助技術と社会資源 第13回：児童虐待事例への対応 第14回：記録の目的と書き方 第15回：まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	相談援助の理論、原則をおさえたうえで、個々の事例の対応を考えるようにするため、絶えず、理論や原則を振り返るようにしてください。						
授業方法	講義、グループ討議、演習						
評価基準と評価方法	平常点 20％ 小レポート 30％ 試験 50％						
教科書	適宜プリントを配布						
参考書	「演習・保育と相談援助」監修前田敏夫、編集佐藤伸隆・中西遍彦（株）みらい ISBN 978-4-86015-320-5						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	小児体育／体育実技Ⅰ						
担当教員	倉 真智子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	児童期・幼児期の運動理解と指導						
授業の概要	幼児期は生涯にわたる心身の健康の基盤を培う重要な時期である。幼児期に遊びの中で十分体を動かし、諸機能の発達を促し、児童期へと繋げていくことが大切である。さらに遊びを通して認知的、情緒・社会的発達を相互に関連させながら発達していく。これらを理解し、それぞれの発達を踏まえ、適切な指導や援助ができる基礎的技術を習得する。						
到達目標	児童期・乳幼児期の運動遊びの重要性を理解し、発達に応じた指導や援助法を習得する。また、指導計画の細案を立案し指導できるようにする。						
授業計画	1 現在における学童期・幼児期の運動の問題点 2 幼児期における運動遊びの意義 3 細案の作成法 4 鬼ごっこ（3歳児） 5 鬼ごっこ（4・5歳児） 6 ボールを用いた遊び 7 ボール運動 8 縄を用いた遊び（3歳児） 9 縄を用いた遊び（4・5歳児） 10 フープを用いた遊び 11 フープを用いた遊びの展開 12 身近なものを利用した遊びの展開 13 マット、跳び箱遊び（3歳児） 14 器具を用いた運動遊び（4・5歳児） 15 まとめと振り返り						
授業外における学習（準備学習の内容）	小学校の体育と幼児期の遊びの相違を理解し、書物等で調べておくこと。						
授業方法	実技・演習						
評価基準と評価方法	平常点（50％） 指導計画細案・発表（30％） レポート（20％）						
教科書	「子どもが育つ運動遊び」みらい ISBN 978-4-86015-379-3						
参考書	「遊びの指導」 幼少年教育研究所 同文書院 「0～5歳児の運動遊び指導百科」前橋明 ひかりのくに 「どの子どものびる運動神経」白石豊・広瀬仁美 かもがわ出版						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	小児体育／体育実技Ⅰ						
担当教員	倉 真智子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	児童期・幼児期の運動理解と指導						
授業の概要	幼児期は生涯にわたる心身の健康の基盤を培う重要な時期である。幼児期に遊びの中で十分体を動かし、諸機能の発達を促し、児童期へと繋げていくことが大切である。さらに遊びを通して認知的、情緒・社会的発達を相互に関連させながら発達していく。これらを理解し、それぞれの発達を踏まえ、適切な指導や援助ができる基礎的技術を習得する。						
到達目標	児童期・乳幼児期の運動遊びの重要性を理解し、発達に応じた指導や援助法を習得する。また、指導計画の細案を立案し指導できるようにする。						
授業計画	1 現在における学童期・幼児期の運動の問題点 2 幼児期における運動遊びの意義 3 細案の作成法 4 鬼ごっこ（3歳児） 5 鬼ごっこ（4・5歳児） 6 ボールを用いた遊び 7 ボール運動 8 縄を用いた遊び（3歳児） 9 縄を用いた遊び（4・5歳児） 10 フープを用いた遊び 11 フープを用いた遊びの展開 12 身近なものを利用した遊びの展開 13 マット、跳び箱遊び（3歳児） 14 器具を用いた運動遊び（4・5歳児） 15 まとめと振り返り						
授業外における学習（準備学習の内容）	小学校の体育と幼児期の遊びの相違を理解し、書物等で調べておくこと。						
授業方法	実技・演習						
評価基準と評価方法	平常点（50％） 指導計画細案・発表（30％） レポート（20％）						
教科書	「子どもが育つ運動遊び」みらい ISBN 978-4-86015-379-3						
参考書	「遊びの指導」 幼少年教育研究所 同文書院 「0～5歳児の運動遊び指導百科」前橋明 ひかりのくに 「どの子どものびる運動神経」白石豊・広瀬仁美 かもがわ出版						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	小児保健A						
担当教員	美安 敬子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	小児は大人の縮小版ではなく、小児という特徴をもち、未熟な機能が発達・発育していくことである。その特徴を理解し、健やかな成長の促進への関わりを学ぶ						
授業の概要	小児の発達・発育とは一定の法則がある。その法則とはどのようなことなのか。身体・精神・情緒などの成長過程を知り、保育者としての役割を自覚できる。						
到達目標	小児を1人の尊厳をもつ人間として理解し、小児期の意味とその保持増進に向けて健康的な成長・発達を促進するための基礎的知識を学ぶ。また、小児の健康生活・成長・発達の促進者としての小児保健管理の基礎的能力を育成する。						
授業計画	第1回：第1章 子どもの健康と保健の意義① 健康の概念 第2回：第2章 子どもの健康と保健の意義② 小児保健統計 第3回：第2章 子どもの発育・発達①体の理解 身体発育とは 第4回：第2章 子どもの発育・発達②運動機能・精神機能の発達 第5回：第2章 子どもの発育・発達③生理機能・感覚器の発達 第6回：第3章 子どもの心の健康① 園生活とこころの健康 第7回：第3章 子どもの心の健康② 特別な配慮がいる子どもたち 第8回：第4章 子どもの食と栄養① 乳汁栄養 第9回：第4章 子どもの食と栄養② 離乳食 第10回：第4章 子どもの食と栄養③ 幼児食 第11回：第6章 子どもの事故① 子どもに多い事故 第12回：第6章 子どもの事故② 子どもに多いけが 第13回：第7章 子どもの保育環境① 望ましい保育環境 第14回：第7章 子どもの保育環境② 保育現場の安全対策 第15回：後期試験 試験解答開示と説明とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	なし						
授業方法	教科書持参必須！！！！（DVD・パソコンを使用した授業方法）						
評価基準と評価方法	期末テストで100%評価します。 *教科書必携・課題・授業態度は最大20%評価減点します						
教科書	これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅰ （必ず持参すること） 鈴木美枝子 創成者 2200円						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	小児保健B						
担当教員	美安 敬子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	小児は免疫機能や、全ての臓器機能が未熟なので、病気・怪我・事故に遭いやすく、急変、重症化しやすい。小児がかかりやすい疾患や手当て、早期発見・早期予防について学ぶ。						
授業の概要	発育・発達が目覚ましい子どもの特性を学び、罹患しやすい疾患の知識と事故の予防などの知識について学ぶ。また、家庭や地域との連携による保健活動を学ぶ						
到達目標	小児を1人の尊厳をもつ人間として理解し、小児期の意味とその保持増進に向けて健康的な成長・発達を促進するための基礎的知識を学ぶ。また、小児の健康生活・成長・発達の促進者としての小児保健管理の基礎的能力を育成する。						
授業計画	第1回：第5章 子どもの病気と保育① 健康状態の把握 第2回：第5章 子どもの病気と保育② 体調不良のときの対応 発熱・下痢・嘔吐・咳 第3回：第5章 子どもの病気と保育③ ウイルス感染症 第4回：第5章 子どもの病気と保育④ 細菌性感染症 第5回：第5章 子どもの病気と保育⑤ 耳・鼻・喉の感染症 第6回：第5章 子どもの病気と保育⑥ 胃腸の感染症・皮膚・眼・泌尿器の感染症 第7回：第5章 子どもの病気と保育⑦ アレルギー疾患 第8回：第5章 子どもの病気と保育⑧ アレルギーマーチ・アナフィラキシーショック 第9回：第5章 子どもの病気と保育⑨ 先天異常 第10回：第5章 子どもの病気と保育⑩ 感染症予防 定期接種・任意接種 第11回：第5章 子どもの病気と保育⑪ 感染症予防 予防接種時期・学校感染症 第12回：第5章 子どもの病気と保育⑫ 健康診断について 第13回：第8章 健やかな育ちのために① 職員の健康管理 第14回：第8章 健やかな育ちのために② 専門・地域の連携 第15回 後期試験 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	なし						
授業方法	DVDやPCのスライドを使用し授業を進めます。 教科書持参必須						
評価基準と評価方法	授業態度・課題・期末テストで100%評価します。 スマホ・携帯電話・私語・居眠り・授業中にふさわしくない行為不可【試験から最大20%減点して評価します。】						
教科書	これだけはおさえたい！ 保育者のための子どもの保健Ⅰ 創成者 2200円 鈴木美枝子						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	小児保健演習						
担当教員	寺村 ゆかの						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	乳幼児の「こころとからだの健康」を保持・増進するための具体的援助						
授業の概要	乳幼児の健康や保育に関する既習の知識を統合し、日常の養護の方法、すなわち「乳幼児の健やかな成長・発達を保障するために必要な援助技術」を学ぶ。さらに「病気や事故の予防と救急処置法」といった具体的技術については、演習を通して習得する。						
到達目標	1. 保育者に必要不可欠な役割のひとつである「乳幼児の健康を保持・増進する」ための専門的知識とその技術を確実に習得する 2. 保育をおこなう上での「安全・衛生管理」ができることに加え、そのための「環境構成」も考えられるようになる 3. 子どもの健全な成長・発達という観点から「子育て支援のあり方」を考えられるようになる						
授業計画	第1回 演習のオリエンテーション／私がイメージする「子ども」とは 第2回 子どもの発育・発達を知ろう① 第3回 子どもの発育・発達を知ろう② 身体発育の測定など 第4回 子どもの健康状態を知ろう① 体温・脈拍・呼吸など 第5回 子どもの健康状態を知ろう② 体温・脈拍・呼吸など 第6回 日常における養護の方法① 抱き方 おんぶなど 第7回 日常における養護の方法② 食事の与え方 口腔内の衛生 衣服の着せ方 排泄のさせ方など 第8回 日常における養護の方法③ 沐浴・入浴のさせ方 第9回 日常における養護の方法④ 寝かせ方 生活環境の整備 外出時のこころえなど 第10回 体調不良時の対応① 感染症、発熱時の対応 第11回 体調不良時の対応② 嘔吐・下痢・便秘の対応 第12回 体調不良時の対応③ 咳・鼻づまり・発疹時の対応 第13回 いざという時の応急処置① 急病時の応急処置 第14回 いざという時の応急処置② 傷害時の応急処置 第15回 授業全体のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	1. 子どもの健康に関する既習科目（前年度までの）の内容を復習しておく 2. 各回の授業内容に関連のある項目について、文献やマスメディア等を参考に事前学習をおこなう						
授業方法	講義と演習（実習）						
評価基準と評価方法	毎回授業中の後半に作成するミニレポート（演習記録）70% 小テスト 30%						
教科書	ISBN-10: 4787820516 ISBN-13: 978-4787820518 （監修）榊原洋一（執筆）小林美由紀（2013）『これならわかる！子どもの保健演習ノート 子育てパートナーが知っておきたいこと 改訂第2版』診断と治療社						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	小児保健演習						
担当教員	寺村 ゆかの						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	乳幼児の「こころとからだの健康」を保持・増進するための具体的援助						
授業の概要	乳幼児の健康や保育に関する既習の知識を統合し、日常の養護の方法、すなわち「乳幼児の健やかな成長・発達を保障するために必要な援助技術」を学ぶ。さらに「病気や事故の予防と救急処置法」といった具体的技術については、演習を通して習得する。						
到達目標	1. 保育者に必要不可欠な役割のひとつである「乳幼児の健康を保持・増進する」ための専門的知識とその技術を確実に習得する 2. 保育をおこなう上での「安全・衛生管理」ができることに加え、そのための「環境構成」も考えられるようになる 3. 子どもの健全な成長・発達という観点から「子育て支援のあり方」を考えられるようになる						
授業計画	第1回 演習のオリエンテーション／私がイメージする「子ども」とは 第2回 子どもの発育・発達を知ろう① 第3回 子どもの発育・発達を知ろう② 身体発育の測定など 第4回 子どもの健康状態を知ろう① 体温・脈拍・呼吸など 第5回 子どもの健康状態を知ろう② 体温・脈拍・呼吸など 第6回 日常における養護の方法① 抱き方 おんぶなど 第7回 日常における養護の方法② 食事の与え方 口腔内の衛生 衣服の着せ方 排泄のさせ方など 第8回 日常における養護の方法③ 沐浴・入浴のさせ方 第9回 日常における養護の方法④ 寝かせ方 生活環境の整備 外出時のこころえなど 第10回 体調不良時の対応① 感染症、発熱時の対応 第11回 体調不良時の対応② 嘔吐・下痢・便秘の対応 第12回 体調不良時の対応③ 咳・鼻づまり・発疹時の対応 第13回 いざという時の応急処置① 急病時の応急処置 第14回 いざという時の応急処置② 傷害時の応急処置 第15回 授業全体のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	1. 子どもの健康に関する既習科目（前年度までの）の内容を復習しておく 2. 各回の授業内容に関連のある項目について、文献やマスメディア等を参考に事前学習をおこなう						
授業方法	講義と演習（実習）						
評価基準と評価方法	毎回授業中の後半に作成するミニレポート（演習記録）70% 小テスト 30%						
教科書	ISBN-10: 4787820516 ISBN-13: 978-4787820518 （監修）榊原洋一（執筆）小林美由紀（2013）『これならわかる！子どもの保健演習ノート 子育てパートナーが知っておきたいこと 改訂第2版』診断と治療社						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	スポーツと健康						
担当教員	谷 めぐみ						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	スポーツ文化とアクティブライフの楽しみ方						
授業の概要	健康でアクティブな生活を送るために運動やスポーツが重要であることを認識し、個人のスポーツニーズや価値観に合わせた運動・スポーツの楽しみ方を、生涯にわたり実践するための知識とスキルを習得します。スポーツへのかかわり方は「する」だけでなく、現代の人々の生活にとって欠かすことのできない楽しみの一つであるスポーツを「みる」こと、大会やイベントを「ささえる」ことや興味や関心のあるスポーツについて「しらべる」ことも、大切な関わり方の一つです。授業では、現代社会におけるスポーツの価値を多角的に捉え、様々な楽しみ方や関わり方があることを講義と実技を通して学びます。						
到達目標	健康的な生活を送るために運動・スポーツの必要性があることを認識し、個人のスポーツニーズに合わせた運動・スポーツの楽しみ方を、生涯にわたり実践するための知識と実技により体験を通して技術を身につけることができるようになります。						
授業計画	第1回：ガイダンス、スポーツと健康について考える 第2回：コミュニケーションを図るゲーム〈ペタンク〉 第3回：ベースボール型のゲーム〈キックベース〉 第4回：ディスクを用いたゲーム〈アルティメット〉 第5回：ラケットゲーム〈テニス、バドミントン、または卓球〉 第6回：ラケットゲーム〈テニス、バドミントン、または卓球〉 第7回：道具を工夫したゲーム〈ユニホック〉 第8回：ライフステージと生涯スポーツ 第9回：国内外のスポーツイベント 第10回：スポーツボランティアとは 第11回：成人期以降のスポーツライフ 第12回：健康づくりと運動プログラム 第13回：生涯スポーツとヘルスプロモーション 第14回：障害者スポーツについて 第15回：まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って、講義の種目・内容について事前に調べてきてください。 授業後学習：授業で学んだことを整理し、理解が足りなかった箇所について、次の授業で質問と確認できるよう準備しておいてください。						
授業方法	実技・講義						
評価基準と評価方法	試験：60%、レポート：10%、平常点：30%、遅刻した場合は減点。 出席は毎回とり重視します。準備、片付け、積極的な参加態度を平常点の評価の対象とします。 欠席回数が5回以上の者は、原則失格とします。						
教科書	使用しない。必要に応じ、適宜資料を配布します。						
参考書	『スポーツ白書2014 -スポーツの使命と可能性-』、笹川スポーツ財団、ISBN 978-4-915944-55-0						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	図工科研究						
担当教員	奥 美佐子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	美術教育（造形表現・図画工作・美術）の意義について考える						
授業の概要	美術教育は保育所・幼稚園では造形表現、小学校では図画工作という名称になっている。この授業では美術教育を具体的なイメージを持って理解し、子どもの造形・図画工作の意味と意義について検証するために、美術教育の理念、美術教育史、学習指導要領、子どもの造形表現の発達と表現形式について基本的な知識を得るとともに、表現と鑑賞の関係、児童の理解と教師の役割について考えます。図画工作科の基本的な考えを、理論・事例研究・実技を通して学ぶ。						
到達目標	以下を到達目標とする。 ・美術教育の歴史や学習指導要領を説明することができる。 ・児童の美術表現の特質を図示し、事例を通じて解説することができる。 ・表現と鑑賞の関係を学び、児童の作品及び自分の作品を評価することができる。						
授業計画	第1回 子どもの表現と美的経験 第2回 図工科教育の理念と目標 第3回 美術教育の潮流(1)：美術教育の変遷 第4回 美術教育の潮流(2)：現代の潮流…美術教育史から見た課題 第5回 子どもの表現の事例研究(1)：造形表現の発達との関連を見る・低学年 第6回 子どもの表現の事例研究(2)：造形表現の発達との関連を見る・中、高学年 第7回 学習指導要領概説 第8回 子どもの活動の研究(1)：造形遊びの実践 第9回 子どもの活動の研究(2)：実践の考察と相互評価 第10回 図画工作科の指導計画 第11回 子どもの活動の研究(3)：絵や立体に表す実践 第12回 子どもの活動の研究(4)：実践の考察と相互評価 第13回 鑑賞教育(1)：事例を見る 第14回 鑑賞教育(2)：鑑賞と表現の関係について考える 第15回 図工科教育の課題と教師の役割：グループディスカッション及び講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って授業毎に必要な材料・用具の準備しておくこと。 授業後学習：レポートや課題を課すことがある。各回の内容を系統的にまとめておくこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	課題に取り組む姿勢及び活動に関わるレポート等の提出物50%、作品50%で評価します。						
教科書	藤江充他著『図画工作科指導法 理論と実践』日本文教出版 ISBN78-4-536-60020-0 小学校学習指導要領図画工作編						
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	図工科研究						
担当教員	奥 美佐子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	美術教育（造形表現・図画工作・美術）の意義について考える						
授業の概要	美術教育は保育所・幼稚園では造形表現、小学校では図画工作という名称になっている。この授業では美術教育を具体的なイメージを持って理解し、子どもの造形・図画工作の意味と意義について検証するために、美術教育の理念、美術教育史、学習指導要領、子どもの造形表現の発達と表現形式について基本的な知識を得るとともに、表現と鑑賞の関係、児童の理解と教師の役割について考えます。図画工作科の基本的な考えを、理論・事例研究・実技を通して学ぶ。						
到達目標	以下を到達目標とする。 ・美術教育の歴史や学習指導要領を説明することができる。 ・児童の美術表現の特質を図示し、事例を通じて解説することができる。 ・表現と鑑賞の関係を学び、児童の作品及び自分の作品を評価することができる。						
授業計画	第1回 子どもの表現と美的経験 第2回 図工科教育の理念と目標 第3回 美術教育の潮流(1)：美術教育の変遷 第4回 美術教育の潮流(2)：現代の潮流…美術教育史から見た課題 第5回 子どもの表現の事例研究(1)：造形表現の発達との関連を見る・低学年 第6回 子どもの表現の事例研究(2)：造形表現の発達との関連を見る・中、高学年 第7回 学習指導要領概説 第8回 子どもの活動の研究(1)：造形遊びの実践 第9回 子どもの活動の研究(2)：実践の考察と相互評価 第10回 図画工作科の指導計画 第11回 子どもの活動の研究(3)：絵や立体に表す実践 第12回 子どもの活動の研究(4)：実践の考察と相互評価 第13回 鑑賞教育(1)：事例を見る 第14回 鑑賞教育(2)：鑑賞と表現の関係について考える 第15回 図工科教育の課題と教師の役割：グループディスカッション及び講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って授業毎に必要な材料・用具の準備しておくこと。 授業後学習：レポートや課題を課すことがある。各回の内容を系統的にまとめておくこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	課題に取り組む姿勢及び活動に関わるレポート等の提出物50%、作品50%で評価する。						
教科書	藤江充他著『図画工作科指導法 理論と実践』日本文教出版 ISBN78-4-536-60020-0 小学校学習指導要領図画工作編						
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	図工科指導法						
担当教員	奥 美佐子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	「図画工作」の授業を構想し実践する						
授業の概要	柔軟な発想で児童の表現を捉えることができるように多様な授業場面や児童の表現に出会う環境を構成する。図画工作科の教育内容を理解し、図工科研究で学んだ図工科の基本理念を反映して、授業の計画立案、実施、評価を実践的に行う。指導案を作成しそれに基づいて制作した作品をプレゼンテーションすることを含めた模擬授業を行う。						
到達目標	以下を到達目標とする。 ・学習指導要領の目標と内容を解説することができる。 ・題材、材料・用具、表現方法などを対象に合わせて選択し、指導案を作成することができる。 ・作例を制作し、指導案に沿って模擬授業を行うことができる。						
授業計画	第1回 学習指導要領における教科の位置付け 第2回 学習指導案について 第3回 「楽しい造形活動・造形遊び」の指導と評価（1）：低学年～中学年の学年別目標を見据えて 第4回 「楽しい造形活動・造形遊び」の指導と評価（2）：高学年の学年別目標を見据えて 第5回 「絵に表す」の指導と評価（1）：中学年～高学年の学年別目標を見据えて（指導の実際：ゲストスピーカーの講義を中心に） 第6回 「絵に表す」の指導と評価（2）：低学年の学年別目標を見据えて 第7回 「立体に表す」の指導と評価 第8回 「つくりたいものをつくる」の指導と評価 第9回 「鑑賞」の指導と評価 第10回 教師の役割・個に応じた指導と評価 第11回 学生グループによる模擬授業（1）例：立体 第12回 学生グループによる模擬授業（2）：造形遊び 第13回 学生グループによる模擬授業（3）：絵画 第14回 学生グループによる模擬授業（4）：工作 第15回 相互評価及び講評と課題：これからの図画工作科						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って授業毎に必要な教材の準備をすること。 授業後学習：自分の学習内容だけでなく、他の受講生の成果や課題についても参考にして次回へ活かせるよう自主学習しておくこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	模擬授業関連の作品・活動に関わるレポート、発表、模擬授業等80%、日常の提出物、参加態度等20%で評価する。						
教科書	藤江充他著『図画工作科指導法 理論と実践』日本文教出版 ISBN78-4-536-60020-0 小学校学習指導要領図画工作編（図工科研究で使用したテキスト）						
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	図工科指導法						
担当教員	奥 美佐子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	「図画工作」の授業を構想し実践する						
授業の概要	柔軟な発想で児童の表現を捉えることができるように多様な授業場面や児童の表現に出会う環境を構成する。図画工作科の教育内容を理解し、図工科研究で学んだ図工科の基本理念を反映して、授業の計画立案、実施、評価を実践的に行う。指導案を作成しそれに基づいて制作した作品をプレゼンテーションすることを含めた模擬授業を行う。						
到達目標	以下を到達目標とする。 ・学習指導要領の目標と内容を解説することができる。 ・題材、材料・用具、表現方法などを対象に合わせて選択し、指導案を作成することができる。 ・作例を制作し、指導案に沿って模擬授業を行うことができる。						
授業計画	第1回 学習指導要領における教科の位置付け 第2回 学習指導案について 第3回 「楽しい造形活動・造形遊び」の指導と評価（1）：低学年～中学年の学年別目標を見据えて 第4回 「楽しい造形活動・造形遊び」の指導と評価（2）：高学年の学年別目標を見据えて 第5回 「絵に表す」の指導と評価（1）：中学年～高学年の学年別目標を見据えて（指導の実際：ゲストスピーカーの講義を中心に） 第6回 「絵に表す」の指導と評価（2）：低学年の学年別目標を見据えて 第7回 「立体に表す」の指導と評価 第8回 「つくりたいものをつくる」の指導と評価 第9回 「鑑賞」の指導と評価 第10回 教師の役割・個に応じた指導と評価 第11回 学生グループによる模擬授業（1）例：立体 第12回 学生グループによる模擬授業（2）：造形遊び 第13回 学生グループによる模擬授業（3）：絵画 第14回 学生グループによる模擬授業（4）：工作 第15回 相互評価及び講評と課題：これからの図画工作科						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って授業毎に必要な教材の準備をすること。 授業後学習：自分の学習内容だけでなく、他の受講生の成果や課題についても参考にして次回へ活かせるよう自主学習しておくこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	模擬授業関連の作品・活動に関わるレポート、発表、模擬授業等80%、日常の提出物、参加態度等20%で評価する。						
教科書	藤江充他著『図画工作科指導法 理論と実践』日本文教出版 ISBN78-4-536-60020-0 小学校学習指導要領図画工作編（図工科研究で使用了テキスト）						
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	図工実技Ⅰ						
担当教員	奥 美佐子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	美術を体感するⅠ（美術表現を体験する）						
授業の概要	子どもと表現する喜びを共有するためには、教師が子どもの造形を理解すると共に自らも造形する喜びの経験をもつことが大切である。この授業では自己表現の喜びを体感すること、教育現場で使われている材料研究を通して造形の基礎的な能力を培うことを目標とする。平面を中心として、多様な材料体験と造形理論による基礎基本の理解、造形操作や技法の習得と表現への展開法、幅広いメディアによるイメージ表現の試行、表現と鑑賞の関係について学び、造形能力を高める。						
到達目標	以下を到達目標とする。 ・造形用語を用いて作品を解説することができる。 ・表現技法の材料用具や方法をファイルに美しくまとめ、具体的な方法を解説できるとともに作品に応用できる。 ・非日常的な表現に挑戦することができる。						
授業計画	第1回 美術について：授業概要、評価の方法、表現と鑑賞の関係について 第2回 造形理論A 第3回 造形要素から描く（1）形を考える 第4回 造形要素から描く（2）色彩を選ぶ 第5回 造形要素から描く（3）鑑賞的観点から表現を見る 第6回 造形理論B 第7回 技法研究（1）：パス、コンテの遊び 第8回 技法研究（2）：絵の具の遊び 第9回 技法研究（3）：版遊び 第10回 技法研究（4）：いろいろな材料・用具で 第11回 技法研究（5）：技法のまとめ（ファイル作り） 第12回 材料・技法を生かした制作（1）：構想 第13回 材料・技法を生かした制作（2）：制作 第14回 材料・技法を生かした制作（3）：鑑賞 第15回 相互評価とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って授業毎に必要な材料・用具の準備をすること。材料用具は必携。 授業後学習：制作過程や作品制作のコンセプトを確認し、美術的行為を言語化できるように、自作を鑑賞しておくこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	受講態度及び作品レポート等20%、課題レポート及び課題作品の提出による評価80%で評価する。						
教科書	テキストは使用しない。プリントを適宜配布する。						
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	図工実技Ⅰ						
担当教員	奥 美佐子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	美術を体感するⅠ（美術表現を体験する）						
授業の概要	子どもと表現する喜びを共有するためには、教師が子どもの造形を理解すると共に自らも造形する喜びの経験をもつことが大切である。この授業では自己表現の喜びを体感すること、教育現場で使われている材料研究を通して造形の基礎的な能力を培うことを目標とする。平面を中心として、多様な材料体験と造形理論による基礎基本の理解、造形操作や技法の習得と表現への展開法、幅広いメディアによるイメージ表現の試行、表現と鑑賞の関係について学び、造形能力を高める。						
到達目標	以下を到達目標とする。 ・造形用語を用いて作品を解説することができる。 ・表現技法の材料用具や方法をファイルに美しくまとめ、具体的な方法を解説できるとともに作品に応用できる。 ・非日常的な表現に挑戦することができる。						
授業計画	第1回 美術について：授業概要、評価の方法、表現と鑑賞の関係について 第2回 造形理論A 第3回 造形要素から描く（1）形を考える 第4回 造形要素から描く（2）色彩を選ぶ 第5回 造形要素から描く（3）鑑賞的観点から表現を見る 第6回 造形理論B 第7回 技法研究（1）：パス、コンテの遊び 第8回 技法研究（2）：絵の具の遊び 第9回 技法研究（3）：版遊び 第10回 技法研究（4）：いろいろな材料・用具で 第11回 技法研究（5）：技法のまとめ（ファイル作り） 第12回 材料・技法を生かした制作（1）：構想 第13回 材料・技法を生かした制作（2）：制作 第14回 材料・技法を生かした制作（3）：鑑賞 第15回 相互評価とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って授業毎に必要な材料・用具の準備をすること。材料用具は必携。 授業後学習：制作過程や作品制作のコンセプトを確認し、美術的行為を言語化できるように、自作を鑑賞しておくこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	受講態度及び作品レポート等20%、課題レポート及び課題作品の提出による評価80%で評価する。						
教科書	テキストは使用しない。プリントを適宜配布する。						
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	図工実技Ⅱ						
担当教員	奥 美佐子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	美術を体感するⅡ（表現の展開に挑む）						
授業の概要	新規の表現方法に向かい表現技術を高め、制作過程および完成作品を相互評価することを通して、表現、鑑賞、評価の力を養う。図工科実技Ⅱでは、自分が表現したい内容に沿ってメディアを選択し、造形要素からの表現、コラージュ、版表現、立体や半立体による制作など、新たな表現技術により自己表現を深める課題、ダイナミックな課題へ挑戦する。自己評価を通じて、作品の分析力を培う。						
到達目標	以下を到達目標とする。 ・新しい表現技術を使って作品を制作することができる。 ・自分のイメージに沿って材料を選択し、造形作品として具体化することができる。 ・造形言語を使って自分の作品を言語化できる。						
授業計画	第1回 材料と表現について：授業概要、評価の方法の説明を含む 第2回 紙の立体：ペーパークラフト(1)：基本形、紙の操作 第3回 ：ペーパークラフト(2)：ポップアップのしくみを知る 第4回 ：ペーパークラフト(3)：ポップアップカード制作 第5回 ：ペーパークラフト(4)：ポップアップカード制作・完成 第6回 立体：発砲球(1)：動く原理 第7回 ：発砲球(2)：デザイン 第8回 ：発砲球(3)：評価 第9回 版：版画(1)：版による表現 第10回 ：版画(2)：制作及び刷り 第11回 ：版画(3)：刷り及び評価 第12回 自由制作・課題制作（選択）(1) 構想および制作 第13回 (2) 制作 第14回 (3) 完成・展示 第15回 合評会とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	業前学習：授業計画及び制作の展開に沿って、授業毎に必要な材料・用具の準備すること。 授業後学習：制作過程や作品制作のコンセプトを確認し、美術的行為を言語化できるように、自作を鑑賞しておくこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	表現履歴等の提出による評価20%、課題レポート及び課題作品の提出による評価80%。						
教科書	テキストは使用しない。プリントを適宜配布する。						
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	図工実技Ⅱ						
担当教員	奥 美佐子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	美術を体感するⅡ（表現の展開に挑む）						
授業の概要	新規の表現方法に向かい表現技術を高め、制作過程および完成作品を相互評価することを通して、表現、鑑賞、評価の力を養う。図工科実技Ⅱでは、自分が表現したい内容に沿ってメディアを選択し、造形要素からの表現、コラージュ、版表現、立体や半立体による制作など、新たな表現技術により自己表現を深める課題、ダイナミックな課題へ挑戦する。自己評価を通じて、作品の分析力を培う。						
到達目標	以下を到達目標とする。 ・新しい表現技術を使って作品を制作することができる。 ・自分のイメージに沿って材料を選択し、造形作品として具体化することができる。 ・造形言語を使って自分の作品を言語化できる。						
授業計画	第1回 材料と表現について：授業概要、評価の方法の説明を含む 第2回 紙の立体：ペーパークラフト(1)：基本形、紙の操作 第3回 ：ペーパークラフト(2)：ポップアップのしくみを知る 第4回 ：ペーパークラフト(3)：ポップアップカード制作 第5回 ：ペーパークラフト(4)：ポップアップカード制作・完成 第6回 立体：発砲球(1)：動く原理 第7回 ：発砲球(2)：デザイン 第8回 ：発砲球(3)：評価 第9回 版：版画(1)：版による表現 第10回 ：版画(2)：制作及び刷り 第11回 ：版画(3)：刷り及び評価 第12回 自由制作・課題制作（選択）(1) 構想および制作 第13回 (2) 制作 第14回 (3) 完成・展示 第15回 合評会とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	業前学習：授業計画及び制作の展開に沿って、授業毎に必要な材料・用具の準備すること。 授業後学習：制作過程や作品制作のコンセプトを確認し、美術的行為を言語化できるように、自作を鑑賞しておくこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	表現履歴等の提出による評価20%、課題レポート及び課題作品の提出による評価80%。						
教科書	テキストは使用しない。プリントを適宜配布する。						
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	生活科研究						
担当教員	谷口 和良						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生活科の創設の背景や意図、ねらい及び歴史的な変遷について						
授業の概要	小学校に入学した子どもたちの小1プロブレムのことが問われています。本来は、この問題・課題を解決するために生活科が創設されています。また、生活科のような学習が、歴史的に何度か行われており、それらを学びながら、保育所・幼稚園での保育・教育と小学校低学年教育との連携につながり、スムーズに小学校への移行が図られるように、小学校入門期の第1、2学年における生活科教育のあり方やカリキュラム構成のあり方などを学んでいきます。						
到達目標	生活科の趣旨やねらい、特徴並びに児童中心主義的な教育の歴史的な変遷や在り方などについて理解するとともに、生活科の授業観・学習観を考えことができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業概要とアイス・ブレイキング 第2回 生活科学習の想起と特徴 第3回 生活科の基礎研究としての大正自由主義教育 第4回 生活科の基礎研究としてのコア・カリキュラム 第5回 戦後の教育の主な流れ：学習指導要領の変遷 第6回 生活科の創設：その背景や意図、ねらい 第7回 生活科の特徴：教科学習、合科的な学習、総合的な学習との違い 第8回 生活科の目的や目標：低学年期の望ましい教育や学習、生活科教育目標 第9回 生活科の内容：第1、2学年における内容構成・留意事項 第10回 生活科の学習：具体的な学習の流れ及び学習の実際 第11回 生活科における教師の役割：指導と支援の違い、学習場面での教師の働きかけ 第12回 生活科のカリキュラム構成：単元や年間指導計画の作成 第13回 生活科における評価：カリキュラム、学習指導、子どもの変容 第14回 小学校第3学年以上への円滑な移行：社会科や理科、他教科等への移行 第15回 まとめ：望ましい生活科教育のあり方の総括及びレポート提出						
授業外における学習（準備学習の内容）	・ 授業前学習：授業計画にそって、前々回のワークシートや教科書の該当する箇所を読んでおいたり、授業内容に対して自分なりの考えをもったりして、興味・関心を高めておいてください ・ 授業後学習：授業でのワークシートを読み返し、要点をまとめたり覚えたりしておきましょう。毎時間の授業内容は連続しているので、授業内容に関連づけながら生活科の望ましい教育の在り方を膨らませていってください						
授業方法	生活科の創設の背景や意図、ねらい及び歴史的な変遷についての授業や文献研究、グループワークやディスカッション						
評価基準と評価方法	・ 平常点50％（授業やグループ発表での意欲・関心・態度、小テスト、授業のワークシートや意見・感想など） ・ 学期末のテストかレポート50％（望ましい生活科教育のあり方、講義を受けての感想など） ・ 意欲は授業への関心や態度、知識は授業での質問や小テスト、適正は授業中の言動や授業後の意見や感想、レポートなどから評価						
教科書	文部科学省 「小学校学習指導要領 生活編」 日本文教出版（平成20年）						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	生活科研究						
担当教員	谷口 和良						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生活科の創設の背景や意図、ねらい及び歴史的な変遷について						
授業の概要	小学校に入学した子どもたちの小1プロブレムのことが問われています。本来は、この問題・課題を解決するために生活科が創設されています。また、生活科のような学習が、歴史的に何度か行われており、それらを学びながら、保育所・幼稚園での保育・教育と小学校低学年教育との連携につながり、スムーズに小学校への移行が図られるように、小学校入門期の第1、2学年における生活科教育のあり方やカリキュラム構成のあり方などを学んでいきます。						
到達目標	生活科の趣旨やねらい、特徴並びに児童中心主義的な教育の歴史的な変遷や在り方などについて理解するとともに、自分なりに生活科の授業観・学習観をもつことができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業概要とアイス・ブレイキング 第2回 生活科学習の想起と特徴 第3回 生活科の基礎研究としての大正自由主義教育 第4回 生活科の基礎研究としてのコア・カリキュラム 第5回 戦後の教育の主な流れ：学習指導要領の変遷 第6回 生活科の創設：その背景や意図、ねらい 第7回 生活科の特徴：教科学習、合科的な学習、総合的な学習との違い 第8回 生活科の目的や目標：低学年期の望ましい教育や学習、生活科教育目標 第9回 生活科の内容：第1、2学年における内容構成・留意事項 第10回 生活科の学習：具体的な学習の流れ及び学習の実際 第11回 生活科における教師の役割：指導と支援の違い、学習場面での教師の働きかけ 第12回 生活科のカリキュラム構成：単元や年間指導計画の作成 第13回 生活科における評価：カリキュラム、学習指導、子どもの変容 第14回 小学校第3学年以上への円滑な移行：社会科や理科、他教科等への移行 第15回 まとめ：望ましい生活科教育のあり方の総括及びレポート提出						
授業外における学習（準備学習の内容）	・ 授業前学習：授業計画にそって、前々回のワークシートや教科書の該当する箇所を読んでおいたり、授業内容に対して自分なりの考えをもったりして、興味・関心を高めておいてください ・ 授業後学習：授業でのワークシートを読み返し、要点をまとめたり覚えたりしておきましょう。毎時間の授業内容は連続しているので、授業内容に関連づけながら生活科の望ましい教育の在り方を膨らませていってください						
授業方法	生活科の創設の背景や意図、ねらい及び歴史的な変遷についての授業や文献研究、グループワークやディスカッション						
評価基準と評価方法	・ 平常点50％（授業やグループ発表での意欲・関心・態度、小テスト、授業のワークシートや意見・感想など） ・ 学期末のテストかレポート50％（望ましい生活科教育のあり方、授業を受けての意見・感想など） ・ 意欲は授業への関心や態度、知識は授業での質問や小テスト、適正は授業中の言動や授業後の意見や感想、レポートなどから評価						
教科書	文部科学省 「小学校学習指導要領 生活編」 日本文教出版（平成20年）						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	生活科指導法						
担当教員	谷口 和良						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生活科における望ましい授業実践のあり方や方法の追求						
授業の概要	生活科の目標や内容、方法などから、他教科との違いや特徴を理解し、それらを生かした教材研究や学習指導案の作成及び模擬授業などを行う。そして、授業における学習形態や指導・支援のあり方並びに教師の働きかけなども学びながら、より望ましい生活科の授業構想や学習指導方法・技術を探究する。						
到達目標	生活科における具体的な教材研究を通して、生活科のカリキュラム構成や学習指導案の作成及び授業実践などの力を身につけることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業概要とアイス・ブレイキング、栽培物の決定 第2回 栽培の教材研究：実際の栽培活動（栽培方法や他の栽培物） 第3回 栽培活動における観察活動とその意義 第4回 九つの内容と一つ「動植物の飼育栽培」の目標と内容 第5回 「動植物の飼育栽培」活動における目標の具体化と他教科との比較 第5回 栽培活動の単元及び指導案作り：単元構成や指導案の形式及び作成 第6回 生活科学学習指導案の作成：単元目標や趣旨（児童観・教材観・指導観の作成） 第7回 略案の作成：本時の目標や学習活動及び教師の働きかけ 第8回 作成した略案による模擬授業：模擬授業の実施、それについての討議及び略案の修正 第9回 単元「秋を見つけよう」：秋のイメージマップづくりと単元構成 第10回 「落葉や木の実で遊ぼう」における造形活動の教材研究と略案の作成 第11回 他教科との合科的・関連的な学習に向けての教材研究と授業構想 第12回 他教科との合科・関連的な学習の指導案の作成 第13回 指導案に基づく模擬授業に向けての準備 第14回 模擬授業の実際と検討・修正 第15回 まとめ：望ましい生活科学学習及び教師の役割とレポート作成かテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画にそって、授業までに授業内容を予想し、自分の考えなどをもちながら当日の授業への興味・関心を高めるようにしてください。 授業後学習：授業内容は連続しているので、前回のワークシートを読み返ししながら要点をまとめたり、大切なことを覚えたりしましょう。そして、授業を積み重ねるごとに生活科授業実践力を高めていくようにすることが大切です。						
授業方法	基礎的・基本的な知識や技能の獲得に向けた授業、それらをもとに学習指導案の作成や教材研究及び模擬授業の実施などをグループや個人で行いながら、全体で発表し討議し合う。						
評価基準と評価方法	・平常点60％（毎時間のワークシートの内容、模擬授業やグループ発表の仕方や態度、作成した学習展開案や教材研究で製作した作品など） ・学期末レポート40％（望ましい生活科学学習に向けた単元構成や展開案、授業を受けての意見や感想をなど）						
教科書							
参考書	・文部科学省「小学校学習指導要領解説 生活編」日本文教出版（平成20年）						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	生徒指導論						
担当教員	武井 哲郎						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	生徒指導の在り方を検討する。						
授業の概要	いじめや不登校など子どもを取り巻く困難な状況について基礎的な知識を修得し、教職に就く者として問題への解決能力を高める。また、生徒指導上・進路指導上の課題に対して教師が担うべき役割を検討する。						
到達目標	・子どもの権利を擁護するための生徒指導の在り方について考察することができる。 ・虐待、不登校、いじめなどへの対応について、検討を加えることができる。 ・キャリア教育の実態や課題を、具体的に述べることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション—生徒指導とは何か？ 第2回 子どもの権利と生徒指導 第3回 子どもの権利擁護と教師の役割 第4回 虐待の種別と対応 第5回 不登校の要因とその実態 第6回 不登校への対応と教師の役割 第7回 不登校と子どもの居場所 第8回 いじめの定義と類型 第9回 いじめへの対応と教師の役割 第10回 懲戒と体罰 第11回 暴力行為への対応 第12回 校則の制定と運用 第13回 子どもの生き方と進路指導 第14回 キャリア教育の実態と課題 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	指定した教科書の内容を参考にしながら講義を進めていくため、適宜、講義中に指示する箇所に目を通しておくこと。						
授業方法	講義。グループ・ワークを適宜取り入れる。						
評価基準と評価方法	1. 授業参加度 30%（講義中にミニ・レポートを課すことで評価を行う。） 2. 中間レポート 30% 3. 期末試験 40% 以上で、評価する。						
教科書	坂田仰編著『生徒指導とスクール・コンプライアンス—法律・判例を理解し実践に活かす』学事出版、ISBN：978-4761921705						
参考書	黒川雅子・山田知代編著（2014）『生徒指導・進路指導』学事出版、ISBN：978-4761920579 文部科学省（2011）『生徒指導提要（平成22年3月）』教育図書、ISBN：978-4877302740						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	内田 祐貴						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	小学校で理科を自信を持って教えられるための、基礎知識基本技能を習得する。						
授業の概要	県や市町の教育委員会では理科を教えられる小学校の教員を求めている。今求められている教員像を念頭におきながら、学生一人ひとりにアピールできるものを一つでも多く身に付けてもらうため、教育全般にわたること、及び理科教育に関わることについての知識や技能を興味深く修得し、また具体的な調査研究をしながらその方法を身に付けることを内容とする。この3回生のゼミ内容を引き継いで更に内容を深め、理科への興味関心が高まる教材開発を目指す。						
到達目標	・小学校で理科の授業を行える知識技術を身に付ける。 ・指導案や必要に応じた教材を作成できる。 ・理科を楽しむ。						
授業計画	第01回 ガイダンス 第02回 5年生「植物の発芽、成長、結実」学習内容と実験 第03回 5年生「植物の発芽、成長、結実」模擬授業 第04回 5年生「流水の働き」学習内容と実験 第05回 学校外施設を利用した理科教育 第06回 5年生「流水の働き」模擬授業 第07回 6年生「燃焼の仕組み」学習内容と実験 第08回 6年生「燃焼の仕組み」模擬授業 第09回 6年生「水溶液の性質」学習内容と実験 第10回 6年生「水溶液の性質」模擬授業 第11回 6年生「てこの規則性」学習内容と実験 第12回 6年生「てこの規則性」模擬授業 第13回 研究テーマの設定（1） 第14回 研究テーマの設定（2） 第15回 中間まとめ 第16回 6年生「電気の利用」学習内容と実験 第17回 6年生「電気の利用」模擬授業 第18回 先行事例研究、輪読（1） 第19回 先行事例研究、輪読（2） 第20回 先行事例研究、輪読（3） 第21回 中間発表 第22回 教材開発（1） 第23回 教材開発（2） 第24回 教材開発（3） 第25回 教材開発（4） 第26回 教材開発（5） 第27回 発表、指導（1） 第28回 発表、指導（2） 第29回 発表、指導（3） 第30回 総括						
授業外における学習（準備学習の内容）	先行研究調査、文献検索、データ収集など卒業研究の準備						
授業方法	講義と発表、教材開発、授業案作成						
評価基準と評価方法	発表の成果を主資料(70)として取り組みの熱意等(30)を考慮する						
教科書							
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	大下 卓司						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜4	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	教育方法学の領域で、各学生がテーマを設定し、論文執筆に向けての作業を行う。						
授業の概要	1. 毎回の授業では、各学生が、自分のテーマの基本文献を素材にした発表や、論文の構想の発表を交代で行い、発表内容について学生全員で議論する。教員も議論に加わり、テーマの深め方や論文のまとめ方に関する指導を適宜行う。 2. 「卒業研究」の成果を論文にまとめるために、論文に書き方についても詳細に指導する。学期末には成果を発表する場を設け、学生による相互評価と教員による成績評価を行う。						
到達目標	1. 学生自身のよりよい保育・教育実践の糧となるような研究を行う。 2. 学術論文に必要な調査・思考を実際に体験し、学士としてふさわしい卒業論文を執筆する						
授業計画	第1回 オリエンテーションおよびレポートをコメントをつけて返却する。 第2回 3年生最終時に決めた卒業論文のテーマについてもう一度整理し発表する。 第3回 3年生最終時に決めた卒業論文のテーマについてもう一度整理し発表する。 第4回 3年生最終時に決めた卒業論文のテーマについてもう一度整理し発表する。 第5回 3年生最終時に決めた卒業論文のテーマについてもう一度整理し発表する。 第6回 テーマに関する先行研究、関連図書の収集・読解について指導する。 第7回 テーマに関する先行研究、関連図書の収集・読解について指導する。 第8回 テーマに関する先行研究、関連図書の収集・読解について指導する。 第9回 テーマに関する先行研究、関連図書の収集・読解について指導する。 第10回 テーマに関する先行研究、関連図書の収集・読解について指導する。 第11回 卒業論文の構想発表 第12回 卒業論文の構想発表 第13回 卒業論文の構想発表 第14回 卒業論文の構想発表 第15回 論文のまとめ方・書き方について指導する。 第16回 卒業論文の進捗報告 第17回 卒業論文の進捗報告 第18回 卒業論文の進捗報告 第19回 卒業論文の進捗報告 第20回 論文執筆と個別指導 第21回 論文執筆と個別指導 第22回 論文執筆と個別指導 第23回 論文執筆と個別指導 第24回 論文執筆と個別指導 第25回 卒業論文の初校の発表と検討 第26回 卒業論文の初校の発表と検討 第27回 卒業論文の初校の発表と検討 第28回 卒業論文の報告会と相互評価 第29回 卒業論文の報告会と相互評価 第30回 まとめ：研究成果を自分の進路にいかすか議論する						
授業外における学習（準備学習の内容）	1. 卒業論文執筆に向けて、各自図書館で文献を探すなど、自覚的に取り組むこと 2. 学年末には相互評価を行うため、批判的な読み方、作文指導の素養を、自らの研究の過程で習得するよう励むこと						
授業方法	1. 前半は、先行研究を整理し、各自のテーマにおける学術的な論点を模索する 2. 後半は、発見した論点について、様々な角度から迫る文献を読み、必要に応じてインタビューなどの手法を取り入れて、説得力のある文章を書き、論文を仕上げる。						
評価基準と評価方法	1. 平常点および発表：50点 2. 卒業論文：50点						
教科書							
参考書	各自のテーマに応じて、適宜アドバイスをを行う。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	奥 美佐子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜4	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	造形教育・美術教育の研究						
授業の概要	子どもの造形、美術教育にかかわる分野から設定した各自のテーマをもとに発表し、それに基づいた討論に補説を加えるという、学生主体の形式で進める。各自のテーマ、課題へのアプローチの仕方、研究内容、分析方法、探究度などについても具体的に検討する。自己のテーマを追求し、論文作成へと展開する中で、問題意識をもち、課題解決に向かう方法や分析力、プレゼンテーション力を身につける。						
到達目標	以下を到達目標とする。 ・テーマに沿って研究を進め、卒論を完成することができる。 ・シラバス、パワーポイントによる発表資料を作成し、プレゼンテーションすることができる。						
授業計画	第1回 卒論について：テーマ設定、論文作成法 第2回 研究計画作成 第3回 研究計画作成 第4回 計画に従って、文献研究、調査研究等開始 第5回 研究計画に基づく研究 第6回 研究計画に基づく研究 第7回 研究計画に基づく研究 第8回 報告会 第9回 研究計画に基づく研究 第10回 研究計画に基づく研究 第11回 研究計画に基づく研究 第12回 研究計画に基づく研究 第13回 中間発表準備 第14回 中間発表1 第15回 中間発表2 第16回 論文骨子の確認 第17回 論文作成 第18回 論文作成 第19回 論文作成 第20回 論文作成 第21回 論文作成 第22回 報告会 第23回 論文作成 第24回 論文作成 第25回 論文作成 第26回 発表準備 第27回 発表準備 第28回 卒論発表 第29回 卒論発表 第30回 卒論発表とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：発表などに備えて、十分に資料などを検討しておくこと。 授業後学習：検討した課題について要点をまとめ、疑問があれば次回に質問や提案ができるようにしておくこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点（参加態度等）20%、論文と発表80%で評価する。						
教科書	使用しない。						

参考書	必要に応じて紹介する。
-----	-------------

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	奥村 正子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	音楽教育について、自らの問題意識に沿って、卒業研究としてまとめる。						
授業の概要	それぞれの課題について、レポートの作成、発表、全員での討論を交えて授業を進める。						
到達目標	卒業研究をまとめる。 研究内容について、最終の発表会を開催する。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回～第7回 各自の研究を進める。個別指導を主とする。 第8回 レポート提出 第9回～第12回 発表と討論 第13回～第14回 個別指導。 第15回 レポート提出 第16回 経過報告 第17回～第26回 個別指導。全員での討論の時間を設ける。 第27回 卒業研究の仮提出 第28回 卒業研究の提出 第29回～第30回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	それぞれの研究を進める。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	課題への取り組み50% 中間発表20% 最終発表30% 卒業研究論文の提出は必須。						
教科書							
参考書	そのつど紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	倉 真智子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	子どもの健康分野についての論文作成						
授業の概要	子どもの健康教育を主とした内容で、「教育発達演習A・B」での学習をもとに、それぞれの研究テーマに沿って進めていく。 研究方法は調査研究、文献研究とし、先行研究を熟読したうえで卒業研究の作成に取り組む。 3年次の研究計画に基づき、計画的に進め、研究目的から結果が得られるよう完成させる。						
到達目標	文献を収集し、先行研究を熟読したうえで、それぞれのテーマに向け論文を仕上げる。						
授業計画	1. オリエンテーション 卒業研究作成に向けて 2. 研究テーマの検討 3. 研究テーマ設定 4. 研究テーマについてディスカッション 5. プロポーザルについて 6. プロポーザル発表 ー子どもに関してー 7. プロポーザル発表 ー保護者・保育者に関してー 8. 論文の書き方 ー構成についてー 9. 論文の書き方 ー引用方法ー 10. 文献検索 11. 先行研究の検討 12. 中間発表に向けて 13. 中間発表 ー子どもに関してー 14. 中間発表 ー保護者・保育者に関してー 15. 論文作成 16. 論文作成 ー考察のまとめ方ー 17. 論文作成 18～27 個別指導 28. 卒研発表に向けて 29～30 卒業研究発表会						
授業外における学習（準備学習の内容）	文献の収集、データー処理など						
授業方法	全体指導と個別指導						
評価基準と評価方法	平常点30%、論文70%						
教科書	適宜紹介やプリントを配布する						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	寺見 陽子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	卒業論文の作成						
授業の概要	目的：卒業論文の作成 概要：「教育発達演習A・B」での研究をもとに、卒業研究に向けて文献や研究論文を購読するとともに、プロポーザルを作成し、その流れに沿って、研究・実験・調査・観察等を実施し、結果をまとめ考察する。さらに今後の課題を明らかにする。						
到達目標	卒業論文を作成する						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 研究テーマの設定 第3回 研究テーマの焦点化 第4～8回 文献の検索と購読 第9～13回 プロポーザルの作成と論文構成 第14～18回 調査・観察等の実施 第19～23回 データ分析と考察 第24～28回 論文作成 第28～30回 卒業論文発表会						
授業外における学習（準備学習の内容）	文献の検索・調査・観察等						
授業方法	個人指導を中心とする						
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 プレゼンテーション（50%）、レポート（50%）						
教科書	必要に応じて示します。						
参考書	必要に応じて示します。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	藤本 浩一						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜1	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	生涯発達の心理と支援						
授業の概要	教育心理学・発達心理学を中心とした調査・実験・観察研究を計画立案・実施し、統計処理を行い、論文にまとめる。実験や調査が行えない種類のテーマについては文献研究もあり得る。従来の心理学研究を丹念に調べる一方で、各自の関心を高めて両者を結びつける作業を行う。個別相談を順に行うので指定した時間帯に出席が必要。論文評価は出席に加えて継続的努力・工夫・論理的つながり・着眼点・整った方法等から行う。教育実習や採用試験があるので、夏休みまでにデータ収集し、早い目には書きあげる。						
到達目標	個人の興味関心を卒業論文の形に仕上げる						
授業計画	1. 卒論の文体と作成の心得、卒論執筆の目安 2. テーマ候補紹介と選定 3. テーマ毎の方法論の検討 4. 論文検索状況報告 5. 文献のまとめ方習熟 6. 実証データの収集法 7. 実験計画と実施 8. データ収集 9. 結果の整理 10. 結果における統計手法 11. 統計処理のいろいろ 12. 卒論チェックポイント 13. 中間発表 14. 中間発表その2 15. わかりやすい文章 16. 章立ての工夫 17. 個別指導1) 文章チェック 18. 個別指導2) 考察の吟味 19. 個別指導3) 目的の明確化 20. 個別指導4) 文献整備 21. 個別指導5) 構文 22. 第2期中間発表 23. 個別指導6) 節ごとのつながりの整合性 24. 個別指導7) リサーチクエスション確認 25. 個別指導8) 修正対照表作成法 26. 個別指導9) 最終チェック 27. 個別指導10) 提出の体裁 28. 卒論発表会 29. 卒論発表会その2 30. 反省会						
授業外における学習（準備学習の内容）	文献検索、データ収集、文章作成など卒業研究の準備						
授業方法	研究室での個別指導と教室にて全体発表の授業						
評価基準と評価方法	平常点30%と卒業論文（努力、論理的つながり、方法論、独創性など）70%により行う。						
教科書	統計処理法など、適宜プリントを配布します。						

参考書	
-----	--

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	松岡 靖						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	保育・教育の質的研究を深めて卒業論文にまとめよう。						
授業の概要	1. 保育・教育を扱う教科書について学生が報告する。 2. 学生の関心に応じた調査と発表を教員が支援する。 3. 卒業研究の中間報告と卒業論文を個別に指導する。						
到達目標	1. 保育・教育の専門的な知識・思考の水準を引き上げる。 2. 学士号にふさわしい卒業論文の執筆・発表を体験する。						
授業計画	1. 卒業研究オリエンテーション(1) 2. 図書館の論文ガイダンス(1) 3. 教科書(1): 幼児教育の意義はどこにあるか？ 4. 教科書(2): 現代の日本の子どもの特徴とは？ 5. 教科書(3): 幼児教育のための内容と方法は？ 6. 教科書(4): 保幼小の連携をいかに進めるか？ 7. 教科書(5): 労働・社会保障としての教育は？ 8. 教科書(6): 投資部門と職業希望への道筋は？ 9. 学生による中間報告(1) 10. 学生による中間報告(2) 11. 学生による中間報告(3) 12. 学生による発表と質疑(1) 13. 学生による発表と質疑(2) 14. 学生による発表と質疑(3) 15. 前期の反省と後期の展望 16. 卒業研究オリエンテーション(2) 17. 図書館の論文ガイダンス(2) 18. 学生による中間報告(1) 19. 学生による中間報告(2) 20. 学生による中間報告(3) 21. 学生による中間報告(4) 22. 学生による中間報告(5) 23. 学生による中間報告(6) 24. 学生による中間報告(7) 25. 学生による発表と質疑(1) 26. 学生による発表と質疑(2) 27. 学生による発表と質疑(3) 28. 学生による発表と質疑(4) 29. 卒業論文の報告と提出 30. 3年生向けの発表会						
授業外における学習(準備学習の内容)	1. 各自の発表に責任を持って取り組んでください。 2. 取り組んだ成果を3年生へと発表してください。						
授業方法	1. 序盤は教科書を使った報告と質疑です。 2. 中盤は各自の卒業研究の中間報告です。 3. 終盤はその卒業論文の発表と質疑です。						
評価基準と評価方法	1. 平常点30点(発言などの授業貢献) 2. 発表点20点(プレゼンと質疑応答) 3. 卒業論文50点(12月中旬に仕上げる)						
教科書	『希望をつむぎだす幼児教育』髙橋久美子・石川昭義、あいり出版、978-4-901903-79-0。						
参考書	自分の興味・問題に沿って探してください。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	体育科研究						
担当教員	倉 真智子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校における体育科の理論と実践						
授業の概要	小学校学習指導要領に基づき、各学年における領域を理解し、指導する力を身につける。また、幼児教育との接続を踏まえ、身体能力を身に付けることは勿論のこと、情緒面や知的発達を促すことや集団活動などを通してコミュニケーション能力を育成する。さらに理論的思考力を育むことを踏まえ、生涯にわたり運動に親しむことができるよう指導する能力を養う。						
到達目標	小学校の体育を考える際、特に低学年においては幼児期の運動発達をしっかりと捉える必要がある。そのためには教師自身が幼小の連携について理解しておかなければならない。学年と運動領域を理解し、小学校体育のあり方を実践的に学び、教師としての資質・能力を高めることを目指す。						
授業計画	1回 オリエンテーション：授業概要と導入 意識づけ 2回 小学校体育の意義とねらい 3回 学習指導要領 基本方針及び改善事項の理解 4回 幼児期の運動遊びの考え方 5回 小学校体育の考え方 6回 体育における幼小連携 7回 からだほぐし運動 8回 からだづくり運動 9回 ボール運動（中学年） 10回 ボール運動（高学年） 11回 走・跳の運動 12回 器械運動（マット・跳び箱） 13回 ボール運動（ゴール型） 14回 ボール運動（ベースボール型） 15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	小学校学習指導要領概説（体育編）を読み、各学年の目標や内容をよく読んでおくこと。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	授業態度(50%)、課題提出(30%)、レポート(20%)						
教科書	「小学校学習指導要領解説」体育編 文部科学省						
参考書	「新しい体育の考え方」 下山真二 洋泉社 「体育の授業づくり」平塚昭仁 フォーラムA						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	体育科研究						
担当教員	倉 真智子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校における体育科の理論と実践						
授業の概要	小学校学習指導要領に基づき、各学年における領域を理解し、指導する力を身につける。また、幼児教育との接続を踏まえ、身体能力を身に付けることは勿論のこと、情緒面や知的発達を促すことや集団活動などを通してコミュニケーション能力を育成する。さらに理論的思考力を育むことを踏まえ、生涯にわたり運動に親しむことができるよう指導する能力を養う。						
到達目標	小学校の体育を考える際、特に低学年においては幼児期の運動発達をしっかりと捉える必要がある。そのためには教師自身が幼小の連携について理解しておかなければならない。学年と運動領域を理解し、小学校体育のあり方を実践的に学び、教師としての資質・能力を高めることを目指す。						
授業計画	1回 オリエンテーション：授業概要と導入 意識づけ 2回 小学校体育の意義とねらい 3回 学習指導要領 基本方針及び改善事項の理解 4回 幼児期の運動遊びの考え方 5回 小学校体育の考え方 6回 体育における幼小連携 7回 からだほぐし運動 8回 からだづくり運動 9回 ボール運動（中学年） 10回 ボール運動（高学年） 11回 走・跳の運動 12回 器械運動（マット・跳び箱） 13回 ボール運動（ゴール型） 14回 ボール運動（ベースボール型） 15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	小学校学習指導要領概説（体育編）を読み、各学年の目標や内容をよく読んでおくこと。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	授業態度(50%)、課題提出(30%)、レポート(20%)						
教科書	「小学校学習指導要領解説」体育編 文部科学省						
参考書	「新しい体育の考え方」 下山真二 洋泉社 「体育の授業づくり」平塚昭仁 フォーラムA						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	体育科指導法						
担当教員	倉 真智子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校「体育科」の指導法について学ぶ						
授業の概要	小学校体育における教科と学年における各領域について理解し、その指導方法を習得することにある。児童が自ら意欲的に楽しく、かつ安全に取り組めるよう教師として授業方法の工夫を考える必要がある。教師としての理念、専門的な知識について学ぶ。また、近年問題になっている児童の保健に関する授業の在り方を考えていく。						
到達目標	各学年における、運動領域を十分に理解し、ねらいとめやすを立て授業を展開できるようになることを目標とする。						
授業計画	第1回 授業概要と小学校体育の役割 第2回 新体力テストの実施概要 第3回 新体力テストの実施 第4回 中学年における器械運動（マット） 第5回 高学年における器械運動（マット） 第6回 中学年における器械運動（跳び箱） 第7回 高学年における器械運動（跳び箱） 第8回 走・挑の運動 第9回 陸上運動 第10回 ボール運動（ゴール型） 第11回 ボール運動（ベースボール型） 第12回 ボール運動（ネット型） 第13回 保健－毎日の生活と健康－ 第14回 保健－育ちゆく体とわたし 第15回 到達目標の確認とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	小学校学習要領「体育編」を熟読することと、体育科研究で学んだ内容を振り返り、学年の理解を深めておくこと。						
授業方法	講義と演習（模擬授業）						
評価基準と評価方法	受講態度40% 模擬授業40% レポート20%						
教科書	小学校学習指導要領解説 体育編 文部科学省 東洋館出版						
参考書	全単元・全時間の授業のすべて（1年～6年） 東洋館出版 全単元学習カード（体育）東洋館出版 体育の授業づくり フォーラムA						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	体育実技Ⅳ						
担当教員	倉 真智子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	体育・運動遊びの指導法と生涯スポーツ						
授業の概要	発育・発達に即した幼稚園・小学校（低学年）における子どもの運動遊び・体育遊びの指導法のあり方を実技・演習を通して学習していく。また、心とからだのつながりを意識するボディワーク、ニュースポーツも体験し、生涯スポーツへと繋げていく。						
到達目標	これまでの学習の総仕上げとして、子どもの体育、運動をさまざまな視点から発展させるとともに、指導案に基づいた指導法を実践する。また、子どもの特性を十分に理解し、発達に応じた指導・援助が展開できるようグループワークを行う。						
授業計画	1. オリエンテーション：授業概要と導入、意識づけ 2. 幼児期の運動あそびとは 3. 幼児期の運動遊びの意義 4. 保育指導計画の立て方 5. 保育指導計画の作成 6. 移動遊具を用いた運動遊び －3歳児－ 7. 移動遊具を用いた運動遊び －4歳児－ 8. 移動遊具を用いた運動遊び －5歳児－ 9. 鬼遊び －3、4歳児－ 10. 鬼遊び －5歳児－ 11. 自然教育 12. 年齢による運動発達 13. ニュースポーツ －グランドゴルフ－ 14. 生涯スポーツ 15. 自己評価とふりかえり						
授業外における学習（準備学習の内容）	保育者として実践出来る能力を身につけられるよう、資料を整理しておくこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点（50％）、模擬保育（30％）、レポート（20％）						
教科書	「子どもが育つ運動遊び」（株）みらい 2016						
参考書	「遊びの指導」 同文書院 「DVDつき体育の強化書」 世界文化社						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	楽しい理科実験						
担当教員	内田 祐貴						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	理科実験の楽しさを、自分自身が手を動かすことにより実感する。						
授業の概要	理科の面白さの1つに実験がある。しかしながら、高校までは自身で能動的に実験をする機会は少なく、実験に苦手意識を持つ初等教育の教員は多い。この授業ではそれぞれの実験を学生自身が行うことにより、理科実験の楽しさを体験する。						
到達目標	・理科実験のを自身が楽しむ。 ・将来、子どもたちに見せられるようになること。 ・実験器具、操作などの基本事項を修得すること。						
授業計画	第01回 楽しい理科実験（基本と結晶づくり） 第02回 身の回りの液体を調べる 第03回 光の性質（万華鏡づくり） 第04回 鏡を作ろう（銀鏡反応） 第05回 低温の世界 第06回 電池と電気分解 第07回 手作り望遠鏡 第08回 何度も繰り返す反応（振動反応） 第09回 月球儀づくり 第10回 葉脈の葉づくり 第11回 カルメ焼きづくり 第12回 スライムづくり（高分子物質） 第13回 顕微鏡の世界 第14回 DNAを取り出そう 第15回 パンを焼こう * 天候や季節によって変更があります						
授業外における学習（準備学習の内容）	特になし						
授業方法	講義と実験						
評価基準と評価方法	提出したレポート(50)を主資料として、授業への取り組みの姿勢等(50)を加味する。						
教科書							
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	楽しい理科実験						
担当教員	内田 祐貴						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	理科実験の楽しさを、自分自身が手を動かすことにより実感する。						
授業の概要	理科の面白さの1つに実験がある。しかしながら、高校までは自身で能動的に実験をする機会は少なく、実験に苦手意識を持つ初等教育の教員は多い。この授業ではそれぞれの実験を学生自身が行うことにより、理科実験の楽しさを体験する。						
到達目標	・理科実験のを自身が楽しむ。 ・将来、子どもたちに見せられるようになること。 ・実験器具、操作などの基本事項を修得すること。						
授業計画	第01回 楽しい理科実験（基本と結晶づくり） 第02回 身の回りの液体を調べる 第03回 光の性質（万華鏡づくり） 第04回 鏡を作ろう（銀鏡反応） 第05回 低温の世界 第06回 電池と電気分解 第07回 手作り望遠鏡 第08回 何度も繰り返す反応（振動反応） 第09回 月球儀づくり 第10回 葉脈の染み取り 第11回 カルメ焼きづくり 第12回 スライムづくり（高分子物質） 第13回 顕微鏡の世界 第14回 DNAを取り出そう 第15回 パンを焼こう * 天候や季節によって変更があります						
授業外における学習（準備学習の内容）	特になし						
授業方法	講義と実験						
評価基準と評価方法	提出したレポート(50)を主資料として、授業への取り組みの姿勢等(50)を加味する。						
教科書							
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	多文化教育論						
担当教員	松岡 靖						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	オーストラリアなどの多文化教育に学び、日本での多文化教育を構想する。						
授業の概要	1. 世界各地で「多文化化」が進んでいる現状を説明する。 2. グローバル化で学校教育がどれだけ変わるかを調べる。 3. 今の日本にどんな多文化教育の可能性があるかを探る。						
到達目標	1. 20世紀後半から各国で多文化教育が採用された経緯を知る。 2. オーストラリアなどの外国の教育についての知識を増やす。 3. これからの日本でふさわしい多文化教育について構想する。						
授業計画	1. はじめに：多文化とオーストラリアの接点 2. 社会・主義・教育の「多文化化」とは？ 3. 日本の多様性(1)：アイヌ民族 4. 日本の多様性(2)：ウチナンチュ 5. 日本の多様性(3)：在日コリアン 6. 教科書にみる多文化(1)：アメリカ 7. 教科書にみる多文化(2)：韓国 8. 教科書にみる多文化(3)：中国 9. 教科書にみる多文化(4)：フィンランド 10. 教科書にみる多文化(5)：イギリス 11. 教科書にみる多文化(6)：アフリカ 12. オーストラリア(1)：20世紀の歴史 13. オーストラリア(2)：多文化と教育 14. 全員によるレポート発表と質疑応答 15. おわりに：レポート返却と成績説明						
授業外における学習（準備学習の内容）	1. 全員が教科書を使つての発表を担当します。 2. 全員が学期末レポートを書いて発表します。						
授業方法	1. 序盤は担当教員による講義を中心に進めます。 2. 中盤は教科書を使って学生たちが発表します。 3. 終盤は学生による発表と質疑応答を行います。						
評価基準と評価方法	1. 平常点30点（発言などの授業貢献） 2. 発表点20点（プレゼンと質疑応答） 3. レポート50点（学期末に提出する）						
教科書	『こんなに違う！世界の国語教科書』二宮皓監修、メディアファクトリー、978-4-8401-3437-8。絶版品切れなので購入しなくてよい。学生による回覧などで対応できる。						
参考書	自分の興味・問題に必要なものを探してください。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	特別活動論						
担当教員	大石 正廣						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	人間力を高める特別活動の実践的指導力の育成						
授業の概要	特別活動は、望ましい集団活動を通して自己の生き方を主体的に考え、自己の実現を図ることができる人間を育成するという使命をもつ。そのためには、学級活動、児童会活動やクラブ活動、及び、学校行事等を通じて、児童の企画力や実行力を引き出し、主体性や積極性を育てるように指導することが大事である。そうすることで自立した個と集団が育成できる。 講義では現学習指導要領に即して特別活動の意義や内容、具体的な活動や実践方法について解説する。学生諸君は過去の経験と呼び起こしながら、どうすれば有効な指導ができるのか、体験的な集団づくりの手法について研究し、グループ討議や共同しての活動案づくりする中で、ねらいに応じる特別活動を展開していくために必要な組織動きやかかわりができる力を身につけて欲しい。						
到達目標	1. 特別活動の意義や目的、内容を理解する。 2. 活動や行事の立案能力、主体的・積極的に実践できる能力を身につける。						
授業計画	第1回 ガイダンス 特別活動の教育課程上の位置づけ その意義と役割 第2回 特別活動の理念・方針の変更 第3回 学習指導要領に示されている特別活動の目標と内容 第4回 学級活動1 自主的・実践的な態度を育てる学級づくりをしよう 第5回 学級活動2 発想力を鍛えよりよい学級づくりに参画させよう 第6回 学級活動3 いじめを生まない集団作りをしよう 第7回 児童会活動・クラブ活動 子どもの企画力や実行力を育てよう 第8回 学校行事1 儀式的行事・文化的行事 子どもに充実感や充足感を味わわせよう 第9回 学校行事2 健康安全・体育的行事 子どもに充実感や充足感を味わわせよう 第10回 学校の行事3 ①遠足・集団的行事1 子どもに豊かな経験や体験をさせる計画を立てよう 第11回 ②遠足・集団宿泊的行事2 計画案の検討の交流を図り、より充実した経験や体験をさせよう 第12回 学校行事4 勤労生産・奉仕的行事 社会奉仕の精神を養う経験や体験をさせよう 第13回 特別活動と道德教育との関連 子どもの人間関係調整能力を高めよう 第14回 特別活動の全体計画と年間指導計画 第15回 特別活動の諸課題とその解決方策（地域の特徴を生かした体験活動、食の指導等）						
授業外における学習（準備学習の内容）	1. 小学校で行っている特別活動について、インターネットなどで調べる。 2. 学校訪問実習などの際に、学校目標や学級目標、係の活動、学校行事について情報収集する。						
授業方法	講義形式と演習形式の授業を組み合わせで行う。模擬授業、模擬活動を適宜取り入れていく。						
評価基準と評価方法	授業への参加態度（資料作成力や企画力、発表力やグループ内討議での積極的姿勢など）（2割）、テスト（6割）、指導力や教職についての適性など（2割）で総合評価する。 履修カルテの評価は、「意欲」「知識」「適正」の3観点で行う。						
教科書	資料を配付する。 文部科学省『小学校学習指導要領解説（特別活動）』東洋館出版[授業中に使用]						
参考書	1. 『小学校 新学習指導要領の授業 特別活動 実践資料集 全学年』宮川八岐 石塚忠夫他編著 小学館 2. 『自分を鍛え、集団を創る！ 特別活動の技術』杉田洋著 小学館 3. 『ボランティアを楽しむアイデア&指導案』原田正樹 柳久美子編著 学事出版						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	道徳教育指導法						
担当教員	松岡 靖						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	道徳教育の指導案を倫理学で組み立てよう。						
授業の概要	1. 学習指導要領による道徳教育の位置づけを説明する。 2. 道徳指導案を紹介しつつ、倫理学的背景を解説する。 3. 指導案作成・模擬授業・相互評価を学生同士で行う。						
到達目標	1. 学校教育にみる道徳の役割と指導法を理解する。 2. 道徳教育のあり方を倫理学の視点から振り返る。 3. 学習指導要領を参考にして授業実践力を伸ばす。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：私語の倫理学 第2回 体験した道徳教育：グループで発表する 第3回 指導要領にみる道徳(1)：学校教育の役割 第4回 指導要領にみる道徳(2)：他教科との関係 第5回 道徳の教材研究(1)：自己との関わり 第6回 道徳の教材研究(2)：他者との関わり 第7回 道徳の教材研究(3)：集団・社会との関わり 第8回 道徳の教材研究(4)：生命・自然との関わり 第9回 倫理学から道徳をみる：身体的自由は本当か？ 第10回 模擬授業の実践(1)：自己との関わり 第11回 模擬授業の実践(2)：他者との関わり 第12回 模擬授業の実践(3)：集団・社会との関わり 第13回 模擬授業の実践(4)：生命・自然との関わり 第14回 模擬授業の実践(5)：その他との関わり 第15回 まとめ：レポート返却と成績説明						
授業外における学習（準備学習の内容）	1. 教科書は授業でも各自でも読んでください。 2. 模擬授業の指導案をしっかりと準備してください。 3. 模擬授業後のレポートを早めに提出してください。						
授業方法	1. 前半は講義を基本にディスカッションも入れます。 2. 後半は学生グループの模擬授業を中心に行います。						
評価基準と評価方法	1. 平常点30点（コメント、授業貢献など） 2. 模擬授業40点（学生の相互評価を含む） 3. 学期末レポート30点（模擬授業の考察） 4. 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価します。						
教科書	『道徳教育はホントに道徳的か？』松下良平、日本図書センター、978-4-284-30447-4。						
参考書	『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	乳児保育演習						
担当教員	塚本 美由紀						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	近年、社会的にも乳児保育および保育士への期待が高まっている。乳児期の子どもの発達を理解し、保護者等との連携をもとに、より質の高い乳児保育を行うため、学習・研究・実践演習等で研鑽を積み、乳児保育の重要性を理解することが授業テーマとなる。						
授業の概要	保育所および乳児院における3歳未満児の保育実践について学習する。3歳未満児の発達理解を深め、講義、演習等を通して、乳児保育の基本や援助について理解を深める。						
到達目標	1. 保育所、乳児院における乳児保育の現状と課題の理解を深める。 2. 3歳未満児の健やかな成長を支える生活や遊びの理解を深める。 3. 乳児保育の計画作成、保育内容や方法、環境構成や観察・記録の理解を深める。 4. 保護者や関係機関との連携についての理解を深める。						
授業計画	第1回 乳児、乳児保育とは 第2回 胎児期・新生児期の発達と保育 第3回 0歳児の発達と保育 第4回 1歳児の発達と保育 第5回 2歳児の発達と保育 第6回 基本的生活習慣の配慮と援助①健康・食事・排泄 第7回 基本的生活習慣の配慮と援助②睡眠・着脱・清潔 第8回 乳児保育における遊びと援助①遊びの本質 第9回 乳児保育における遊びと援助②造形遊び 第10回 乳児保育における遊びと援助③絵本 第11回 乳児保育における遊びと援助④ふれあい遊び・わらべ歌・子守歌 第12回 子育て支援事業、保護者・関連機関との連携 第13回 指導計画の立案 第14回 指導計画の検討 第15回 発表 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：教科書、保育所保育指針・解説書を読むこと。 授業後学習：講義内容のまとめを行うこと。						
授業方法	講義型授業、演習、グループディスカッション、保育教材作成を行う。						
評価基準と評価方法	授業内の課題（70点）、レポート〔作品含む〕（30点）						
教科書	『赤ちゃんから学ぶ「乳児保育」の実践―保育所・家庭で役立つ―』川原佐公監修・古橋紗人子編著 保育出版社 ISBN978-4-938795-87-0						
参考書	授業で適宜紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	乳児保育演習						
担当教員	塚本 美由紀						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	近年、社会的にも乳児保育および保育士への期待が高まっている。乳児期の子どもの発達を理解し、保護者等との連携をもとに、より質の高い乳児保育を行うため、学習・研究・実践演習等で研鑽を積み、乳児保育の重要性を理解することが授業テーマとなる。						
授業の概要	保育所および乳児院における3歳未満児の保育実践について学習する。3歳未満児の発達理解を深め、講義、演習等を通して、乳児保育の基本や援助について理解を深める。						
到達目標	1. 保育所、乳児院における乳児保育の現状と課題の理解を深める。 2. 3歳未満児の健やかな成長を支える生活や遊びの理解を深める。 3. 乳児保育の計画作成、保育内容や方法、環境構成や観察・記録の理解を深める。 4. 保護者や関係機関との連携についての理解を深める。						
授業計画	第1回 乳児、乳児保育とは 第2回 胎児期・新生児期の発達と保育 第3回 0歳児の発達と保育 第4回 1歳児の発達と保育 第5回 2歳児の発達と保育 第6回 基本的生活習慣の配慮と援助①健康・食事・排泄 第7回 基本的生活習慣の配慮と援助②睡眠・着脱・清潔 第8回 乳児保育における遊びと援助①遊びの本質 第9回 乳児保育における遊びと援助②造形遊び 第10回 乳児保育における遊びと援助③絵本 第11回 乳児保育における遊びと援助④ふれあい遊び・わらべ歌・子守歌 第12回 子育て支援事業、保護者・関連機関との連携 第13回 指導計画の立案 第14回 指導計画の検討 第15回 発表 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：教科書、保育所保育指針・解説書を読むこと。 授業後学習：講義内容のまとめを行うこと。						
授業方法	講義型授業、演習、グループディスカッション、保育教材作成を行う。						
評価基準と評価方法	授業内の課題（70点）、レポート〔作品含む〕（30点）						
教科書	『赤ちゃんから学ぶ「乳児保育」の実践カー保育所・家庭で役立つ一』川原佐公監修・古橋紗人子編著 保育出版社 ISBN978-4-938795-87-0						
参考書	授業で適宜紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育基本演習						
担当教員	春 豊子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	保育実践力を培う						
授業の概要	第一には、乳幼児の行動について具体的事例を通して子ども理解を深めていく。第二には、保育教材等を収集・作成し、学生同士でそれらを活用した模擬保育を行い、保育の進め方について具体的に考える。第三には自分の保育をどうデザインするか、指導計画から指導案、評価までの保育実務を理解する。						
到達目標	乳幼児の発達や特性を生かすための工夫や、その子なりの発達を支えていく指導法を、実践事例を通して考え保育者としての資質を高めていく。						
授業計画	第 1 回 オリエンテーション : 授業概要と課題 (自作教材パペットと素話) 第 2 回 指導計画の考え方と立て方 (1) : 「ねらい」「内容」の書き方 第 3 回 指導計画の考え方と立て方 (2) : 自作教材を使った保育指導案の作成 第 4 回 模擬保育と評価 (1) 保育記録の書き方 : 保育の基本用語 第 5 回 模擬保育と評価 (2) 保育活動における「保育対象」(1) : 保育所保育指針と保育所保育 第 6 回 模擬保育と評価 (3) 保育活動における「保育対象」(2) : 幼稚園教育要領と幼稚園教育 第 7 回 模擬保育と評価 (4) 保育活動における「保育者」の役割 (1) : 子供理解と観察 (ビデオ視聴を通して) 第 8 回 模擬保育と評価 (5) 保育活動における「保育者」の役割 (2) : 保育者の専門性 第 9 回 模擬保育と評価 (6) 遊びにおける総合的指導 : 保育における遊びの意味 第 10 回 模擬保育と評価 (7) 遊びの中の学び : 遊びを支える援助 第 11 回 模擬保育と評価 (8) 保育活動と行事 (1) : 年中行事について 第 12 回 模擬保育と評価 (9) 保育活動と行事 (2) : 行事を生かした保育 第 13 回 模擬保育と評価 (10) 環境の構成と保育の展開 : 子供と共に創り出す保育環境 第 14 回 保育評価と記録 : 保育における記録の意義と方法 第 15 回 まとめと授業評価 : 保育者としての課題						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：自作教材を作成したり、模擬保育を行ったりするための、資料集めをしておく。 授業後学習：課題解決に向けて、授業内で得た情報を整理する。						
授業方法	模擬保育・演習を中心に行う。						
評価基準と評価方法	授業参加態度(意欲・関心・小テスト など) 30% 提出物(自作教材、指導案を含むレポート など) 40% 模擬保育の内容 30% などを総合して評価する。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	「文部科学省 幼稚園教育要領解説」平成20年10月 フレーベル館 「厚生労働省編 保育所保育指針解説書」 フレーベル館 文部科学省 幼稚園教育指導資料第1集(改訂) 指導計画の作成と保育の展開 フレーベル館 文部科学省 幼稚園教育指導資料第5集 指導と評価に生かす記録 チャイルド本社						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育原理						
担当教員	寺見 陽子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	保育所保育の基本原理の理解						
授業の概要	保育所および認定こども園の機能や社会的役割を理解すると共に、保育の目的、目標、内容、方法、子ども理解と援助、保育の環境構成等の在り方及び保育者の役割について概観する。さらに、育所における保育の特性、保育の内容と方法、実践の考え方と展開の在り方を考える。						
到達目標	保育の特性と保育の基本、そのあり方を理解する。						
授業計画	第1回 現代社会と保育—子ども子育て新制度を巡って 第2回 保育所と認定こども園における保育の意義と基底 第3回 保育所・認定こども園における保育の方針と概要 第4回 保育所および認定こども園における保育の特性 第5回 保育所および認定こども園における保育の基本 第6回 保育の原理と方法 第7回 保育の内容及び保育の環境（１）—養護と教育 第8回 保育の内容及び保育の環境（２）—健康・安全・食育 第9回 保育の環境構成と保育者の役割（１）—3歳未満児を中心に 第10回 保育の環境構成と保育者の役割（２）—3歳以上児を中心に 第11回 保育の計画と評価（１）—保育課程と指導計画 第12回 保育の計画と評価（２）—保育のPDCAと保育の質の向上 第13回 保護者との連携と支援 第14回 地域の子育て支援 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	保育所での子どもとのかかわりの経験をもつ						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 実習レポート20点、テスト80点						
教科書	寺見陽子編 「乳幼児保育の理論と実際」 ミネルバ書房 2008 保育所保育指針（フレーベル館）・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（フレーベル館）						
参考書	必要に応じて示します。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育原理						
担当教員	寺見 陽子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	保育所保育の基本原理の理解						
授業の概要	保育所および認定こども園の機能や社会的役割を理解すると共に、保育の目的、目標、内容、方法、子ども理解と援助、保育の環境構成等の在り方及び保育者の役割について概観する。さらに、育所における保育の特性、保育の内容と方法、実践の考え方と展開の在り方を考える。						
到達目標	保育の特性と保育の基本、そのあり方を理解する。						
授業計画	第1回 現代社会と保育—子ども子育て新制度を巡って 第2回 保育所と認定こども園における保育の意義と基底 第3回 保育所・認定こども園における保育の方針と概要 第4回 保育所および認定こども園における保育の特性 第5回 保育所および認定こども園における保育の基本 第6回 保育の原理と方法 第7回 保育の内容及び保育の環境（1）—養護と教育 第8回 保育の内容及び保育の環境（2）—健康・安全・食育 第9回 保育の環境構成と保育者の役割（1）—3歳未満児を中心に 第10回 保育の環境構成と保育者の役割（2）—3歳以上児を中心に 第11回 保育の計画と評価（1）—保育課程と指導計画 第12回 保育の計画と評価（2）—保育のPDCAと保育の質の向上 第13回 保護者との連携と支援 第14回 地域の子育て支援 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	保育所での子どもとのかかわりの経験をもつ						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 実習レポート20点、テスト80点						
教科書	寺見陽子編 「乳幼児保育の理論と実際」 ミネルバ書房 2008 保育所保育指針（フレーベル館）・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（フレーベル館）						
参考書	必要に応じて示します。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育者論						
担当教員	吉田 直哉						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保育者の社会的使命と専門性						
授業の概要	本講義は、学生一人一人がもつ「私が保育するとはどういうことか」という問いを出発点としながら、現代日本における保育者の制度的位置づけ、現在に至るまでの保育者の位置づけの変遷、現在から未来へ向けて求められる保育者の専門性とミッション(使命)について学ぶ。						
到達目標	保育の歴史的な流れを見通しながら、保育者の制度的位置づけ、社会的役割を理解し、その現状と課題を把握する。さらに、子どもの発達、学び(遊び)の特性を踏まえて、保育者に求められる専門性を理解し、その専門性を向上させるための基礎的な知識や理論を習得する。						
授業計画	第1回 オリエンテーション・導入 第2回 「保育者論」を学ぶことの意義 第3回 現代における保育者の社会的位置づけ(1)：保育者の社会的イメージ 第4回 現代における保育者の社会的位置づけ(2)：関連法令における規定 第5回 保育者へのニーズと職業倫理(1)：全国保育士会倫理綱領 第6回 保育者へのニーズと職業倫理(2)：バISTEックの7原則 第7回 保育者に求められるスキル(1)：受信的・発信的技能 第8回 保育者に求められるスキル(2)：保護者支援とカウンセリングマインド・ケア 第9回 保育者としての熟達(1)：ライフサイクルと生涯発達 第10回 保育者としての熟達(2)：カッツの保育者のキャリア形成論 第11回 保育者としての熟達(3)：新任男性保育者の事例検討 第12回 子どもの発達援助(1)：園生活の特性 第13回 子どもの発達援助(2)：子どもの発達過程に即した支援 第14回 子どもの発達援助(3)：子どもの学習＝遊びの特性に即した支援 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	保育原理等で学習した内容を、必要に応じて復習することが求められる。『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』の内容を、概略的に理解していることが必要となる。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	提出物(コメントカード、小レポート・20%)、受講態度(10%)、小テスト(70%)による評価						
教科書	石川昭義・小原敏郎編著『保育者のためのキャリア形成論』建帛社、2015年。ISBN9784767950228						
参考書	吉田直哉編著『増補改訂版・保育原理の新基準』三恵社、2016年。ISBN未定 谷田貝公昭ほか編『新版・保育用語辞典』一藝社、2016年。ISBN未定						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育者論						
担当教員	吉田 直哉						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保育者の社会的使命と専門性						
授業の概要	本講義は、学生一人一人がもつ「私が保育するとはどういうことか」という問いを出発点としながら、現代日本における保育者の制度的位置づけ、現在に至るまでの保育者の位置づけの変遷、現在から未来へ向けて求められる保育者の専門性とミッション(使命)について学ぶ。						
到達目標	保育の歴史的な流れを見通しながら、保育者の制度的位置づけ、社会的役割を理解し、その現状と課題を把握する。さらに、子どもの発達、学び(遊び)の特性を踏まえて、保育者に求められる専門性を理解し、その専門性を向上させるための基礎的な知識や理論を習得する。						
授業計画	第1回 オリエンテーション・導入 第2回 「保育者論」を学ぶことの意義 第3回 現代における保育者の社会的位置づけ(1)：保育者の社会的イメージ 第4回 現代における保育者の社会的位置づけ(2)：関連法令における規定 第5回 保育者へのニーズと職業倫理(1)：全国保育士会倫理綱領 第6回 保育者へのニーズと職業倫理(2)：バISTECKの7原則 第7回 保育者に求められるスキル(1)：受信的・発信的技能 第8回 保育者に求められるスキル(2)：保護者支援とカウンセリングマインド・ケア 第9回 保育者としての熟達(1)：ライフサイクルと生涯発達 第10回 保育者としての熟達(2)：カッツの保育者のキャリア形成論 第11回 保育者としての熟達(3)：新任男性保育者の事例検討 第12回 子どもの発達援助(1)：園生活の特性 第13回 子どもの発達援助(2)：子どもの発達過程に即した支援 第14回 子どもの発達援助(3)：子どもの学習＝遊びの特性に即した支援 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	保育原理等で学習した内容を、必要に応じて復習することが求められる。『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』の内容を、概略的に理解していることが必要となる。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	提出物(コメントカード、小レポート・20%)、受講態度(10%)、小テスト(70%)による評価						
教科書	石川昭義・小原敏郎編著『保育者のためのキャリア形成論』建帛社、2015年。ISBN9784767950228						
参考書	吉田直哉編著『増補改訂版・保育原理の新基準』三恵社、2016年。ISBN未定 谷田貝公昭ほか編『新版・保育用語辞典』一藝社、2016年。ISBN未定						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習Ⅰ（施設）						
担当教員	塚元 重範						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	児童福祉施設の保育士のあるべき姿を学ぶ						
授業の概要	児童福祉施設で実際に子どもや利用者と生活を共にする中で、子どもや利用者の理解、施設で働く保育士の職務、職員間の連携や施設の役割・責任などの理解、家庭環境の理解などを実践的に学ぶ						
到達目標	施設で過ごす子どもや利用者との共感的、応答的なかわり方や援助技術、態度を身につける。保育士としての職業倫理を身につける。						
授業計画	授業は実習先である児童福祉施設において行われる。１０日間にわたる概要は次の通りであるが、実習先の事情により内容が多少変わる場合もある。 ○実習前段階として * 学内での事前指導（実習の心得、諸注意、実習意義・目的・内容・方法、それぞれの施設の対象児・者の理解・かわり方、児童福祉施設に関係する制度・法律・社会背景などの理解を深める） ○第1段階（１～７日目） 観察実習（実習施設の組織・種類・特性の理解、職員の職種（専門家）の働きと役割・連携の取り方、子どもや利用者のニーズ、施設の一日の流れなどを理解する） ○第2段階（８～１０日目） 観察に加え、部分的な参加を伴う参加実習（子どもや利用者へのサポートやかわりを実際に保育士の補助をしながら体験する。また、環境整備や教材準備等を補助する。援助計画を理解する） ○実習事後段階として * 事後指導（自己評価・反省、感想・レポートの提出、実習報告会への出席、実習記録の提出、自己課題の達成度確認等） * 実習全期間を通して実習の記録をする						
授業外における学習（準備学習の内容）	児童福祉施設の見学、施設でのボランティアを体験する。 現代の子どもたちがおかれている社会や家庭の状況、子どもたちの育ちの様子等に関する情報をまとめる。 児童福祉施設に関する法令、規則、基本となる指針等にふれる。						
授業方法	児童福祉施設における実習、教員による巡回訪問指導						
評価基準と評価方法	実習目的や方法等に関する理解度（レポートによる） 20％ 実習記録の内容 20％ 諸手続きへの取り組み 10％ 施設先の実習評価（出席を含め） 50％						
教科書	実習の手引き、事前授業で配布したプリント						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習Ⅰ（保育所）						
担当教員	吉田 直哉						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	保育所における実習への参加						
授業の概要	保育所における実習に参加し、保育所生活の特性、子どもの発達過程を踏まえた子どもへの支援、保育士の業務への補助を通して、保育士に求められる基礎的な専門的知識・技能を習得する。						
到達目標	・保育所の社会的機能を具体的に理解する。 ・保育所生活の特性を理解する。 ・子どもの発達過程を理解する。 ・子どもの個人差を踏まえた個別的・集団的な支援ができる。 ・保育士の職務の具体的内容を体得する。						
授業計画	実習Ⅰ（10日間）の、標準的な内容は以下のとおりである。 ・事前学習：保育所でのオリエンテーション(学外オリエンテーション)を受ける ・見学・観察実習 ・参加(部分)実習 ・実習記録(日誌)の作成 ・事後学習：各自の取り組みを自己評価したうえで、レポートを作成する						
授業外における学習（準備学習の内容）	・保育所等でのボランティア活動へ積極的に参加する。 ・実習中に必要とされる保育技能(手遊び、歌、絵本、紙芝居等)を、日頃から習得する。 ・保育所という社会との出会いに備えて、社会人としての基礎的なマナー、常識を体得する。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	・実習完了の基礎点 40% ・実習園の評価 40% ・実習記録・レポート 20%						
教科書	・高玉和子編著『実践力がつく保育実習』大学図書出版、2014年、ISBN：978-4-907166-15-1 ・『実習の手引き』						
参考書	・『月刊保育とカリキュラム』ひかりのくに						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習Ⅱ（保育所）						
担当教員	吉田 直哉						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	保育所における実習への参加						
授業の概要	・保育所における実習に参加し、保育所生活の特性、子どもの発達過程を踏まえた子どもへの支援、保育士の業務への補助を通して、保育士に求められる応用的な専門的知識・技能を習得する。 ・実習記録への記載方法を習得し、記録を作成する。 ・実習指導案の作成方法を理解し、実際に指導案を作成し、自ら保育を実施する。						
到達目標	・保育所の社会的機能を具体的に理解する。 ・保育所生活の特性を理解する。 ・子どもの発達過程を理解する。 ・子どもの個人差を踏まえた個別的・集団的な支援ができる。 ・保育士の職務の具体的内容を体得する。						
授業計画	実習Ⅱ（10日間）の、標準的な内容は以下のとおりである。 ・事前学習：保育所でのオリエンテーション(学外オリエンテーション)を受ける ・参加(部分)実習：数回の参加実習を、指導案を作成したうえで実施する ・責任実習：1～2回の責任実習を、指導案を作成したうえで実施する ・保育所の保護者に対する子育て支援への参加 ・実習記録(日誌)の作成 ・事後学習：各自の取り組みを自己評価したうえで、レポートを作成する						
授業外における学習（準備学習の内容）	・保育実習Ⅰの内容の反省をする。 ・保育所等でのボランティア活動へ積極的に参加する。 ・実習中に必要とされる保育技能(手遊び、歌、絵本、紙芝居等)を、日頃から習得する。 ・保育所という社会との出会いに備えて、社会人としての基礎的なマナー、常識を体得する。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	・実習完了の基礎点 40% ・実習園の評価 40% ・実習記録・レポート 20%						
教科書	・船田鈴子・五十嵐淳子編著『実習まるわかりガイドブック』大学図書出版、2015年、ISBN：978-4-907166-48-9 ・『実習の手引き』						
参考書	・『月刊保育とカリキュラム』ひかりのくに						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習ⅢⅠ（施設）						
担当教員	塚元 重範						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	保育実習Ⅰ（施設）の経験を踏まえ、総合的に学習する。						
授業の概要	療育・養育のあり方や地域の中での施設の役割を理解する。保育士やその他の専門職員の働きの実態に触れ、連携や専門性の重要性について理解する。援助計画や支援計画を立案し指導する。子どもや利用者、保護者とのかわりを通して理解を深める。						
到達目標	児童福祉施設で保育士として職務を果たすための基本的な能力、態度を身につける。						
授業計画	授業は施設での実習の形で進められる。10日間にわたる概要は次の通りであるが、実習先の事情により内容が多少変わる場合もある。 ○実習前段階 オリエンテーション（諸注意、心得、実習施設の概要・理念、運営方針・指導方針、援助計画の確認、指導者との打ち合わせ等）を受ける。 ○実習中 部分参加（主体性を持って養護、療育に参加する。子どもや利用者とかかわる。施設の組織、職員のチームワーク力、環境への留意などの観察） ①援助計画の立案 ②計画に基づいて実践する ③実践の評価反省をする ④施設が実施する地域におけるイベント、事業などに参加する ⑤研究的な視点を持って子どもや利用者とかかわる ⑥実習体験の記録、子どもや利用者理解のための記録、気づき、実践の自己評価・反省の記録、課題の達成確認等 ⑦教員による訪問指導を受ける ○実習後段階 全体を通した自己評価・反省・レポートの提出、実習の振り返り、「実習記録」の提出、施設で働くことをイメージし、今後の学習への課題の明確化等						
授業外における学習（準備学習の内容）	実習前、施設でのボランティア活動をする						
授業方法	施設における実習						
評価基準と評価方法	施設の評価 50% 実習記録の内容 30% レポート 20%						
教科書	「実習の手引き」事前授業で配布したプリント						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習指導Ⅰ						
担当教員	吉田 直哉・塚元 重範						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保育実習(保育所・児童福祉施設)に必要なとされる知識・技能						
授業の概要	保育所と児童福祉施設での実習に臨むにあたって、効果的な学びを実現するため、実習の意義、目的、内容、方法に関して概説する。具体的なテーマは以下のとおりである。 ①保育所、児童福祉施設の社会的機能 ②既習科目で習得した知識・技能の再確認 ③子どもへの援助に必要な態度、技能 ④実習記録の記載方法 ⑤各自の実習課題の明確化						
到達目標	・実習の意義、目的、方法などを理解する。 ・自己の実習課題・目標を明確化する。 ・実習に必要なとされる書類の作成、手続きを誤りなく行う。 ・子どもの発達の特徴、子どもの最善の利益と人権の擁護について理解する。 ・実習生としての倫理を身につける。 ・子ども・利用者の生活援助に関する基本的な技能に習熟する。 ・事後指導においては、実習内容の反省を行い、次なる実習に向けた課題と自己目標を意識化する。						
授業計画	第1回 保育所実習の意義・目的・内容・方法 第2回 施設実習の意義・目的・内容・方法 第3回 保育所における保育士の職務内容、倫理(守秘義務、子どもの権利擁護) 第4回 施設における保育士の職務内容、倫理(〃) 第5回 保育所実習の流れ(映像教材) 第6回 施設実習の流れ(〃) 第7回 保育所における子ども理解の方法と保育士の支援方法 第8回 施設における子ども理解の方法と保育士の支援方法 第9回 保育所実習における実習記録の作成方法 第10回 施設実習における実習記録の作成方法 第11回 保育所実習における指導計画(実習指導案)の作成方法 第12回 施設実習における指導計画(実習指導案)の作成方法 第13回 保育所実習の課題の明確化 第14回 施設実習の課題の明確化 第15回 指導案の発表と模擬保育、小テスト、まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	・保育所、児童福祉施設に関するニュースや情報を収集する。 ・保育所、児童福祉施設におけるボランティア等に積極的に参加する。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	・レポート、ワークシート、実習指導案等の提出物 50% ・授業への取り組み(小テスト含む) 50%						

教科書	・高玉和子編著『実践力がつく保育実習』大学図書出版、2014年、ISBN：978-4-907166-15-1 ・小林育子ほか『幼稚園・保育所・施設実習ワーク』萌文書林、2012年、ISBN：978-4-89347-094-2 ・『実習の手引き』
参考書	・『保育所保育指針解説書』フレーベル館 ・『月刊保育とカリキュラム』ひかりのくに ・守巧ほか『施設実習パーフェクトガイド』わかば社 ・長島和代編『これだけは知っておきたい保育の基本用語』わかば社 ・長島和代編『これだけは知っておきたい保育のマナーと言葉』わかば社

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習指導Ⅰ						
担当教員	吉田 直哉・塚元 重範						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保育実習(保育所・児童福祉施設)に必要なとされる知識・技能						
授業の概要	保育所と児童福祉施設での実習に臨むにあたって、効果的な学びを実現するため、実習の意義、目的、内容、方法に関して概説する。具体的なテーマは以下のとおりである。 ①保育所、児童福祉施設の社会的機能 ②既習科目で習得した知識・技能の再確認 ③乳幼児・利用者への援助に必要な態度、技能 ④実習記録の記載方法 ⑤各自の実習課題の明確化						
到達目標	・実習の意義、目的、方法などを理解する。 ・自己の実習課題・目標を明確化する。 ・実習に必要なとされる書類の作成、手続きを誤りなく行う。 ・子どもの発達の特性、子どもの最善の利益と人権の擁護について理解する。 ・実習生としての倫理を身につける。 ・子ども・利用者の生活援助に関する基本的な技能に習熟する。 ・事後指導においては、実習内容の反省を行い、次なる実習に向けた課題と自己目標を意識化する。						
授業計画	第1回 保育所実習の意義・目的・内容・方法 第2回 施設実習の意義・目的・内容・方法 第3回 保育所における保育士の職務内容、倫理(守秘義務、子どもの権利擁護) 第4回 施設における保育士の職務内容、倫理(〃) 第5回 保育所実習の流れ(映像教材) 第6回 施設実習の流れ(映像教材) 第7回 保育所における子ども理解の方法と保育士の支援方法 第8回 施設における子ども理解の方法と保育士の支援方法 第9回 保育所実習における実習記録の作成方法 第10回 施設実習における実習記録の作成方法 第11回 保育所実習における指導計画(実習指導案)の作成方法 第12回 施設実習における指導計画(実習指導案)の作成方法 第13回 保育所実習の課題の明確化 第14回 施設実習の課題の明確化 第15回 指導案の発表と模擬保育、小テスト、まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	・保育所、児童福祉施設に関するニュースや情報を収集する。 ・保育所、児童福祉施設におけるボランティア等に積極的に参加する。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	・レポート、ワークシート、実習指導案等の提出物 50% ・授業への取り組み(小テスト含む) 50%						

教科書	・高玉和子編著『実践力がつく保育実習』大学図書出版、2014年、ISBN：978-4-907166-15-1 ・小林育子ほか『幼稚園・保育所・施設実習ワーク』萌文書林、2012年、ISBN：978-4-89347-094-2 ・『実習の手引き』
参考書	・『保育所保育指針解説書』フレーベル館 ・『保育とカリキュラム』ひかりのくに

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習指導Ⅰ						
担当教員	吉田 直哉・塚元 重範						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保育実習(保育所・児童福祉施設)に必要なとされる知識・技能						
授業の概要	保育所と児童福祉施設での実習に臨むにあたって、効果的な学びを実現するため、実習の意義、目的、内容、方法に関して概説する。具体的なテーマは以下のとおりである。 ①保育所、児童福祉施設の社会的機能 ②既習科目で習得した知識・技能の再確認 ③子どもへの援助に必要な態度、技能 ④実習記録の記載方法 ⑤各自の実習課題の明確化						
到達目標	・実習の意義、目的、方法などを理解する。 ・自己の実習課題・目標を明確化する。 ・実習に必要なとされる書類の作成、手続きを誤りなく行う。 ・子どもの発達の特性、子どもの最善の利益と人権の擁護について理解する。 ・実習生としての倫理を身につける。 ・子ども・利用者の生活援助に関する基本的な技能に習熟する。 ・事後指導においては、実習内容の反省を行い、次なる実習に向けた課題と自己目標を意識化する。						
授業計画	第1回 保育所実習の意義・目的・内容・方法 第2回 施設実習の意義・目的・内容・方法 第3回 保育所における保育士の職務内容、倫理(守秘義務、子どもの権利擁護) 第4回 施設における保育士の職務内容、倫理(〃) 第5回 保育所実習の流れ(映像教材) 第6回 施設実習の流れ(〃) 第7回 保育所における子ども理解の方法と保育士の支援方法 第8回 施設における子ども理解の方法と保育士の支援方法 第9回 保育所実習における実習記録の作成方法 第10回 施設実習における実習記録の作成方法 第11回 保育所実習における指導計画(実習指導案)の作成方法 第12回 施設実習における指導計画(実習指導案)の作成方法 第13回 保育所実習の課題の明確化 第14回 施設実習の課題の明確化 第15回 指導案の発表と模擬保育、小テスト、まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	・保育所、児童福祉施設に関するニュースや情報を収集する。 ・保育所、児童福祉施設におけるボランティア等に積極的に参加する。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	・レポート、ワークシート、実習指導案等の提出物 50% ・授業への取り組み(小テスト含む) 50%						

教科書	・高玉和子編著『実践力がつく保育実習』大学図書出版、2014年、ISBN：978-4-907166-15-1 ・小林育子ほか『幼稚園・保育所・施設実習ワーク』萌文書林、2012年、ISBN：978-4-89347-094-2 ・『実習の手引き』
参考書	・『保育所保育指針解説書』フレーベル館 ・『月刊保育とカリキュラム』ひかりのくに ・守巧ほか『施設実習パーフェクトガイド』わかば社 ・長島和代編『これだけは知っておきたい保育の基本用語』わかば社 ・長島和代編『これだけは知っておきたい保育のマナーと言葉』わかば社

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習指導Ⅱ						
担当教員	吉田 直哉						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	保育実習Ⅱへの取り組み方法の理解						
授業の概要	保育実習Ⅱに臨むにあたって必要な以下の事項を共同的に学習し、理解する。 ①保育所の社会的機能 ②保育者のキャリアアップにおける実習の位置づけ ③実習に必要なとされる知識・技能 ④実習生の倫理と義務 ⑤保育記録(実習日誌)の記載方法 ⑥実習指導計画(指導案)の作成方法						
到達目標	・保育実習Ⅰの取り組みを反省し、実習Ⅱへ向けての各自の課題を明確にする。 ・実習に必要な知識・技能を習得する。						
授業計画	第1回 保育実習Ⅰの振り返り、反省事項の共有 第2回 保育実習Ⅱにおける自己課題の明確化 第3回 実習記録の作成方法：時系列の記録 第4回 実習記録の作成方法：エピソード記録 第5回 実習指導計画の作成方法 第6回 実習指導計画の発表と検討 第7回 模擬保育 第8回 準備事項、注意事項の総括(小テスト含む) ※各自の課題・疑問に関しては、個別での相談に応じる。						
授業外における学習(準備学習の内容)	以下の事項への積極的な参加が求められる。 ・保育現場への参加(ボランティア等) ・保育雑誌、書籍からの資料の収集 ・地域子育て支援コミュニティルーム「まつぼっくり」への参加						
授業方法	講義および演習形式						
評価基準と評価方法	・実習課題の明確化(レポートの作成、発表) 30% ・指導案の作成(プレゼンテーション含む) 30% ・小テスト 20% ・授業への貢献・学びの態度 20%						
教科書	・船田鈴子・五十嵐淳子編『実習まるわかりガイドブック』大学図書出版、2015年、ISBN：978-4-907166-48-9 ・小林育子ほか『幼稚園・保育所・施設実習ワーク』萌文書林、2006年、ISBN：978-4-89347-094-2 ・『実習の手引き』						
参考書	・『月刊保育とカリキュラム』ひかりのくに						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習指導Ⅱ						
担当教員	吉田 直哉						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	保育実習Ⅱへの取り組み方法の理解						
授業の概要	保育実習Ⅱに臨むにあたって必要な以下の事項を共同的に学習し、理解する。 ①保育所の社会的機能 ②保育者のキャリアアップにおける実習の位置づけ ③実習に必要なとされる知識・技能 ④実習生の倫理と義務 ⑤保育記録(実習日誌)の記載方法 ⑥実習指導計画(指導案)の作成方法						
到達目標	・保育実習Ⅰの取り組みを反省し、実習Ⅱへ向けての各自の課題を明確にする。 ・実習に必要な知識・技能を習得する。						
授業計画	第1回 保育実習Ⅰの振り返り、反省事項の共有 第2回 保育実習Ⅱにおける自己課題の明確化 第3回 実習記録の作成方法：時系列の記録 第4回 実習記録の作成方法：エピソード記録 第5回 実習指導計画の作成方法 第6回 実習指導計画の発表と検討 第7回 模擬保育 第8回 準備事項、注意事項の総括(小テスト含む) ※各自の課題・疑問に関しては、個別での相談に応じる。						
授業外における学習(準備学習の内容)	以下の事項への積極的な参加が求められる。 ・保育現場への参加(ボランティア等) ・保育雑誌、書籍からの資料の収集 ・地域子育て支援コミュニティルーム「まつぼっくり」への参加						
授業方法	講義および演習形式						
評価基準と評価方法	・実習課題の明確化(レポートの作成、発表) 30% ・指導案の作成(プレゼンテーション含む) 30% ・小テスト 20% ・授業への貢献・学びの態度 20%						
教科書	・船田鈴子・五十嵐淳子編『実習まるわかりガイドブック』大学図書出版、2015年、ISBN：978-4-907166-48-9 ・小林育子ほか『幼稚園・保育所・施設実習ワーク』萌文書林、2006年、ISBN：978-4-89347-094-2 ・『実習の手引き』						
参考書	・『月刊保育とカリキュラム』ひかりのくに						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習指導Ⅲ						
担当教員	塚元 重範						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	保育実習Ⅰ（施設）の経験を踏まえ、総合的に学習する						
授業の概要	実習に臨むにあたって、より深く児童福祉施設に求められている役割と機能、保育士に求められている専門的な知識や技術等に関する指導を行う。 実習の計画と具体的な準備をさせる。						
到達目標	問題行動を有する子どもとのかかわり方、保護者支援や家庭支援のための知識・技術を養う 実習課題を明確にし、具体的な実習内容を計画できる						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 実習1の振り返り（問題行動への対応） 第3回 実習1の振り返り（甘え、トラブル、生活指導） 第4回 各施設における施設実習を深めるために（施設、子ども、職員等の理解） 第5回 他の専門職種との連携、関係機関との連携 第6回 自立支援計画作成の視点 第7回 親・家族への対応と支援 第8回 まとめ、課題の明確化						
授業外における学習（準備学習の内容）	施設でのボランティア活動を行う						
授業方法	講義とグループ討議、演習						
評価基準と評価方法	実習目的や方法等に関する理解度（小テスト） 50％ 実習課題の明確化 30％ 平常点 20％						
教科書	実習の手引き、その他プリントを配布						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育相談支援						
担当教員	寺見 陽子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	保育の専門性を生かした保育相談支援の在り方の理解						
授業の概要	保育の場における保護者に対する保育指導の在り方について、事例を通して具体的に考える。						
到達目標	保育の専門性を生かした保育指導の技術や技法、支援の方法を学ぶ。						
授業計画	第1回 保育相談支援の意義 第2回 園児の保護者と地域の子育て家庭への支援 第3回 保育相談支援の基本 第4回 保育相談支援に生かす理論と技術①－相談援助技術 第5回 保育相談支援に生かす理論と技術②－対人援助技術 第6回 保育相談支援に生かす理論と技術③－社会的資源の活用 第7回 保育における保育相談支援－保育のなかでの保護者対応 第8回 保育における保育相談支援－保育参加や懇談会、行事、連絡帳等の活用 第9回 ケース・カンファレンス①－3歳以上児とその保護者の支援の事例検討 第10回 ケース・カンファレンス②－3歳未満児とその保護者の支援の事例検討 第11回 保育の場における支援の計画とその作成－支援計画の流れ 第12回 保育の場における支援の計画と評価－支援のPDCA 第13回 児童福祉施設における保育相談支援 第14回 ディカッション 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	実習やその他の活動を通してであった気がかりな親子について考える機会を持ちようにしてください。						
授業方法	講義とグループワーク						
評価基準と評価方法	小レポート（30） 最終レポート（70）						
教科書	大島恭二ほか 保育相談支援 建帛社 2010						
参考書	必要の応じて随時示します。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育相談支援						
担当教員	寺見 陽子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	保育の専門性を生かした保育相談支援の在り方の理解						
授業の概要	保育の場における保護者に対する保育指導の在り方について、事例を通して具体的に考える。						
到達目標	保育の専門性を生かした保育指導の技術や技法、支援の方法を学ぶ。						
授業計画	第1回 保育相談支援の意義 第2回 園児の保護者と地域の子育て家庭への支援 第3回 保育相談支援の基本 第4回 保育相談支援に生かす理論と技術①－相談援助技術 第5回 保育相談支援に生かす理論と技術②－対人援助技術 第6回 保育相談支援に生かす理論と技術③－社会的資源の活用 第7回 保育における保育相談支援－保育のなかでの保護者対応 第8回 保育における保育相談支援－保育参加や懇談会、行事、連絡帳等の活用 第9回 ケース・カンファレンス①－3歳以上児とその保護者の支援の事例検討 第10回 ケース・カンファレンス②－3歳未満児とその保護者の支援の事例検討 第11回 保育の場における支援の計画とその作成－支援計画の流れ 第12回 保育の場における支援の計画と評価－支援のPDCA 第13回 児童福祉施設における保育相談支援 第14回 ディカッション 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	実習やその他の活動を通してであった気がかりな親子について考える機会を持ちようにしてください。						
授業方法	講義とグループワーク						
評価基準と評価方法	小レポート（30） 最終レポート（70）						
教科書	大島恭二ほか 保育相談支援 建帛社 2010						
参考書	必要の応じて随時示します。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（環境）						
担当教員	上中 修						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「環境を通して行う教育」の意義と援助法の理解						
授業の概要	幼児は自然、人、社会、物、文化などの身近な環境に直接かかわる体験を通して、人としての基盤や学習の基盤を培います。この授業ではこのような「環境にかかわる保育」の意義について学びます。さらによき共感者、援助者となるために必要な知識や技術を身につけるため、自然あそびや動物飼育、栽培や製作活動、伝統や生活文化などについて学び、実際に演習を行って実践的な力を養成していきます。						
到達目標	幼児の生活の場となる環境および幼児と環境とのかかわりについて理解を深めます。さらに、この理解をもとに、個々の幼児にとって望ましい環境とは何かについて自分なりに考えをまとめることができることを目指します。						
授業計画	第1回 保育内容環境の意義 第2回 保育内容環境と幼児理解 第3回 好奇心・探求心を育てる指導 第4回 思考力の芽生えを育む指導 第5回 人的環境としての友達、保育者 第6回 物的環境としての園具・遊具・素材 第7回 前半授業のまとめと試験 第8回 自然環境としての動植物 第9回 日常生活の中での興味や関心 第10回 地域・行事との関わり 第11回 環境からみた道徳性の芽生えを培う指導 第12回 乳幼児の安全環境 第13回 保育内容環境からみた実践的課題 第14回 食農教育・食育 第15回 後半授業のまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業の中で示す課題を次の授業までに調べて授業に臨んで下さい。 授業後学習：教科書だけでなく、配布したプリントもしっかりと読んで学びを定着させて下さい。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	試験70%、レポート30% 履修カルテの評価は、「意欲」「知識」「適性」の3観点で行う。						
教科書	保育実践に活かす保育内容環境 保育出版社						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（環境）						
担当教員	上中 修						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「環境を通して行う教育」の意義と援助法の理解						
授業の概要	幼児は自然、人、社会、物、文化などの身近な環境に直接かかわる体験を通して、人としての基盤や学習の基盤を培います。この授業ではこのような「環境にかかわる保育」の意義について学びます。 さらにより共感者、援助者となるために必要な知識や技術を身につけるため、自然あそびや動物飼育、栽培や製作活動、伝統や生活文化などについて学び、実際に演習を行って実践的な力を養成していきます。						
到達目標	幼児の生活の場となる環境および幼児と環境とのかかわりについて理解を深めます。さらに、この理解をもとに、個々の幼児にとって望ましい環境とは何かについて自分なりに考えをまとめることができることを目指します。						
授業計画	第1回 保育内容環境の意義 第2回 保育内容環境と幼児理解 第3回 好奇心・探求心を育てる指導 第4回 思考力の芽生えを育む指導 第5回 人的環境としての友達、保育者 第6回 物的環境としての園具・遊具・素材 第7回 前半授業のまとめと試験 第8回 自然環境としての動植物 第9回 日常生活の中での興味や関心 第10回 地域・行事との関わり 第11回 環境からみた道徳性の芽生えを培う指導 第12回 乳幼児の安全環境 第13回 保育内容環境からみた実践的課題 第14回 食農教育・食育 第15回 後半授業のまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業の中で示す課題を次の授業までに調べて授業に臨んで下さい。 授業後学習：教科書だけでなく、配布したプリントもしっかりと読んで学びを定着させて下さい。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	試験70%、レポート30% 履修カルテの評価は、「意欲」「知識」「適性」の3観点で行う。						
教科書	保育実践に活かす保育内容環境 保育出版社						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（健康）						
担当教員	倉 真智子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの健康教育						
授業の概要	幼児期は生涯にわたって必要となる健康な心と体づくりの基礎を培う重要な時期である。今日においては社会的変化により、幼児の健康において様々な問題がおこっている。この授業では、それらの要因を探り、学習していく。また、保育者となる学生自身が自らの健康を意識し、生活の仕方をふりかえることによって、健康に対する認識をもち、指導・援助が行えるよう実践力を習得する。						
到達目標	幼児が健康で安全な生活が営めるとはどういうことなのかを考える。そのためには幼児期の発育・発達を捉え、援助する能力をつけなければならない。また、生活習慣や運動遊びが幼児の健康にどのような影響を及ぶのかを考え、健康を支援する保育者としての資質を高める。						
授業計画	1回 子どもの健康と五領域における「健康」のねらいと内容 2回 発育と発達 3回 運動系の発育・発達 4回 子どもを取り巻く環境の現状 5回 子どもと自然 6回 子どもの健康と生活習慣 7回 基本的生活習慣（睡眠・食事） 8回 基本的生活習慣（排せつ・衣服の着脱衣・清潔） 9回 子どもの健康と運動遊び 10回 幼児期の体力とは 11回 発達段階による遊びの特徴 12回 運動遊びの重要性－幼児期運動指針から－ 13回 安全保育と危機管理 14回 健康の課題と展望 15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	自分自身の生活をふりかえり、健康な生活習慣についての意識を高めておく。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点(40%)、試験(40%)、課題（20%）						
教科書	「保育者を目指すあなたへ こどもと健康」 みらい 2014						
参考書	「保育と幼児期の運動遊び」 岩崎洋子 萌文書院						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（健康）						
担当教員	倉 真智子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの健康教育						
授業の概要	幼児期は生涯にわたって必要となる健康な心と体づくりの基礎を培う重要な時期である。今日においては社会的変化により、幼児の健康において様々な問題がおこっている。この授業では、それらの要因を探り、学習していく。また、保育者となる学生自身が自らの健康を意識し、生活の仕方をふりかえることによって、健康に対する認識をもち、指導・援助が行えるよう実践力を習得する。						
到達目標	幼児が健康で安全な生活が営めるとはどういうことなのかを考える。そのためには幼児期の発育・発達を捉え、援助する能力をつけなければならない。また、生活習慣や運動遊びが幼児の健康にどのような影響を及ぼすのかを考え、健康を支援する保育者としての資質を高める。						
授業計画	1回 子どもの健康と五領域における「健康」のねらいと内容 2回 発育と発達 3回 運動系の発育・発達 4回 子どもを取り巻く環境の現状 5回 子どもと自然 6回 子どもの健康と生活習慣 7回 基本的な生活習慣（睡眠・食事） 8回 基本的な生活習慣（排せつ・衣服の着脱衣・清潔） 9回 子どもの健康と運動遊び 10回 幼児期の体力とは 11回 発達段階による遊びの特徴 12回 運動遊びの重要性－幼児期運動指針から－ 13回 安全保育と危機管理 14回 健康の課題と展望 15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	自分自身の生活をふりかえり、健康な生活習慣についての意識を高めておく。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点(40%)、試験(40%)、課題（20%）						
教科書	「保育者を目指すあなたへ 子どもと健康」 みらい 2014						
参考書	「保育と幼児期の運動遊び」 岩崎洋子 萌文書院						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（言葉）						
担当教員	吉田 直哉・奥 美佐子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの言語発達の特徴の理解とそれに即した援助方法						
授業の概要	・幼稚園教育要領および保育所保育指針における保育内容「言葉」のねらいと内容を解説する。 ・子どもの言語発達の過程を解説する。 ・子どもの言語発達の特徴に即した保育者の援助の理論と実践について解説する。特に、子どもの人格形成、自尊心の涵養に資する言葉がけの方法について、事例を紹介しながら説明する。 ・言葉を用いた代表的な児童文化財（絵本・紙芝居・ことば遊びうた）を紹介し、それを用いた指導計画の立て方を説明する。						
到達目標	・子どもの言語発達の過程について理解する。 ・子どもに対する適切な言葉がけの原理が分かる。 ・ことばを取り入れた児童文化財を素材にした指導計画を立案できる。 ・学生自身の言葉体験を振り返りながら、子ども期において望ましい言語環境のあり方について考え、それを他者に説明できる。						
授業計画	第1回 イン트로ダクション・自分の幼少期の言葉体験の発表 第2回 子どもにとっての言葉(1)：保育思想から考える 第3回 子どもにとっての言葉(2)：現代の言語理論から考える 第4回 領域「言葉」の「ねらい」 第5回 領域「言葉」の「内容」 第6回 言葉の発達過程：0～1歳 第7回 言葉の発達過程：2～3歳 第8回 言葉の発達過程：4～5歳 第9回 保育者の言葉がけ①：コーチング理論 第10回 保育者の言葉がけ②：事例研究 第11回 言葉を用いた児童文化財(1)：0～2歳児 第12回 言葉を用いた児童文化財(2)：3～5歳児 第13回 言葉を育てる実践(1)：0～2歳児 第14回 言葉を育てる実践(2)：3～5歳児 第15回 まとめと振り返り						
授業外における学習（準備学習の内容）	・絵本、紙芝居等の児童文化財を用いた模擬保育の準備として、積極的に多くの児童文化財に触れ、口演の練習を積む。 ・身の回りの子どもの言葉の使用状況について、日頃から観察し、記録する。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	・授業への貢献(討論への参加等) 10% ・小レポート 20% ・児童文化財を用いた指導案の作成とその実演 20% ・小テスト 50%						
教科書	神田英雄『育ちのきほん：0歳から6歳』ひとなる書房、2008年、ISBN：978-4-89464-125-9						

参考書	今井和子『子どもとことばの世界：実践から捉えた乳幼児のことばと自我の育ち』ミネルヴァ書房、1996年、ISBN : 978-4-623-02666-1
-----	---

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（言葉）						
担当教員	吉田 直哉・奥 美佐子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの言語発達の特徴の理解とそれに即した援助方法						
授業の概要	・幼稚園教育要領および保育所保育指針における保育内容「言葉」のねらいと内容を解説する。 ・子どもの言語発達の過程を解説する。 ・子どもの言語発達の特徴に即した保育者の援助の理論と実践について解説する。特に、子どもの人格形成、自尊心の涵養に資する言葉がけの方法について、事例を紹介しながら説明する。 ・言葉を用いた代表的な児童文化財（絵本・紙芝居・ことば遊びうた）を紹介し、それを用いた指導計画の立て方を説明する。						
到達目標	・子どもの言語発達の過程について理解する。 ・子どもに対する適切な言葉がけの原理が分かる。 ・ことばを取り入れた児童文化財を素材にした指導計画を立案できる。 ・学生自身の言葉体験を振り返りながら、子ども期において望ましい言語環境のあり方について考え、それを他者に説明できる。						
授業計画	第1回 イン트로ダクション・自分の幼少期の言葉体験の発表 第2回 子どもにとっての言葉(1)：保育思想から考える 第3回 子どもにとっての言葉(2)：現代の言語理論から考える 第4回 領域「言葉」の「ねらい」 第5回 領域「言葉」の「内容」 第6回 言葉の発達過程：0～1歳 第7回 言葉の発達過程：2～3歳 第8回 言葉の発達過程：4～5歳 第9回 保育者の言葉がけ①：コーチング理論 第10回 保育者の言葉がけ②：事例研究 第11回 言葉を用いた児童文化財(1)：0～2歳児 第12回 言葉を用いた児童文化財(2)：3～5歳児 第13回 言葉を育てる実践(1)：0～2歳児 第14回 言葉を育てる実践(2)：3～5歳児 第15回 まとめと振り返り						
授業外における学習（準備学習の内容）	・絵本、紙芝居等の児童文化財を用いた模擬保育の準備として、積極的に多くの児童文化財に触れ、口演の練習を積む。 ・身の回りの子どもの言葉の使用状況について、日頃から観察し、記録する。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	・授業への貢献(討論への参加等) 10% ・小レポート 20% ・児童文化財を用いた指導案の作成とその実演 20% ・小テスト 50%						
教科書	神田英雄『育ちのきほん：0歳から6歳』ひとなる書房、2008年、ISBN：978-4-89464-125-9						

参考書	今井和子『子どもとことばの世界：実践から捉えた乳幼児のことばと自我の育ち』ミネルヴァ書房、1996年、ISBN : 978-4-623-02666-1
-----	---

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（人間関係）						
担当教員	寺見 陽子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	幼稚園・保育所における領域「人間関係」の意義とその内容について理解する。また、人とのかかわりによって育つ自我の発達過程と、その育ちを支える子どもの内的能力の発達、保育環境や保育者の役割について理解する。						
授業の概要	保育実践事例を通して、年齢に応じたかかわりの変化を具体的に明らかにしながら、保育における子どもとのかかわりの基本と子どもの育ちを促す人間関係、保育の内容、保育者の援助のあり方について解説する。						
到達目標	①子どもの心の育ちとその育ちを支える人の関わりについて理解する ②領域人間関係の意義と保育内容について理解する ③人のかかわりを育てる保育のあり方と実践方法について理解する ④保育者としての感性やかかわりのセンス、実践に生かせる力を身に付ける						
授業計画	第1回 保育内容「人間関係」の意義と内容 第2回 乳児期の人間関係と心の育ち 第3回 幼児期の人間関係と心の育ち 第4回 乳児の人間関係と保育 第5回 1、2歳児の人間関係と保育 第6回 3歳児の人間関係と保育 第7回 4歳児の人間関係と保育 第8回 5、6歳児の人間関係と保育 第9回 生活・遊びと人間関係一個の育ちと集団 第10回 多様な人間関係と保育一地域交流 第11回 育ちの気がかりな子どもと人間関係 第12回 豊かな人間関係を育てる保育とその環境 第13回 人とのかかわりを育てる保育者の役割 第14回 人とのかかわりを育てる実践と計画 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	フィールドでの子どもとのかかわり						
授業方法	事例をもとにした演習を行います。 事例をもとに、子どもの内面理解と援助、保育の方法やあり方、解釈に関連する理論を説明していきます。 また、DVD等を用いて具体的な子どもの姿や保育者の関わりを学んでいきます。						
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 小レポート20点 テスト80点 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行います。						
教科書	寺見陽子編 「子どもの心の育ちと人間関係」 保育出版 2009 プリント配布						
参考書	必要に応じて紹介します。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（人間関係）						
担当教員	寺見 陽子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	幼稚園・保育所における領域「人間関係」の意義とその内容について理解する。また、人とのかかわりによって育つ自我の発達過程と、その育ちを支える子どもの内的能力の発達、保育環境や保育者の役割について理解する。						
授業の概要	保育実践事例を通して、年齢に応じたかかわりの変化を具体的に明らかにしながら、保育における子どもとのかかわりの基本と子どもの育ちを促す人間関係、保育の内容、保育者の援助のあり方について解説する。						
到達目標	①子どもの心の育ちとその育ちを支える人の関わりのある方について理解する ②領域人間関係の意義と保育内容について理解する ③人のかかわりを育てる保育のあり方と実践方法について理解する ④保育者としての感性やかかわりのセンス、実践に生かせる力を身に付ける						
授業計画	第1回 保育内容「人間関係」の意義と内容 第2回 乳児期の人間関係と心の育ち 第3回 幼児期の人間関係と心の育ち 第4回 乳児の人間関係と保育 第5回 1、2歳児の人間関係と保育 第6回 3歳児の人間関係と保育 第7回 4歳児の人間関係と保育 第8回 5、6歳児の人間関係と保育 第9回 生活・遊びと人間関係一個の育ちと集団 第10回 多様な人間関係と保育一地域交流 第11回 育ちの気がかりな子どもと人間関係 第12回 豊かな人間関係を育てる保育とその環境 第13回 人とのかかわりを育てる保育者の役割 第14回 人とのかかわりを育てる実践と計画 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	フィールドでの子どもとのかかわり						
授業方法	事例をもとにした演習を行います。事例をもとに、子どもの内面理解と援助、保育の方法やあり方、解釈に関連する理論を説明していきます。また、DVD等を用いて具体的な子どもの姿や保育者の関わりを学んでいきます。						
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 小レポート20点 テスト80点 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行います。						
教科書	寺見陽子編 「子どもの心の育ちと人間関係」 保育出版 2009 プリント配布						
参考書	必要に応じて紹介します。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（表現Ⅰ）						
担当教員	奥村 正子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保育者に求められる音楽的な専門性の探求。						
授業の概要	幼稚園教育要領の目標を達成するための具体的な内容を理解し、領域「表現」のねらいと内容を学ぶ。 幼児の発達に即した総合的な援助・指導が行えるよう、保育計画について学習する。 楽器遊びや、弾き歌いによる指導など、具体的・実践的な音楽技能を習得する。 音楽表現に関わる援助方法を企画し、シミュレーションを行う中で、自らの技能、表現力の拡充を図る。						
到達目標	領域「表現」が示すねらいと内容について説明ができる。幼児の「音楽的な表現」の特性とその発達について、具体的な例をあげて説明することができる。音楽表現に関わる援助方法を企画し、シミュレーションを行う。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明・領域「表現」のねらいと内容 第2回 幼稚園教育における領域「表現」の歴史的変遷 弾き歌い実習1 第3回 幼児期の「うたう」表現活動と発達1 幼児の音楽表現活動の実際の姿（VTR視聴を含む） 第4回 幼児期の「うたう」表現活動と発達2 弾き歌い実習2 第5回 幼児期の「ひく」表現活動と発達 幼児の音楽表現活動の実際の援助の姿（VTR視聴を含む） 第6回 子どもの楽器を使った合奏実習 第7回 幼児期の「きく」「つくる」表現活動と発達 弾き歌い実習3 第8回 幼児期の「うごく」表現活動と発達 第9回 領域「表現」における指導計画・シミュレーション指導案の作成に向けて 第10回 担当学生第1組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第11回 担当学生第2組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第12回 担当学生第3組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第13回 担当学生第4組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第14回 担当学生第5組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	指定したテキストの箇所は、次回までに読んでおくこと。 弾き歌いの課題曲について、各自、平素からよく練習しておくこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点60点（小テスト、保育シミュレーション、レポートの総合） 期末試験 40点 出席回数が授業全体の2/3未満である場合には欠席とし、評価の対象としない。 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。						
教科書	『幼児の音楽教育』音楽教育研究協会編 ISBN4-87136-710-X C3073 （上記の教科書は、一年次に既に購入済）						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（表現I）						
担当教員	奥村 正子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保育者に求められる音楽的な専門性の探求。						
授業の概要	幼稚園教育要領の目標を達成するための具体的な内容を理解し、領域「表現」のねらいと内容を学ぶ。 幼児の発達に即した総合的な援助・指導が行えるよう、保育計画について学習する。 楽器遊びや、弾き歌いによる指導など、具体的・実践的な音楽技能を習得する。 音楽表現に関わる援助方法を企画し、シミュレーションを行う中で、自らの技能、表現力の拡充を図る。						
到達目標	領域「表現」が示すねらいと内容について説明ができる。幼児の「音楽的な表現」の特性とその発達について、具体的な例をあげて説明することができる。音楽表現に関わる援助方法を企画し、シミュレーションを行う。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明・領域「表現」のねらいと内容 第2回 幼稚園教育における領域「表現」の歴史的変遷 弾き歌い実習1 第3回 幼児期の「うたう」表現活動と発達1 幼児の音楽表現活動の実際の姿（VTR視聴を含む） 第4回 幼児期の「うたう」表現活動と発達2 弾き歌い実習2 第5回 幼児期の「ひく」表現活動と発達 幼児の音楽表現活動の実際の援助の姿（VTR視聴を含む） 第6回 子どもの楽器を使った合奏実習 第7回 幼児期の「きく」「つくる」表現活動と発達 弾き歌い実習3 第8回 幼児期の「うごく」表現活動と発達 第9回 領域「表現」における指導計画・シミュレーション指導案の作成に向けて 第10回 担当学生第1組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第11回 担当学生第2組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第12回 担当学生第3組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第13回 担当学生第4組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第14回 担当学生第5組による音楽活動の保育シミュレーションとディスカッション 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	指定したテキストの箇所は、次回までに読んでおくこと。 弾き歌いの課題曲について、各自、平素からよく練習しておくこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点60点（小テスト、保育シミュレーション、レポートの総合） 期末試験 40点 出席回数が授業全体の2/3未満である場合には欠席とし、評価の対象としない。 履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。						
教科書	『幼児の音楽教育』音楽教育研究協会編 ISBN4-87136-710-X C3073 （上記の教科書は、一年次に既に購入済）						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（表現Ⅱ）						
担当教員	奥 美佐子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	乳幼児の造形表現の研究						
授業の概要	乳幼児の造形表現を指導・援助するために必要な理論と実践の方法を学ぶ。造形表現の理念、乳幼児の発達との関係、指導に必要な造形表現の素材・用具・表現技法を身につけ、実践的な造形指導に活用できるように導く。実技や教育・保育現場の資料を通して造形保育を構想し、幼児が主体的に活動できる環境構成や一人ひとりにあった指導・援助について学ぶ。						
到達目標	以下を到達目標とする。 ・乳幼児の造形表現の特徴を解説することができる。 ・身近な環境にある自然や事象から、造形表現の題材を見つけることができ、造形活動のイメージを持つことができる。 ・造形素材、用具、表現技法を選択して、指導案を作成することができる。						
授業計画	第1回 幼児の造形表現の実際と特質・幼稚園教育要領、保育所保育指針「領域表現」の理解 第2回 造形表現が生まれる道筋・乳幼児の造形活動の実際 第3回 乳幼児の造形表現の発達 第4回 幼児と描画材 (1) 多様な描画材と出会う 第5回 幼児と描画材 (2) いろいろな遊び・いろいろな表現 第6回 「もの」とかかわる (1) ものと出会う (感触教材) 第7回 「もの」とかかわる (2) 行為や操作の遊び (紙・粘土) 第8回 五感と描画表現 (1) 音を見つける 第9回 五感と描画表現 (2) 音から色へ 第10回 「領域表現」と保育 第11回 造形活動の指導の原理：保育の構想・環境構成・評価 第12回 造形保育の構想 (1) 指導計画と指導案 第13回 造形保育の構想 (2) 指導案作成と保育の試行 第14回 描いたり造ったりして遊ぶ (2) : ごっこの中の造形 (他領域との関連) 第15回 子どもの造形を読む：造形表現の読み取りと子ども理解						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って授業毎に必要な材料・用具の準備をすること。 授業後学習：各授業のテーマ毎にノートの整理をすること。特に実技的内容の授業回は、経験した実技と指導の関連について整理しておくこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	受講態度・プレゼンテーション等20%、作品・活動に関わるレポート等の提出物40%、指導案・課題レポート40%。意欲・知識・適性の3観点を持って評価する。						
教科書	花篤實、岡田惣吾編著『新造形表現』三晃書房 ISBN978-4-7830-8000-B 幼稚園教育要領 保育所保育指針						
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（表現Ⅱ）						
担当教員	奥 美佐子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	乳幼児の造形表現の研究						
授業の概要	乳幼児の造形表現を指導・援助するために必要な理論と実践の方法を学ぶ。造形表現の理念、乳幼児の発達との関係、指導に必要な造形表現の素材・用具・表現技法を身につけ、実践的な造形指導に活用できるように導く。実技や教育・保育現場の資料を通して造形保育を構想し、幼児が主体的に活動できる環境構成や一人ひとりにあった指導・援助について学ぶ。						
到達目標	以下を到達目標とする。 ・乳幼児の造形表現の特徴を解説することができる。 ・身近な環境にある自然や事象から、造形表現の題材を見つけることができ、造形活動のイメージを持つことができる。 ・造形素材、用具、表現技法を選択して、指導案を作成することができる。						
授業計画	第1回 幼児の造形表現の実際と特質・幼稚園教育要領、保育所保育指針「領域表現」の理解 第2回 造形表現が生まれる道筋・乳幼児の造形活動の実際 第3回 乳幼児の造形表現の発達 第4回 幼児と描画材 (1)多様な描画材と出会う 第5回 幼児と描画材 (2)いろいろな遊び・いろいろな表現 第6回 「もの」とかかわる (1)ものと出会う（感触教材） 第7回 「もの」とかかわる (2)行為や操作の遊び（紙・粘土） 第8回 五感と描画表現 (1)音を見つける 第9回 五感と描画表現 (2)音から色へ 第10回 「領域表現」と保育 第11回 造形活動の指導の原理：保育の構想・環境構成・評価 第12回 造形保育の構想 (1) 指導計画と指導案 第13回 造形保育の構想 (2) 指導案作成と保育の試行 第14回 描いたり造ったりして遊ぶ (2)：ごっこの中の造形（他領域との関連） 第15回 子どもの造形を読む：造形表現の読み取りと子ども理解						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って授業毎に必要な材料・用具の準備をすること。 授業後学習：各授業のテーマ毎にノートの整理をすること。特に実技的内容の授業回は、経験した実技と指導の関連について整理しておくこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	受講態度・プレゼンテーション等20%、作品・活動に関わるレポート等の提出物40%、指導案・課題レポート40%。意欲・知識・適性の3観点を持って評価する。						
教科書	花篤實、岡田惣吾編著『新造形表現』三晃書房 ISBN978-4-7830-8000-B 幼稚園教育要領 保育所保育指針						
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（表現Ⅲ）						
担当教員	倉 真智子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの表現力を読み取り、自らの表現能力を身につける。						
授業の概要	幼児の表現活動は、最も基本的な心の表れである。感じたことや考えたことを素直に身体で表現しようとする。これらを理解するには、学生自身が表現する楽しさや豊かな感性をもつことが重要である。幼児の表現の萌芽を見落とさないためにも、総合的な視点から幼児の表現力を高めるための援助の仕方や指導法、技能の習得をする。また、幼児の動きを見据えての伴奏法についても学ぶ。						
到達目標	学生自身が自らの身体表現能力を養い、生活行動から見える幼児の心の動きを読み取る能力を養う。また、幼児の発達や特性に応じたリズムあそびや指遊び等の指導法をピアノ伴奏も含め習得する。						
授業計画	第1回 保育内容（表現Ⅲ）の授業のねらいと計画 第2回 領域「表現」（保育所保育指針・幼稚園教育要領）の理解 第3回 わらべ歌と身体遊び 第4回 表現活動（身近な生き物や事象） 第5回 表現活動（身近な事象） 第6回 イメージの世界で遊ぶ、ノンバーバルコミュニケーション 第7回 律動運動 第8回 子どもの歌から律動運動への応用 第9回 リズム遊び 第10回 年齢に応じた手遊びの指導法 第11回 手遊び等の模擬保育 ー0～3歳児対象ー 第12回 手遊び等の模擬保育 ー4～5歳児対象ー 第13回 幼児のリズム体操の創作 第14回 幼児のリズムダンスの創作 第15回 リズム体操およびリズムダンスの発表とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	さまざまな場面における幼児の表現活動を、身近な場面において気づき、その意味を読み取れるよう意識しておくこと。また、子どもの歌などに親しんでおくことと授業がより有効になる。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	受講態度(40%)、模擬保育発表(30%)、課題（手遊び本の作成）(20%)、レポート（10%）						
教科書	「簡易伴奏つき 手遊びアラカルト」嵯峨野書院 2016						
参考書	「保育園・幼稚園のうたあそび」 吉津晶子 成美堂出版 「2、3歳児のふれあい歌遊び」 塩野マリ ひかりのくに 「これなら弾けるピアノ伴奏160」 本田玖美子 ナツメ社						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容（表現Ⅲ）						
担当教員	倉 真智子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの表現力を読み取り、自らの表現能力を身につける。						
授業の概要	幼児の表現活動は、最も基本的な心の表れである。感じたことや考えたことを素直に身体で表現しようとする。これらを理解するには、学生自身が表現する楽しさや豊かな感性をもつことが重要である。幼児の表現の萌芽を見落とさないためにも、総合的な視点から幼児の表現力を高めるための援助の仕方や指導法、技能の習得をする。また、幼児の動きを見据えての伴奏法についても学ぶ。						
到達目標	学生自身が自らの身体表現能力を養い、生活行動から見える幼児の心の動きを読み取る能力を養う。また、幼児の発達や特性に応じたリズムあそびや指遊び等の指導法をピアノ伴奏も含め習得する。						
授業計画	第1回 保育内容（表現Ⅲ）の授業のねらいと計画 第2回 領域「表現」（保育所保育指針・幼稚園教育要領）の理解 第3回 わらべ歌と身体遊び 第4回 表現活動（身近な生き物や事象） 第5回 表現活動（身近な事象） 第6回 イメージの世界で遊ぶ、ノンバーバルコミュニケーション 第7回 律動運動 第8回 子どもの歌から律動運動への応用 第9回 リズム遊び 第10回 年齢に応じた手遊びの指導法 第11回 手遊び等の模擬保育 ー0～3歳児対象ー 第12回 手遊び等の模擬保育 ー4～5歳児対象ー 第13回 幼児のリズム体操の創作 第14回 幼児のリズムダンスの創作 第15回 リズム体操およびリズムダンスの発表とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	さまざまな場面における幼児の表現活動を、身近な場面において気づき、その意味を読み取れるよう意識しておくこと。また、子どもの歌などに親しんでおく授業がより有効になる。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	受講態度(40%)、模擬保育発表(30%)、課題（手遊び本の作成）(20%)、レポート（10%）						
教科書	「簡易伴奏つき 手遊びアラカルト」嵯峨野書院 2016						
参考書	「保育園・幼稚園のうたあそび」 吉津晶子 成美堂出版 「2、3歳児のふれあい歌遊び」 塩野マリ ひかりのくに 「これなら弾けるピアノ伴奏160」 本田玖美子 ナツメ社						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容総論／保育内容（表現）						
担当教員	寺見 陽子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保育における保育の内容とその考え方を理解する						
授業の概要	保育所保育の基本と保育の全体構造を理解しながら、保育の内容とは何か、保育のねらいを達成し、具体的な実践を展開するための方法としての保育の内容、その展開、保育の形態、多様な保育ニーズに応じる内容とその実際を考える。						
到達目標	①保育における保育内容とは何か ②保育のねらいと実践の展開－目標達成の手立てとしての保育の内容 ③子どもする経験と保育の内容－子どもの活動と内的経験のとりえ方						
授業計画	第1回 保育所保育の特性と基本 第2回 保育の内容とは 第3回 保育の内容の変遷①－西欧 第4回 保育の内容の変遷②－日本 第5回 保育の内容とその構造①－子どもの発達と保育の内容 第6回 保育の内容とその構造②－領域と内容 第7回 保育の内容と展開①－3歳未満児 第8回 保育の内容と展開②－3歳以上児 第9回 多様な保育の展開とその内容①－乳児保育と長時間保育 第10回 多様な保育の展開とその内容②－一時保育ほか 第11回 保育の計画と実践①－保育課程と指導計画 第12回 保育の計画と実践②－個別計画等 第13回 保育の記録と省察・評価・改善 第14回 保育の内容と小学校との接続 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	保育場に出かけて、保育の実際を理解する機会を積極的にもってください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト 30点 テスト70点						
教科書	保育士養成講座編纂委員会編 「保育内容総論」新保育士養成講座第11巻 全国社会福祉協議会						
参考書	必要に応じて示します。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容総論／保育内容（表現）						
担当教員	寺見 陽子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保育における保育の内容とその考え方を理解する						
授業の概要	保育所保育の基本と保育の全体構造を理解しながら、保育の内容とは何か、保育のねらいを達成し、具体的な実践を展開するための方法としての保育の内容、その展開、保育の形態、多様な保育ニーズに応じる内容とその実際を考える。						
到達目標	①保育における保育内容とは何か ②保育のねらいと実践の展開－目標達成の手立てとしての保育の内容 ③子どもする経験と保育の内容－子どもの活動と内的経験のとりえ方						
授業計画	第1回 保育所保育の特性と基本 第2回 保育の内容とは 第3回 保育の内容の変遷①－西欧 第4回 保育の内容の変遷②－日本 第5回 保育の内容とその構造①－子どもの発達と保育の内容 第6回 保育の内容とその構造②－領域と内容 第7回 保育の内容と展開①－3歳未満児 第8回 保育の内容と展開②－3歳以上児 第9回 多様な保育の展開とその内容①－乳児保育と長時間保育 第10回 多様な保育の展開とその内容②－一時保育ほか 第11回 保育の計画と実践①－保育課程と指導計画 第12回 保育の計画と実践②－個別計画等 第13回 保育の記録と省察・評価・改善 第14回 保育の内容と小学校との接続 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	保育場に出かけて、保育の実際を理解する機会を積極的にもってください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト 30点 テスト70点						
教科書	保育士養成講座編纂委員会編 「保育内容総論」新保育士養成講座第11巻 全国社会福祉協議会						
参考書	必要に応じて示します。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育の心理学／子ども心理Ⅰ（発達心理）／子ども心理Ⅱ（発達心理）						
担当教員	寺見 陽子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	発達理論と乳幼児の発達の理解						
授業の概要	テーマ： ここでは、人間性の育ちの観点から、乳幼児期の子どもの発達について考える。 到達目標： ①乳幼児期の子どもの心の育ちについて理解する。 ②乳幼児を理解し、援助するための発達の視点を学ぶとともに、大人の役割を理解する。 授業の概要： 人間性の育ちの観点から、乳幼児期の子どもの発達について、ワロン、エリクソン、ピアジェの理論を基に学ぶ。人の心はなぜ、どのように芽生え、心の内面を形成していくのか、その過程を理解するとともに、保育や育児の現場における乳幼児の理解のあり方、発達援助のあり方、環境のあり方などについて考える。						
到達目標	発達の基本と乳幼児の発達過程を理解する。						
授業計画	第1回 発達と環境 第2回 ヒトの誕生と生物的基盤の発達 第3回 初期コミュニケーションと心の芽生えー愛着形成と基本的信頼感 第4回 人間性発達の基盤①ー発達課題 第5回 幼児前期の発達ー自我の芽生えと自立 第6回 人間性発達の基盤②ー身体と自我と社会 第7回 幼児中期の発達ー内面世界と自分らしさの形成 第8回 人間性発達の基盤②ー象徴と言葉と思考 第9回 幼児後期の発達①ー自分を見つめる自分の誕生 第10回 幼児後期の発達②ーみんなの中の自分の形成 第11回 人間性発達の基盤③ー心の理論と道徳性の形成 第12回 親子関係と子どもの人格形成 第13回 親の養育性の形成と親子関係 第14回 乳幼児期の発達 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	発達理論を実際の子どもの発達の姿に結び付けて理解できるようにするために、実際の子どもとかかわり、ふれあう経験を日常生活の中で持つようにしてください。また、幼稚園・保育所等での子どもの姿に触れる経験を大切にしてください。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 小レポート20点 テスト80点						
教科書	寺見陽子編 「子どもの保育と心理学」保育出版 2003						
参考書	必要に応じて示します。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	養護内容演習						
担当教員	塚元 重範						
学期	後期 前半	曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	社会的養護を必要とする子どもの現状と援助の実際を通して、施設養護の専門性と子どもの理解、専門的なかわり方を学ぶ。						
授業の概要	児童福祉施設の役割や援助の実際を知り、施設に入所している子どもやその保護者、家族のこころの理解や基本的な対応を学ぶとともに適切な対応方法や対応の留意点を考える。						
到達目標	児童福祉施設の役割と援助の実際を理解する。 児童福祉施設に入所している子どもやその家族の心を理解し、施設職員としての役割や技術を理解する。						
授業計画	第1回：オリエンテーション、児童の社会的養護の現状と施設入所の意義 第2回：施設養護と里親 第3回：養護内容の実践領域1（健康、食事、排泄等） 第4回：養護内容の実践領域2（衣服の着脱、清潔、睡眠等） 第5回：児童養護施設の子どもの特徴と子どもの心の理解 第6回：子どもの問題行動とその対応（他職種との連携） 第7回：発達課題と子どもへの指導の留意点 第8回：援助指針と支援計画、親・家族への関わりと支援 第9回：まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から社会的養護に関心を持ち、児童養護や児童福祉施設に関連する新聞記事などを読んで、問題点などを考えるようにしてください。						
授業方法	講義とグループ討議 演習						
評価基準と評価方法	平常点 20% 小レポート 30% 試験 50%						
教科書	随時、資料を配布						
参考書	基本保育シリーズ18 「社会的養護内容」 監修 公益財団法人児童育成協会 中央法規 児童の福祉を支える 演習「社会的養護内容」 編著 吉田眞理 萌文書林						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	養護内容演習						
担当教員	塚元 重範						
学期	後期 前半	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	社会的養護を必要とする子どもの現状と援助の実際を通して、施設養護の専門性と子どもの理解、専門的なかわり方を学ぶ。						
授業の概要	児童福祉施設の役割や援助の実際を知り、施設に入所している子どもやその保護者、家族のこころの理解や基本的な対応を学ぶとともに適切な対応方法や対応の留意点を考える。						
到達目標	児童福祉施設の役割と援助の実際を理解する。 児童福祉施設に入所している子どもやその家族の心を理解し、施設職員としての役割や技術を理解する。						
授業計画	第1回：オリエンテーション、児童の社会的養護の現状と施設入所の意義 第2回：施設養護と里親 第3回：養護内容の実践領域1（健康、食事、排泄等） 第4回：養護内容の実践領域2（衣服の着脱、清潔、睡眠等） 第5回：児童養護施設の子どもの特徴と子どもの心の理解 第6回：子どもの問題行動とその対応（他職種との連携） 第6回：発達課題と子どもへの指導の留意点 第7回：援助指針と支援計画、親・家族への関わりと支援 第8回：まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から社会的養護に関心を持ち、児童養護や児童福祉施設に関連する新聞記事などを読んで、問題点などを考えるようにしてください。						
授業方法	講義とグループ討議 演習						
評価基準と評価方法	平常点 20% 小レポート 30% 試験 50%						
教科書	随時、資料を配布						
参考書	基本保育シリーズ18 「社会的養護内容」 監修 公益財団法人児童育成協会 中央法規 児童の福祉を支える 演習「社会的養護内容」 編著 吉田眞理 萌文書林						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	幼児体育						
担当教員	倉 真智子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	幼稚園、保育所、認定こども園における発達の理解と運動遊び指導のありかたについて学ぶ。						
授業の概要	乳幼児期は遊びながら、身体運動の領域、認知的な領域、情緒・社会性の領域など、人間の発達側面を相互に関連させながら発達していく。運動機能は、外界からさまざまな刺激を受けることで身につけていくが、神経系、筋、骨格系、循環器系等それぞれの発達の総合として捉えられる。幼児期の運動は、基本的運動の段階で、自分の身体操作（安定性、移動操作）や身体以外の物の操作動作がある。この時期に獲得する能力は、これから先の身体運動の習熟に大きな影響を及ぼすと考えられる。単に量的な発達だけでなく、質的な発達の変化を捉えなければならない。それらを踏まえ、指導する実践力を身につける。						
到達目標	乳幼児期における運動遊びの重要性や意義を十分に理解し、年齢に応じた発達を踏まえ、適切な援助や指導ができるようにする。また、実習時においても指導計画が立てられるようになることを目標とする。						
授業計画	第1回 乳幼児における運動遊びの理解 第2回 年齢別発達について 第3回 指導計画の立て方 第4回 指導計画の作成 第5回 フープを用いた遊びの展開 第6回 ボールを用いた遊びの展開 第7回 なわを用いた遊びの展開 第8回 マットを用いた遊びの展開 第9回 跳び箱を用いた遊びの展開 第10回 平均台を用いた遊びの展開 第11回 鬼遊び 第12回 身近な素材を用いた遊び 第13回 廃材を用いた遊び 第14回 模擬保育における他者評価 第15回 自己評価とレポート及び授業のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	保育の実際に触れておくと発達や心の在り方が理解できるので、できるだけボランティアなどを経験することが望ましい。また、書物などでも遊びの種類を学習しておくこと。						
授業方法	演習 指導計画を立案し、模擬保育指導を行う。その後はグループごとに指導計画と実践についての反省や課題を話し合い今後につなげていけるようにする。						
評価基準と評価方法	平常点 50% 指導計画・模擬保育指導 30% レポート20%						
教科書	「子どもが育つ運動遊び」みらい 2016						
参考書	「遊びの指導」幼少年教育研究所 同文書院 「0～5歳児の運動遊び百貨」前橋明 ひかりのくに						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	幼児体育						
担当教員	倉 真智子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	幼稚園、保育所、認定こども園における発達の理解と運動遊び指導のありかたについて学ぶ。						
授業の概要	乳幼児期は遊びながら、身体運動の領域、認知的な領域、情緒・社会性の領域など、人間の発達側面を相互に関連させながら発達していく。運動機能は、外界からさまざまな刺激を受けることで身につけていくが、神経系、筋、骨格系、循環器系等それぞれの発達の総合として捉えられる。幼児期の運動は、基本的運動の段階で、自分の身体操作（安定性、移動操作）や身体以外の物の操作動作がある。この時期に獲得する能力は、これから先の身体運動の習熟に大きな影響を及ぼすと考えられる。単に量的な発達だけでなく、質的な発達の変化を捉えなければならぬ。それらを踏まえ、指導する実践力を身につける。						
到達目標	乳幼児期における運動遊びの重要性や意義を十分に理解し、年齢に応じた発達を踏まえ、適切な援助や指導ができるようにする。また、実習時においても指導計画が立てられるようになることを目標とする。						
授業計画	第1回 乳幼児における運動遊びの理解 第2回 年齢別発達について 第3回 指導計画の立て方 第4回 指導計画の作成 第5回 フープを用いた遊びの展開 第6回 ボールを用いた遊びの展開 第7回 なわを用いた遊びの展開 第8回 マットを用いた遊びの展開 第9回 跳び箱を用いた遊びの展開 第10回 平均台を用いた遊びの展開 第11回 鬼遊び 第12回 身近な素材を用いた遊び 第13回 廃材を用いた遊び 第14回 模擬保育における他者評価 第15回 自己評価とレポート及び授業のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	保育の実際に触れておくと発達や心の在り方が理解できるので、できるだけボランティアなどを体験することが望ましい。また、書物などでも遊びの種類を学習しておくこと。						
授業方法	演習 指導計画を立案し、模擬保育指導を行う。その後はグループごとに指導計画と実践についての反省や課題を話し合い今後につなげていけるようにする。						
評価基準と評価方法	平常点 50% 指導計画・模擬保育指導 30% レポート20%						
教科書	「子どもが育つ運動遊び」みらい 2016						
参考書	「遊びの指導」幼少年教育研究所 同文書院 「0～5歳児の運動遊び百貨」前橋明 ひかりのくに						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	理科学研究						
担当教員	内田 祐貴						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校における理科教育について、その内容構成、指導方法の基礎的な知識技術を習得する。						
授業の概要	学習指導要領における理科の目標とその趣旨、「エネルギー、粒子」、「生命、地球」の各領域について教材の構成と指導方法について学習する。特に、小学校理科を教えるにあたり、指導計画や指導案の作り方、授業時の指導方法、実験授業の方法など、基礎基本となる事柄を取り扱う。また、授業中にも実験を行い、実験の基本的操作を身に付けられるようにする。						
到達目標	・ 小学校理科の基本的指導方法の知識技術を習得する						
授業計画	第01回 理科学研究について 第02回 理科の指導方法とは 第03回 実験指導と理科の評価 第04回 理科の構造（生命 第3学年、第4学年） 第05回 理科の構造（生命 第5学年、第6学年） 第06回 発表と検討（生命）理科の構造（地球 全学年） 第07回 理科の構造（地球 全学年） 第08回 発表と検討（地球） 第09回 理科の構造（エネルギー 第3学年、第4学年） 第10回 理科の構造（エネルギー 第5学年、第6学年） 第11回 発表と検討（エネルギー） 第12回 理科の構造（粒子 第3学年、第4学年） 第13回 理科の構造（粒子 第5学年、第6学年） 第14回 発表と検討（粒子） 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	発表のための調べ学習						
授業方法	講義、実験、グループワーク、発表						
評価基準と評価方法	定期試験と発表を主資料(60)として、授業への取り組みの姿勢(40)も加味する。						
教科書	「わくわく理科3～6」（小学校理科教科書3学年～6学年用）、平成27年版、啓林館						
参考書	「小学校学習指導要領解説 理科編—平成20年8月」、文部科学省、大日本図書、ISBN-13：978-4477019499						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	理科学研究						
担当教員	内田 祐貴						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校における理科教育について、その内容構成、指導方法の基礎的な知識技術を習得する。						
授業の概要	学習指導要領における理科の目標とその趣旨、「エネルギー、粒子」、「生命、地球」の各領域について教材の構成と指導方法について学習する。特に、小学校理科を教えるにあたり、指導計画や指導案の作り方、授業時の指導方法、実験授業の方法など、基礎基本となる事柄を取り扱う。また、授業中にも実験を行い、実験の基本的操作を身に付けられるようにする。						
到達目標	・ 小学校理科の基本的指導方法の知識技術を習得する						
授業計画	第01回 理科学研究について 第02回 理科の指導方法とは 第03回 実験指導と理科の評価 第04回 理科の構造（生命 第3学年、第4学年） 第05回 理科の構造（生命 第5学年、第6学年） 第06回 発表と検討（生命）理科の構造（地球 全学年） 第07回 理科の構造（地球 全学年） 第08回 発表と検討（地球） 第09回 理科の構造（エネルギー 第3学年、第4学年） 第10回 理科の構造（エネルギー 第5学年、第6学年） 第11回 発表と検討（エネルギー） 第12回 理科の構造（粒子 第3学年、第4学年） 第13回 理科の構造（粒子 第5学年、第6学年） 第14回 発表と検討（粒子） 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	発表のための調べ学習						
授業方法	講義、実験、グループワーク、発表						
評価基準と評価方法	定期試験と発表を主資料(60)として、授業への取り組みの姿勢(40)も加味する。						
教科書	「わくわく理科3～6」（小学校理科教科書3学年～6学年用）、平成27年版、啓林館						
参考書	「小学校学習指導要領解説 理科編—平成20年8月」、文部科学省、大日本図書、ISBN-13：978-4477019499						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	理科指導法						
担当教員	内田 祐貴						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	理科を好きな教員になる。						
授業の概要	小学校理科の学習内容、指導方法を、模擬授業などの実践的演習をすることにより、身に付ける。 前期「理科研究」で学習した理科指導の知識技術が、小学校の45分間の授業内で、どのように使えば、 児童が理科を好きになる授業を行えるのかを、模擬授業を通して考える。						
到達目標	・小学校における理科教育を理解する。 ・理科の模擬授業ができる(教材分析、授業計画、指導案、話し方、板書、様々な場面での対応、 形成的評価、危険防止、実験指導等を含む)。						
授業計画	第01回 ガイダンス 理科を教えるということ 第02回 授業展開と指導の方法 第03回 3学年「生命・地球」の学習と模擬授業実習 第04回 3学年「粒子・エネルギー」の学習と模擬授業実習 第05回 4学年「生命・地球」の学習と模擬授業実習 第06回 4学年「粒子・エネルギー」の学習と模擬授業実習 第07回 まとめ1 第08回 5学年「生命・地球」の学習と模擬授業実習 第09回 5学年「エネルギー」の学習と模擬授業実習 第10回 5学年「粒子」の学習と模擬授業実習 第11回 6学年「生命」の学習と模擬授業実習 第12回 6学年「粒子」の学習と模擬授業実習 第13回 6学年「エネルギー」の学習と模擬授業実習 第14回 6学年「地球」の学習と模擬授業実習 第15回 まとめ2 模擬授業実習のなかに、グループ指導演習とTT指導演習を含みます。						
授業外における学習（準備学習の内容）	模擬授業の準備						
授業方法	講義とグループワークと実習						
評価基準と評価方法	模擬授業と提出物を主資料(60)として、授業への取り組みの姿勢(40)も加味する。						
教科書	「わくわく理科3～6」（小学校理科教科書3学年～6学年用）、平成27年版、啓林館						
参考書	「小学校学習指導要領解説 理科編—平成20年8月」、文部科学省、大日本図書、ISBN-13: 978-4477019499						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	レクリエーション概論						
担当教員	倉 真智子						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	レクリエーション活動の援助法と実践						
授業の概要	レクリエーションのもつ意味を歴史などから正しく理解する。レクリエーションはただ単に遊ぶことや楽しむことではなく、個人の生活の質の向上や社会生活や職場でのモラル向上の意味もある。さらに、レクリエーションは子どもから高齢者までの生活のあり方を意味することを理解する必要がある。授業においては、レクリエーション計画の立て方を学び、個人や集団においてコミュニケーションスキルを身につけ、理論に基づいた実践する能力を養う。						
到達目標	日常生活に活かせるレクリエーション指導や集団での事業計画と実践力を学び、コミュニケーション感覚を身につけることを目標とする。						
授業計画	1. レクリエーションの理解と歴史 2. レクリエーションのもつ意味 3. 社会福祉とレクリエーション 4. 事業計画の立て方 ―社会・児童に向けて― 5. 事業計画の立て方 ―幼稚園・保育所の場合― 6. レクリエーション計画 ― KJ法を活用して ― 7. レクリエーション計画の実践をイメージする 8. レクリエーション計画の実行 9. 実践のふりかえり 10. コミュニケーションゲーム ―アイスブレイキング― 11. コミュニケーションワーク 12. ニュースポーツ ―グランドゴルフ・パターゴルフ― 13. ニュースポーツ ―ファミリーバトミントン― 14. ニュースポーツ ―ユニホック・ソフトバレー― 15. 安全とレクリエーション活動援助のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	できるだけ、活動の場に足を運んで実体験する機会をもって臨むことを期待します。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点40%、課題等40%、レポート20%						
教科書	特に指定はしないが適宜資料を配布する						
参考書	「レクリエーション支援の基礎」日本レクリエーション協会編 その他は適宜紹介する。						